

**安城市地域福祉計画策定のための
「市民」アンケート調査
報告書(案)**

未定稿

(H30. 3. 22 時点)

平成30年3月

安城市 社会福祉課

目 次

序 調査の概要	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査対象及び調査方法	1
(3) 調査票の回収状況	1
(4) グラフの見方	1
1 回答者の属性	2
(1) 性別 (問 1)	2
(2) 年齢 (問 2)	3
(3) 職業 (問 3)	5
(4) 結婚の有無 (問 4)	7
(5) 同居の人数 (問 5 (1))	9
(6) 子どもや高齢者などの同居人の有無 (問 5 (2))	10
(7) 世帯のタイプ (問 5 (3))	11
(8) 世帯の収入 (問 6)	13
(9) 住まいについて (問 7)	16
(10) 居住年数 (問 8)	18
(11) 居住地区 (中学校区) (問 9)	21
2 福祉に関する意識について	22
(1) 福祉との関わり (問 10)	22
(2) 福祉に関する情報入手の程度 (問 12)	23
(3) 知りたい福祉に関する情報内容 (問 11)	26
(4) 福祉に関する情報の入手先 (問 13)	28
(5) 充実してほしい情報発信手段 (問 14)	31
3 日常生活、将来の暮らしについて	33
(1) 近所づきあいの程度 (問 15)	33
(2) 地域での付き合いの満足度 (問 16)	36
(3) 望ましい地域での付き合いの程度 (問 17)	40
(4) 近所からの頼みごとの有無 (問 18)	44
(5) 具体的な手伝いの内容 (問 18-1)	47
(6) 今後における近所づきあいの程度 (問 19)	50
(7) 毎日の暮らしにおける悩みや不安・10年後の悩みや不安 (問 20、問 21)	53
(8) 家族、親族以外の相談相手 (問 22)	58
(9) 困っている世帯にできること (問 23)	61
(10) 地域の人たちに支援してほしい事項 (問 24)	65
(11) 困ったときに頼りになる知人・友人の有無 (問 25)	69
4 地域活動、ボランティア活動について	76
(1) 地域行事等への参加 (問 26)	76
(2) 参加している活動団体の行事 (問 26-1)	79
(3) 地域福祉活動等への関わり (問 27)	80
(4) 地域福祉活動等への参加意向 (問 27-1)	83
(5) 今後、充実すべき地域福祉活動 (問 28)	85
(6) 福祉活動をする上でほしい対価 (問 29)	87
(7) 福祉活動を依頼する上で支払う対価 (問 30)	89
(8) 高齢期の過ごし方 (問 31)	92

5 町内福祉委員会について.....	94
(1) 町内福祉委員会の認知度 (問 32)	94
(2) 町内福祉委員会への関わり (問 32-1)	97
(3) 町内福祉委員会活動への参加意向 (問 33)	98
(4) 参加したくない理由 (問 33-1)	100
6 社会福祉協議会、地区社会福祉協議会（地区社協）について.....	101
(1) 社会福祉協議会の認知度 (問 34)	101
(2) 地区社会福祉協議会の認知度 (問 35)	104
(3) 地域包括支援センターの認知度 (問 36)	107
7 今後の行政等による地域福祉施策について.....	109
(1) 今後、優先すべき地域福祉関連施策 (問 37)	109
調査票	113

序 調査の概要

(1) 調査の目的

平成25年度に策定した「第3次安城市地域福祉計画」の改定にあたっての基礎資料として活用するため、市民の福祉に関する意識、現在や将来の暮らしの課題、地域福祉活動等の取組実態や意向等を明らかにすることを目的に実施したものです。

(2) 調査対象及び調査方法

①調査対象

- ・住民基本台帳から無作為に選んだ18歳以上の市民3,000人

②調査方法

- ・郵送による配布・回収

③調査実施時期

- ・平成29年11月21日（火）～12月6日（水）
- ・なお、締切日以降に返送されてきた調査票についても可能な限り集計に加えています。

(3) 調査票の回収状況

- ・回収状況は以下のとおりです。

表-1 回収状況

A : 配布数	B : 有効回収数	C : 有効回収率 (%) $C = B / A \times 100$
3,000	1,244	41.5%

(4) グラフの見方

- ・グラフは、原則として単数回答は帯グラフ、複数回答は横棒グラフやダンゴ形のグラフを用いて表現しています。基数となる実数（各設問の回答者数）はnとして掲載し、各グラフの構成比（%）はnを母数とした割合を示しています。
- ・図中の構成比（%）は、複数回答、単数回答ともに、小数点以下第2位を四捨五入しています。その関係で合計は必ずしも100.0%にはなりません。
- ・一部のグラフにおいては、「回答なし」は省略してあります。また、設問のカテゴリー（選択肢）などの表現は、一部省略してある場合があります。

1 回答者の属性

(1) 性別 (問1)

問1 あなたの性別をお答えください。(○は1つだけ)

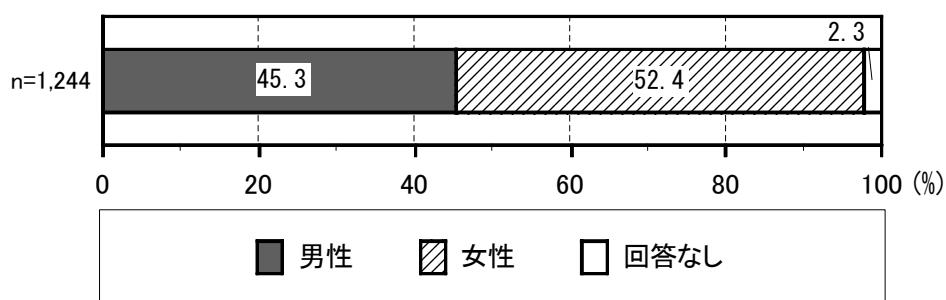
要点

女性からの回答が男性からの回答を7.1ポイント上回っています。

全体

○「女性」が52.4%、「男性」が45.3%で、女性からの回答が男性のそれを7.1ポイント上回っています(図1-1)。

図1-1 「性別」



(2) 年齢 (問2)

問2 あなたの年齢についてお答えください。(平成29年10月1日現在の満年齢)

(○は1つだけ)

要点

「40歳代」が17.8%と最も多いものの、65歳以上の高齢者が36.4%を占めています。男性の方が、やや年齢層の高い方の割合が多くなっています。

全体

○「40歳代」が17.8%と最も多く、次いで、「50歳代」(15.1%)が多くなっています。

○65歳以上の高齢者が36.4%を占め、実際の人口構成割合よりも多くなっています(図1-2-1)。

性別

○65歳以上の高齢者の占める割合は、男性が38.7%であるのに対して、女性が33.9%と、男性の方が多くなっています(図1-2-2)。

図1-2-1 「年齢」

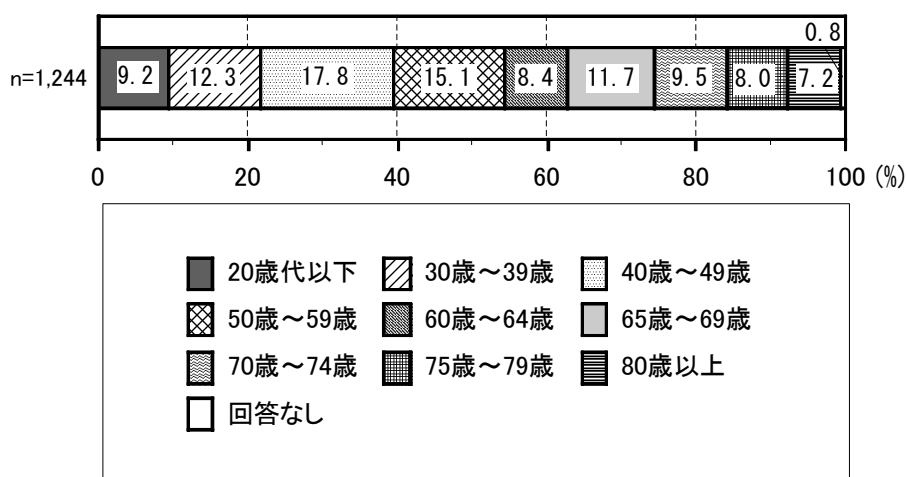
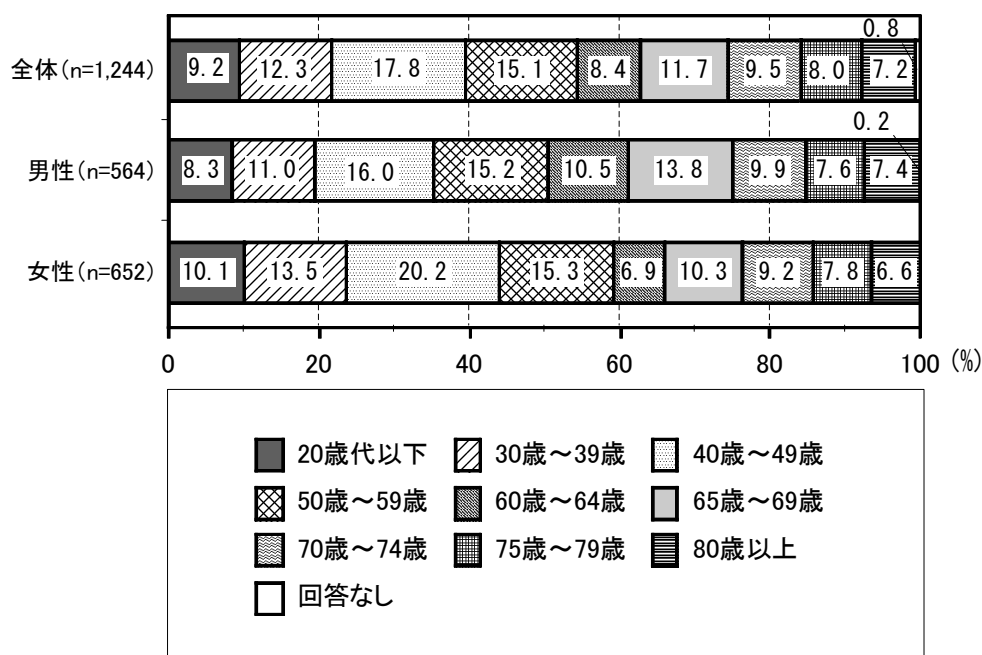
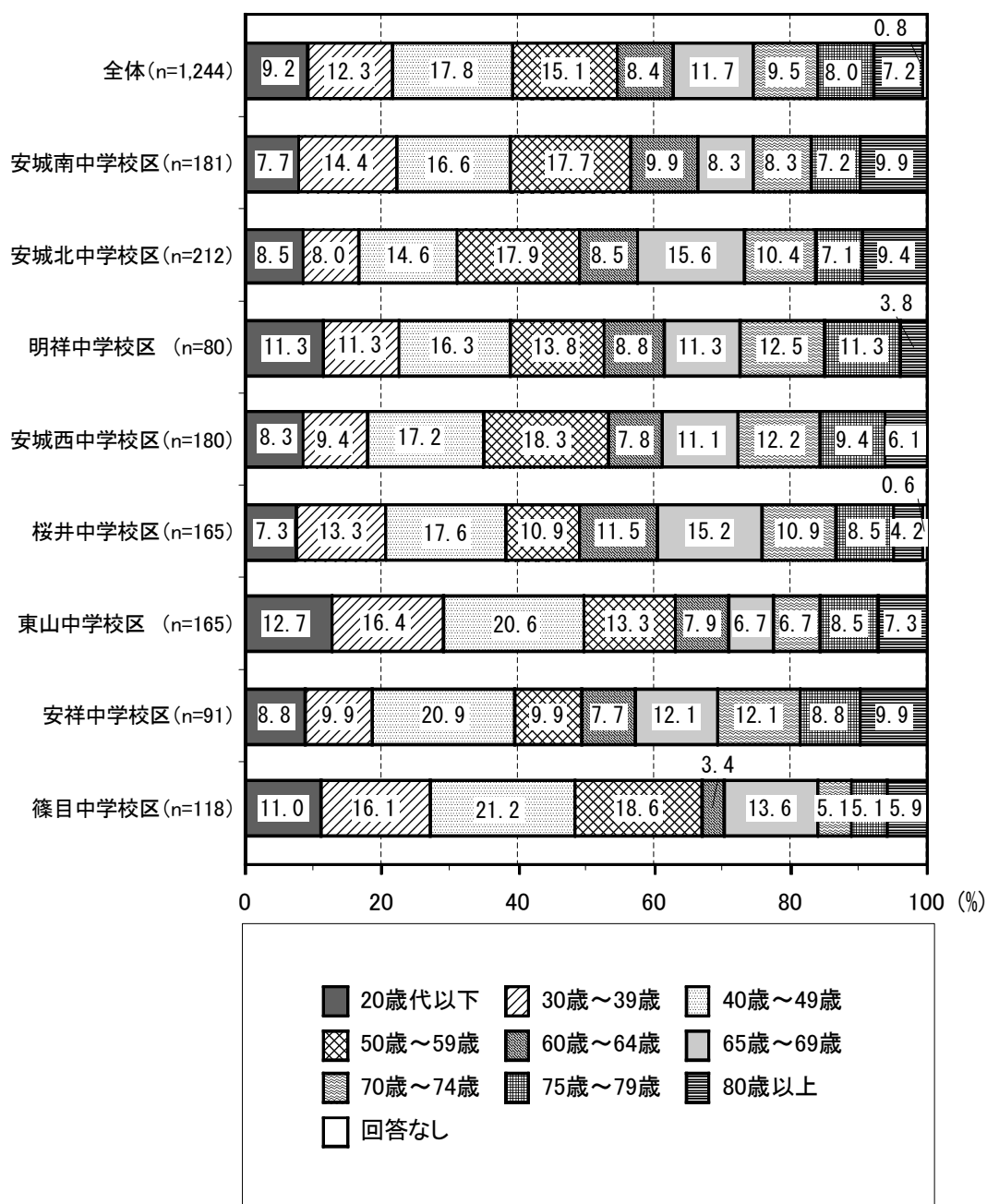


図1-2-2 性別「年齢」



○65 歳以上の高齢者の占める割合は、安祥中学校区（42.9%）と安城北中学校区（42.5%）とで多い一方で、東山中学校区（29.2%）と篠目中学校区（29.7%）で少なくなっています（図 1-2-3）。

図 1-2-3 中学校区別「年齢」



(3) 職業 (問3)

問3 あなたのお仕事についてお答えください。(○は1つだけ)

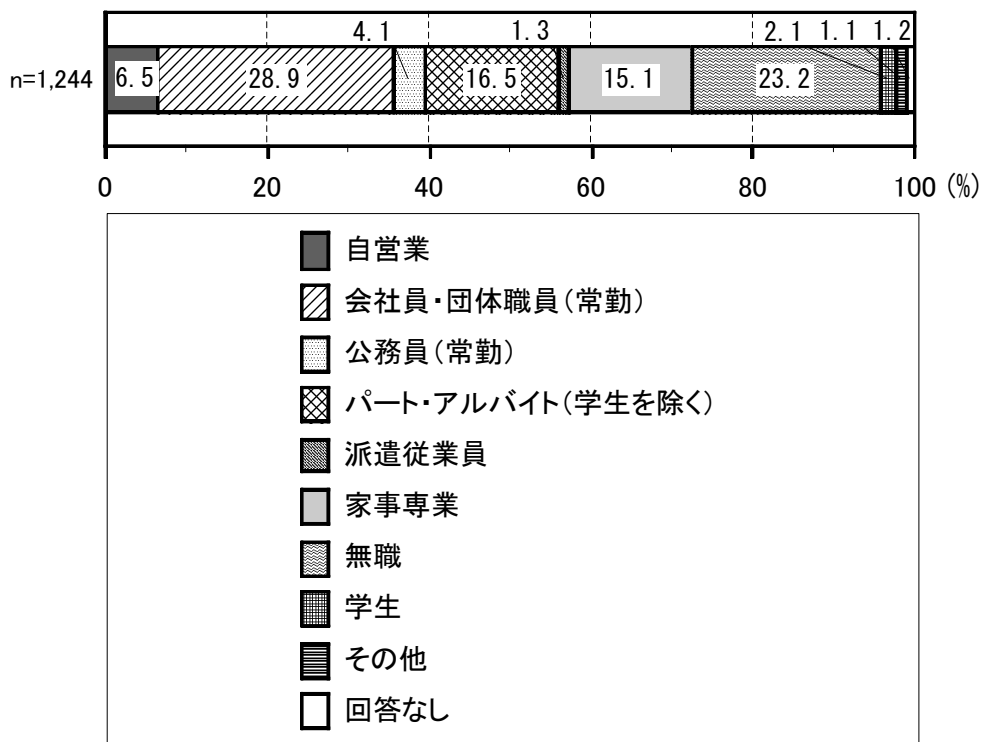
要点

「勤め人」が半数以上 (50.8%) を占める一方で、無職も2割以上 (23.2%) を占めており、少なくありません。働き盛りの30～50歳代では勤め人が7割以上を占めています。

全体

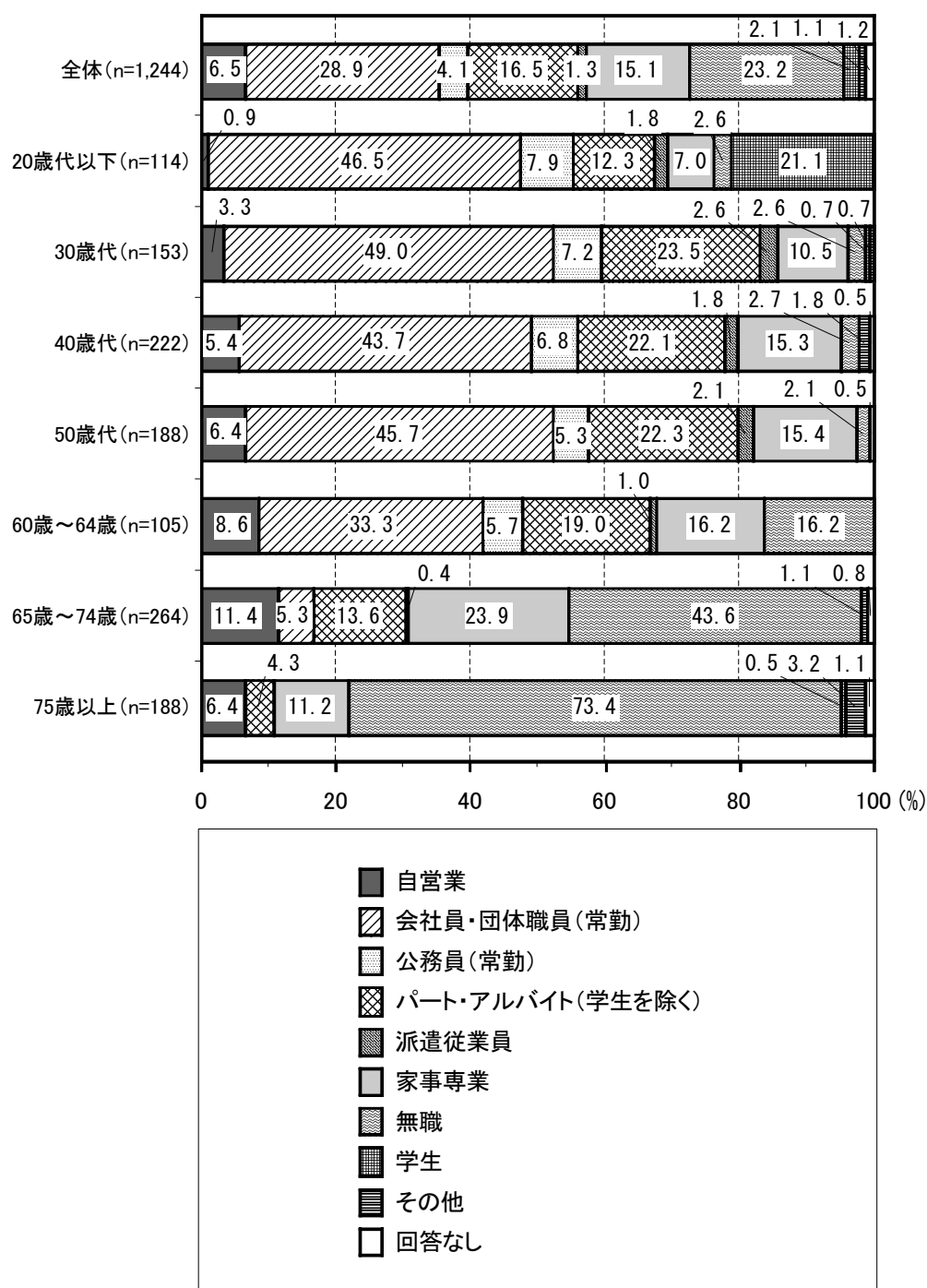
- 「会社員・団体職員(常勤)」が28.9%で最も多く、「パート・アルバイト(学生を除く)」(16.5%)と「公務員(常勤)」(4.1%)を加えると50.8%を占めており、過半数が勤め人となっています。
- 「自営業」は6.5%、「専業主婦・専業主夫」は15.1%、「無職」は23.2%、「学生」は2.1%となっています(図1-3-1)。

図1-3-1 「職業」



- 20 歳代以下では、「会社員・団体職員（常勤）」が最も多いものの、「学生」が 21.1%と他の年齢層に比べて多くを占めていることが特徴としてみられます。
- 30 歳代、40 歳代、50 歳代では、「勤め人」（「会社員・団体職員（常勤）」＋「公務員（常勤）」＋「パート・アルバイト（学生を除く）」＋「派遣従業員」）が、それぞれ 82.3%、74.4%、75.4% となっており、いずれも 7 割以上を占めています。
- 65 歳～74 歳では、「無職」が 43.6%、「家事専業」が 23.9%を占め多く、さらに 75 歳以上（後期高齢者）になると、「無職」が 73.4%を占めています（図 1-3-2）。

図 1-3-2 年齢別「職業」



(4) 結婚の有無 (問4)

問4 あなたは結婚していますか。(○は1つだけ)

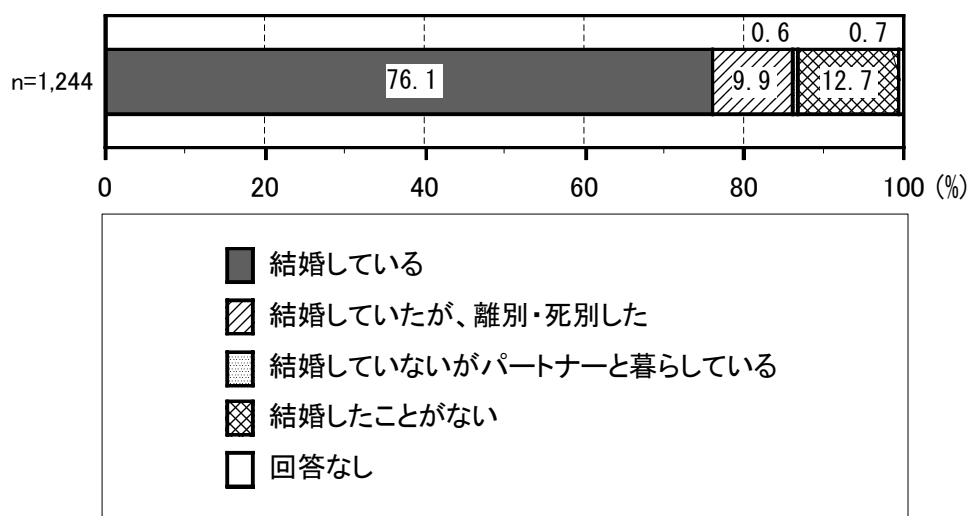
要点

「結婚している」が7割以上(76.1%)を占めています。「結婚したことがない」(結婚未経験者)は特に20歳代以下で7割近くを占め多いものの、40歳代や50歳代、60歳～64歳においても7～9%程度みられます。

全体

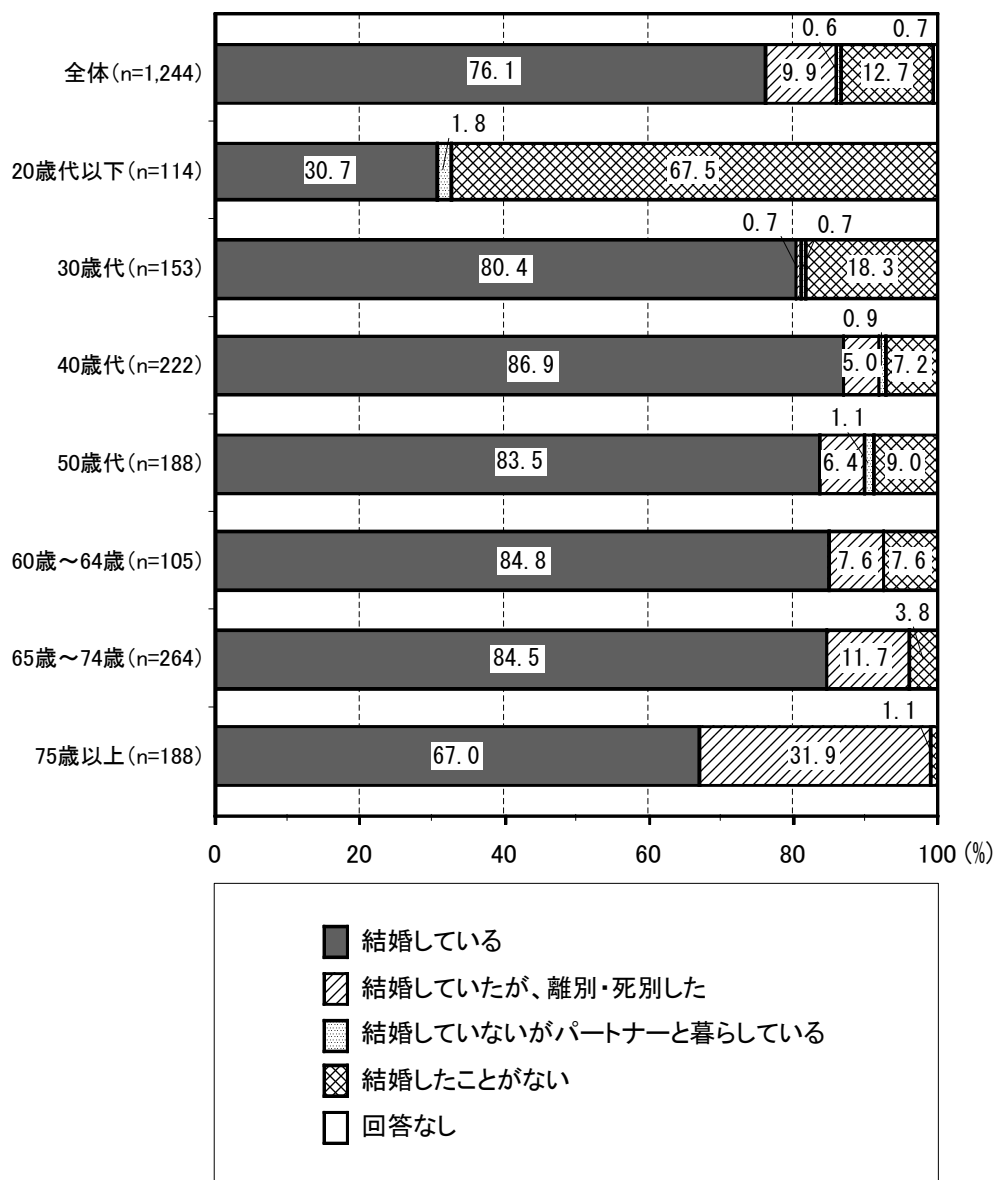
○「結婚している」が76.1%を占め、最も多くなっています。次いで多いのは、「結婚したことがない」(12.7%)となっています(図1-4-1)。

図1-4-1 「結婚の有無」



- 「結婚したことがない」（結婚未経験者）は、20歳代以下で67.5%を占め多いですが、40歳代、50歳代、60歳～64歳においても、それぞれ7.2%、9.0%、7.6%みられます。
- 75歳以上になると、「結婚していたが、離別・死別した」（31.9%）の割合が多くなっています（図1-4-2）。

図1-4-2 年齢別 「結婚の有無」



(5) 同居の人数 (問5 (1))

問5 (1) あなたと同居している人は、あなたを含めて何人ですか。(○は1つだけ)

要点

「2人」が26.2%と最も多くなっています。40歳代以降、年齢が高くなるにしたがって「単身」や「2人」の割合が多くなる傾向がみられます。

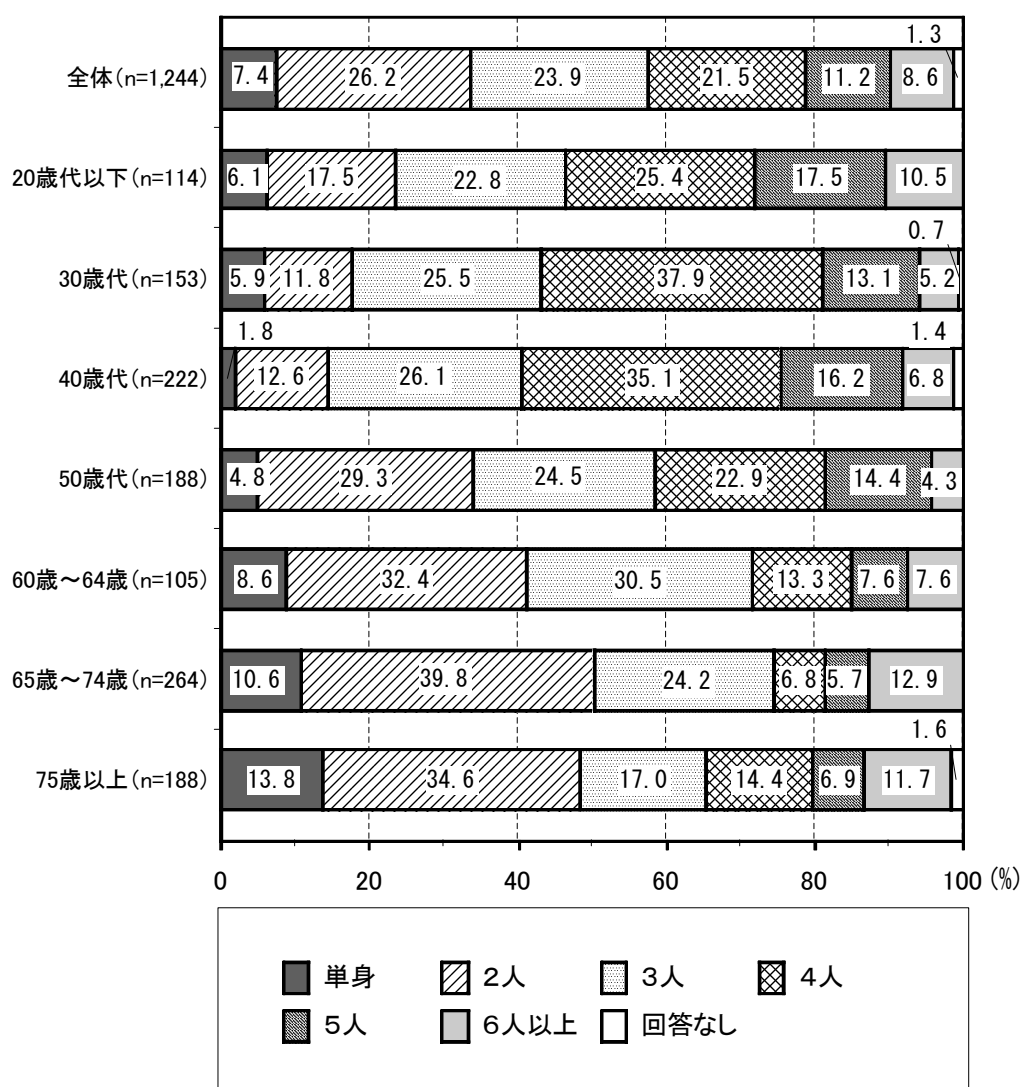
全体

○「2人」が26.2%と最も多くなっており、次いで、「3人」(23.9%)、「4人」(21.5%)、「5人」(11.2%)、「6人」(8.6%)、「単身」(7.4%)という順で多くなっています。

年齢別

○40歳代以降、年齢が高くなるにしたがって「単身」が増加し、75歳以上の後期高齢者では、13.8%と最も多くの割合を占めています。また、「2人」も概ね同様の傾向がみられます(図1-5-1)。

図1-5-1 年齢別「同居の人数」



(6) 子どもや高齢者などの同居人の有無（問5（2））

問5（2） あなたの世帯では、どのような方が同居されていますか。（あてはまるものすべてに○）

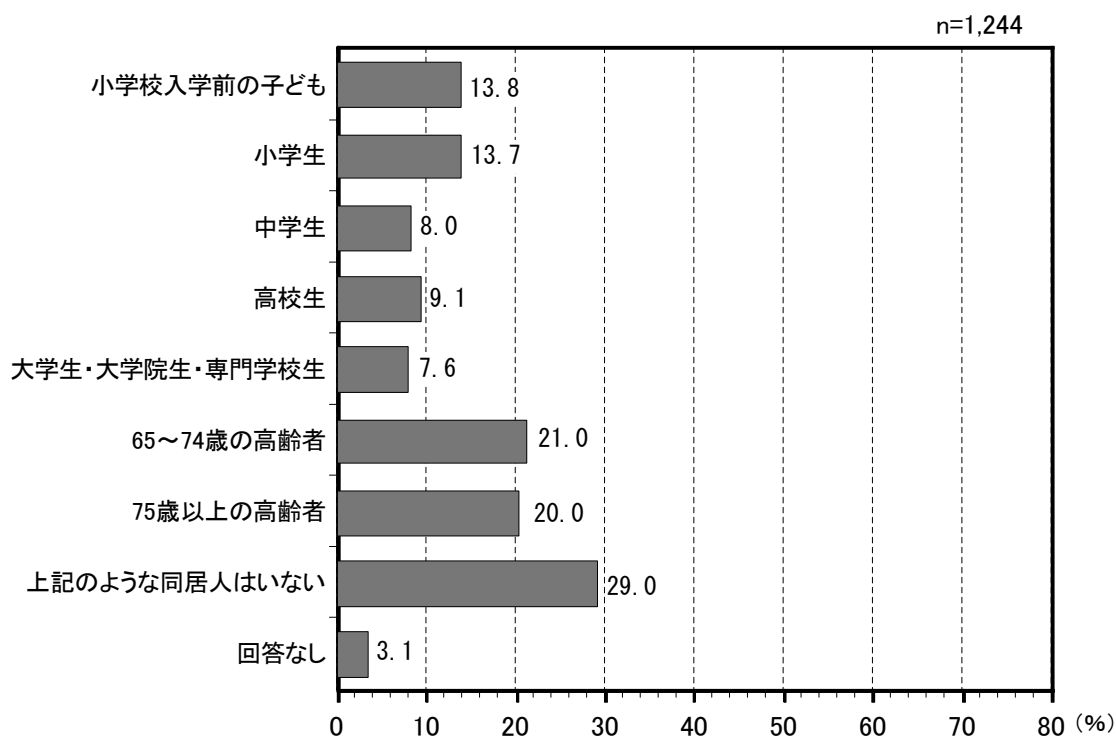
要点

自分も含めて、「65～74 歳の高齢者」がいる世帯は 21.0%、「75 歳以上の高齢者」（後期高齢者）がいる世帯は 20.0%となっています。

全体

○自分も含めて、子ども（大学生・大学院生・専門学校生も含む）や高齢者が「いない」という世帯は、29.0%を占めています。これと「回答なし」（3.1%）を除く、残りの 67.9%の世帯では、子ども（大学生・大学院生・専門学校生も含む）や高齢者のいずれかの同居人がいます。
○具体的には、「65～74 歳の高齢者」（前期高齢者）がいる世帯が 21.0%、「75 歳以上の高齢者」（後期高齢者）がいる世帯が 20.0%となっています（図 1-6）。

図 1-6 「同居人について」



(7) 世帯のタイプ (問5 (3))

問5 (3) あなたの世帯のタイプは次のうちどれに該当しますか。(○は1つだけ)

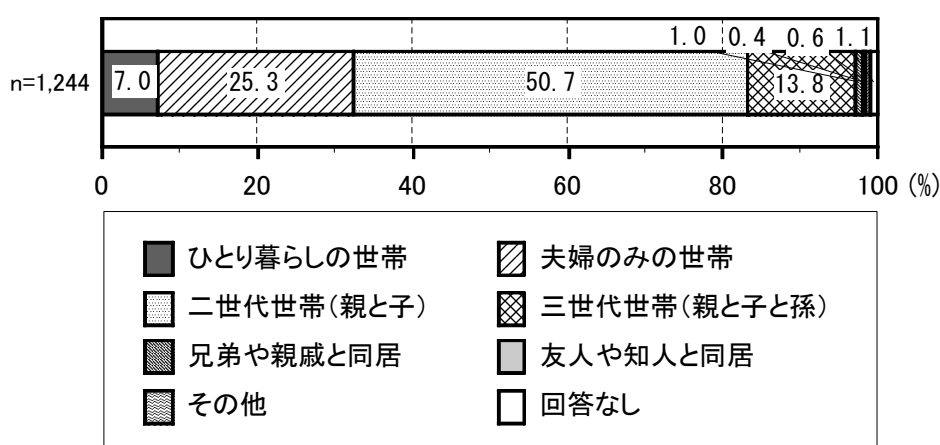
要点

「二世帯世帯（親と子）」が5割を占め、最も多くなっています。40歳代以降、年齢が高くなるにしたがって「ひとり暮らし世帯」や「夫婦のみの世帯」の割合が概ね増加する傾向がみられます。

全体

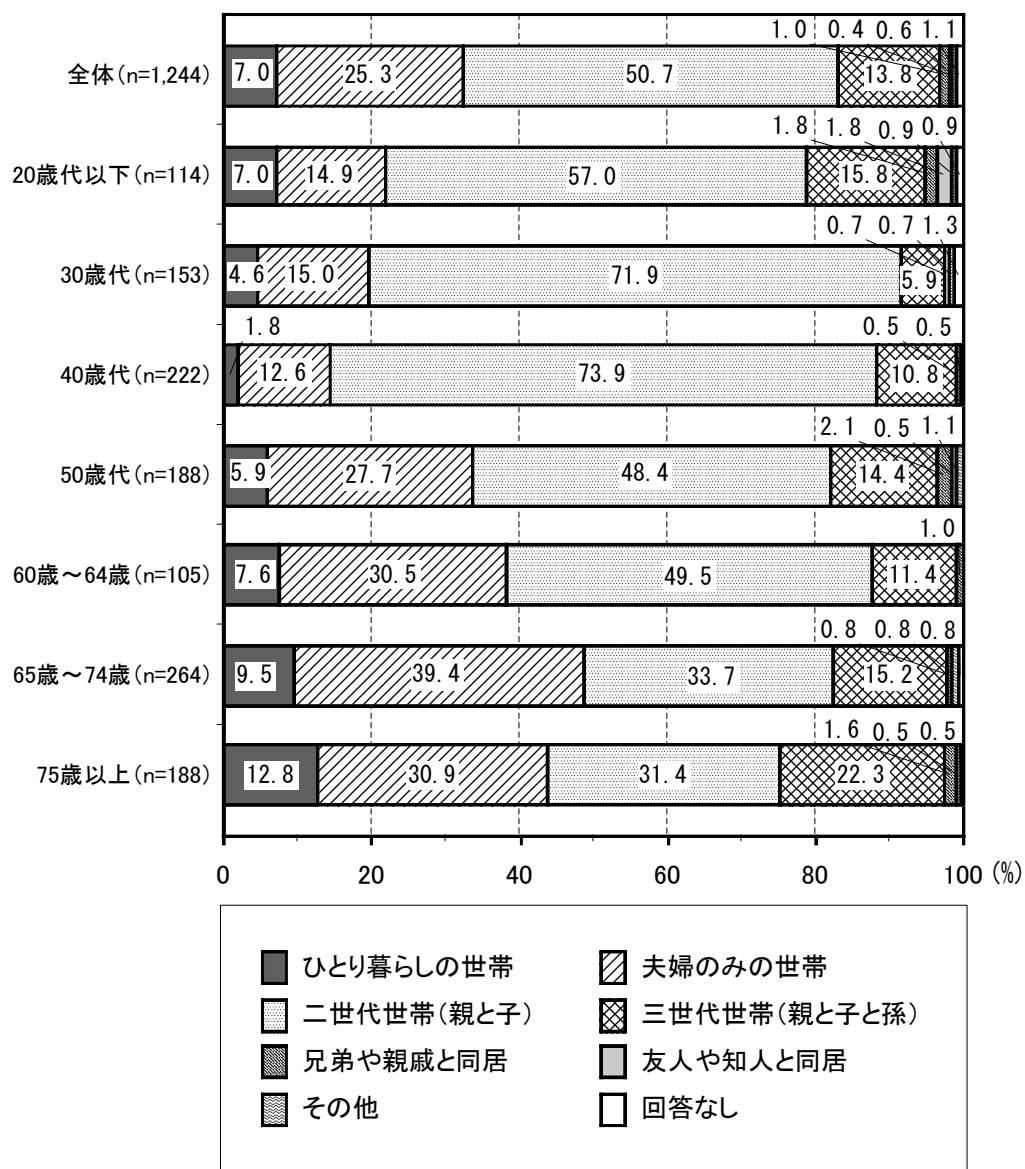
○核家族である「二世帯世帯（親と子）」が50.7%を占め、最も多くなっています。次いで、「夫婦のみの世帯」（25.3%）、「三世帯世帯（親と子と孫）」（13.8%）が多くなっています。
○「ひとり暮らし世帯」も7.0%みられます（図1-7-1）。

図1-7-1 「世帯のタイプ」



○40歳代以降、年齢が高くなるにしたがって「ひとり暮らし世帯」の割合が増加する傾向がみられます。「夫婦のみの世帯」の世帯も概ね同様の傾向がみられます。同時に、60歳～64歳以降、年齢が高くなるにしたがって「三世代世帯（親と子と孫）」も増加する傾向がみられます。（図1-7-2）。

図1-7-2 年齢別「世帯のタイプ」



（８）世帯の収入（問６）

問６ あなたの世帯全体の年収（年金を含む。税金や社保税金などを引く前の総支給額。）はどのくらいですか。（現在お住まいの世帯でお答えください。）（○は１つだけ）

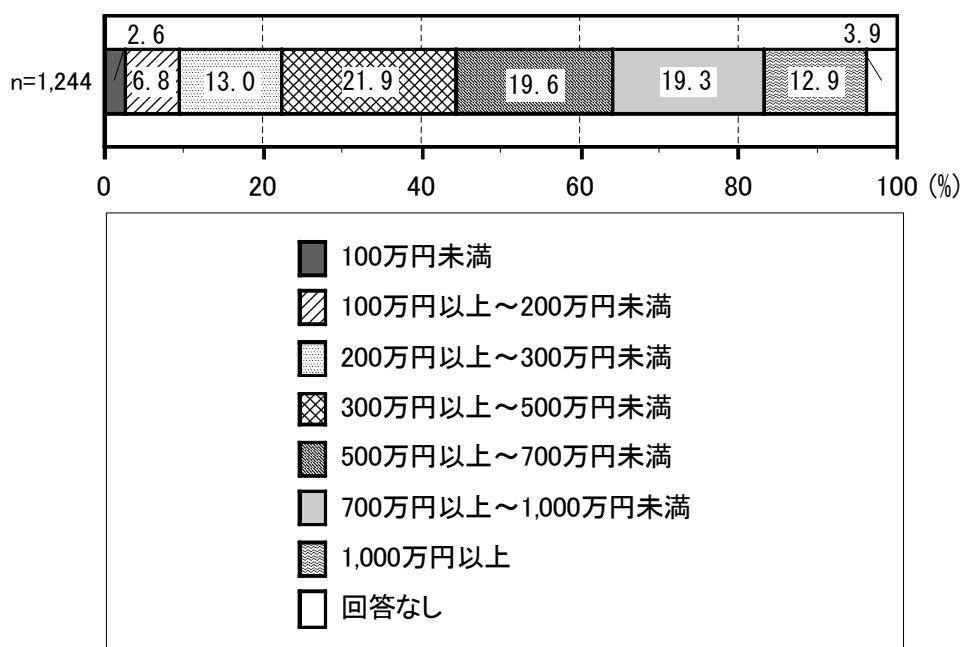
要点

低所得世帯にあたる世帯年収が 300 万円未満の世帯は、22.4%みられます。75 歳以上では４割以上（42.6%）を占めています。また、子どものいる世帯年収が 300 万円未満の世帯（子どもの低所得世帯）が合わせて 7.8%みられます。

全体

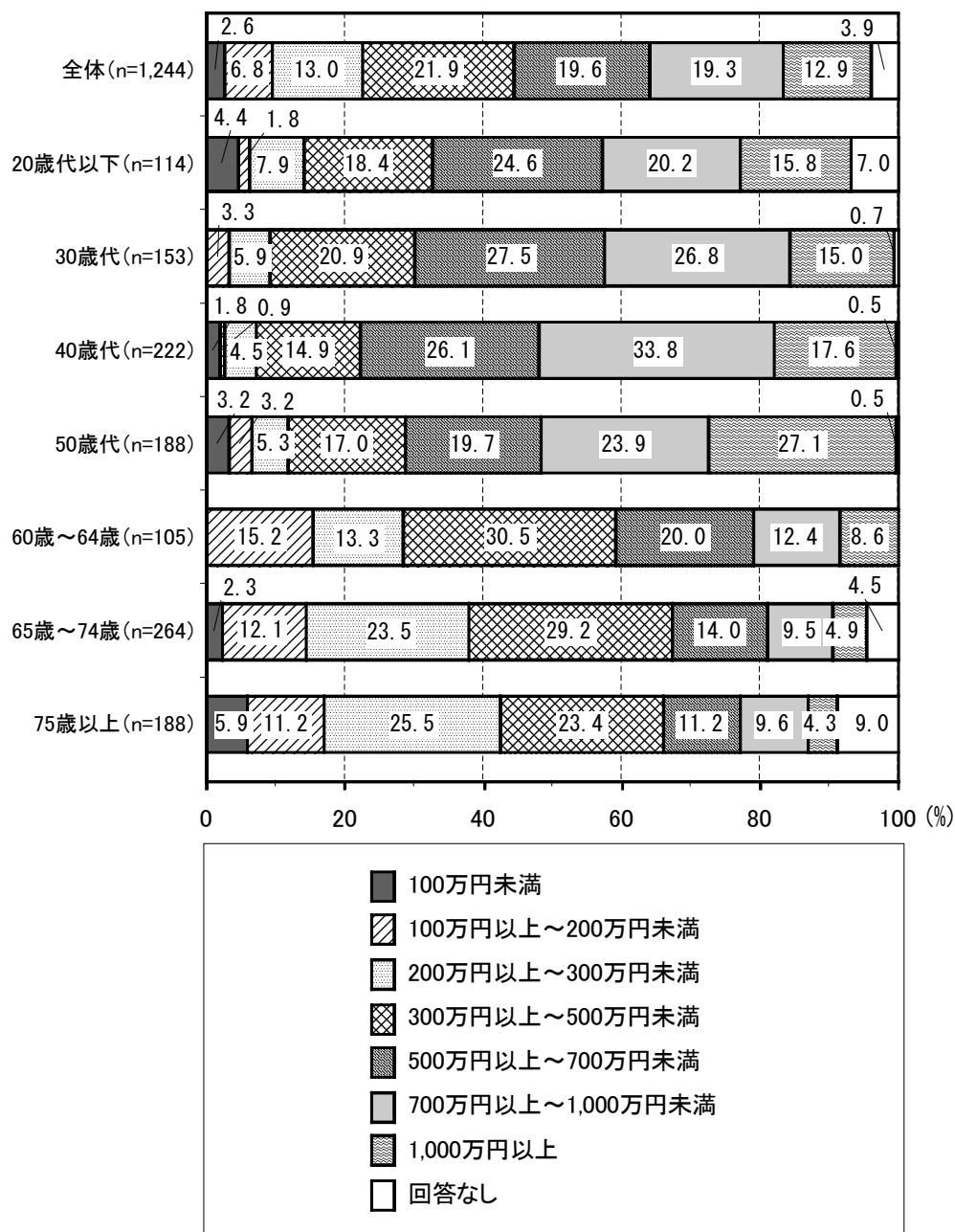
- 「300 万円以上～500 万円未満」が 21.9%と最も多く、「500 万円～700 万円未満」（19.6%）と「700 万円～1,000 万円未満」（19.3%）が続いて多くなっています。
- 低所得世帯にあたる 300 万円未満の世帯は、22.4%（2.6%+6.8%+13.0%）を占め、少なくありません。（図 1-8-1）。

図 1-8-1 「世帯の収入」



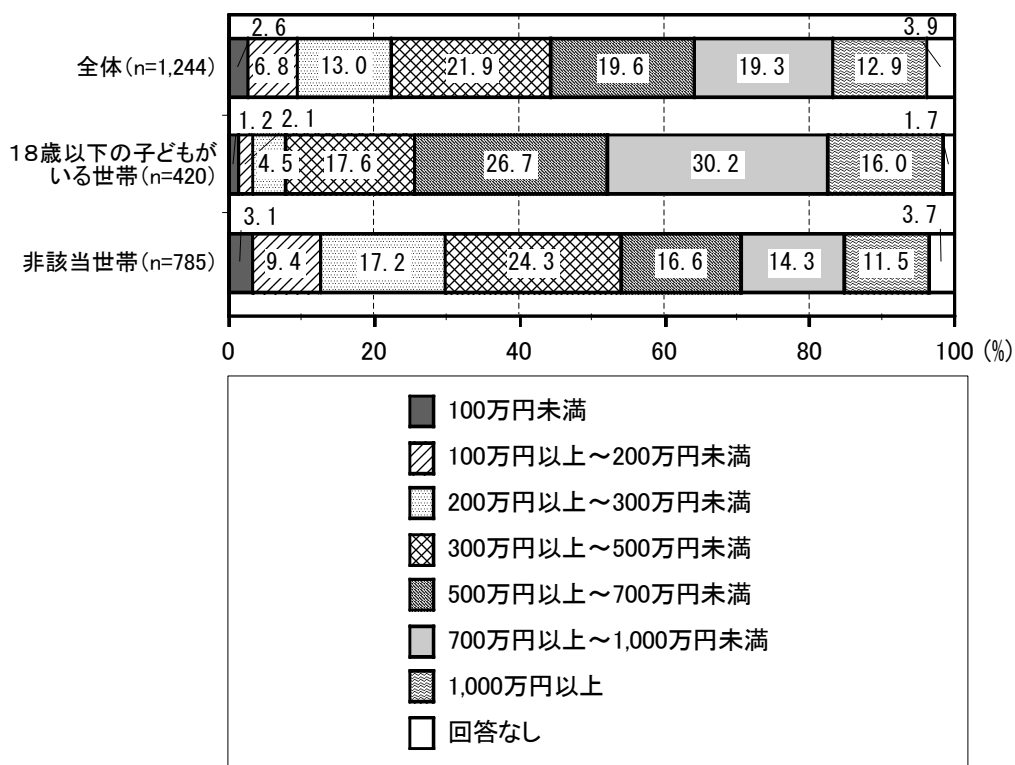
○低所得世帯にあたる 300 万円未満の世帯は、40 歳代以降、年齢が高くなるにしたがって多くなる傾向がみられ、75 歳以上では 4 割以上 (42.6%) の割合になっています (図 1-8-2)。

図 1-8-2 年齢別「世帯の収入」



○18歳以下の子どもがいる世帯の方は、そうでない世帯（非該当世帯）よりも全般的に世帯の収入が高い割合が多くなっていますが、子どものいる低所得世帯に当たる世帯年収が300万円未満の世帯が合わせて7.8%みられます（図1-8-3）。

図1-8-3 18歳以下の子どもがいる世帯別「世帯の収入」



(9) 住まいについて (問7)

問7 あなたの住まいについてお答えください。(○は1つだけ)

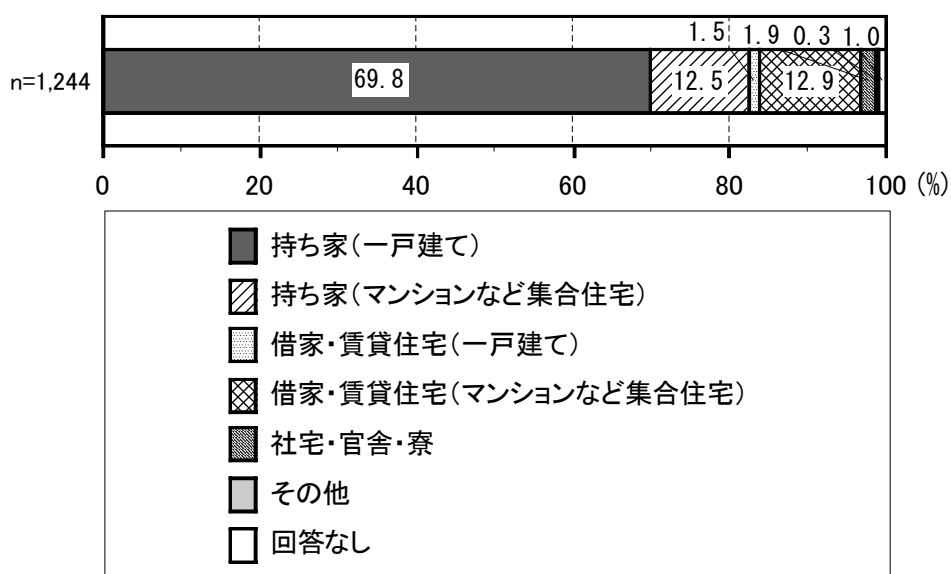
要点

82.3%が持ち家となっています。世帯年収が300万円未満の世帯でも持ち家が73.7%を占めています。

全体

○「持ち家（一戸建て）」が69.8%を占め最も多く、「持ち家（マンションなどの集合住宅）」(12.5%) と合わせると、82.3%が持ち家となっています。(図1-9-1)。

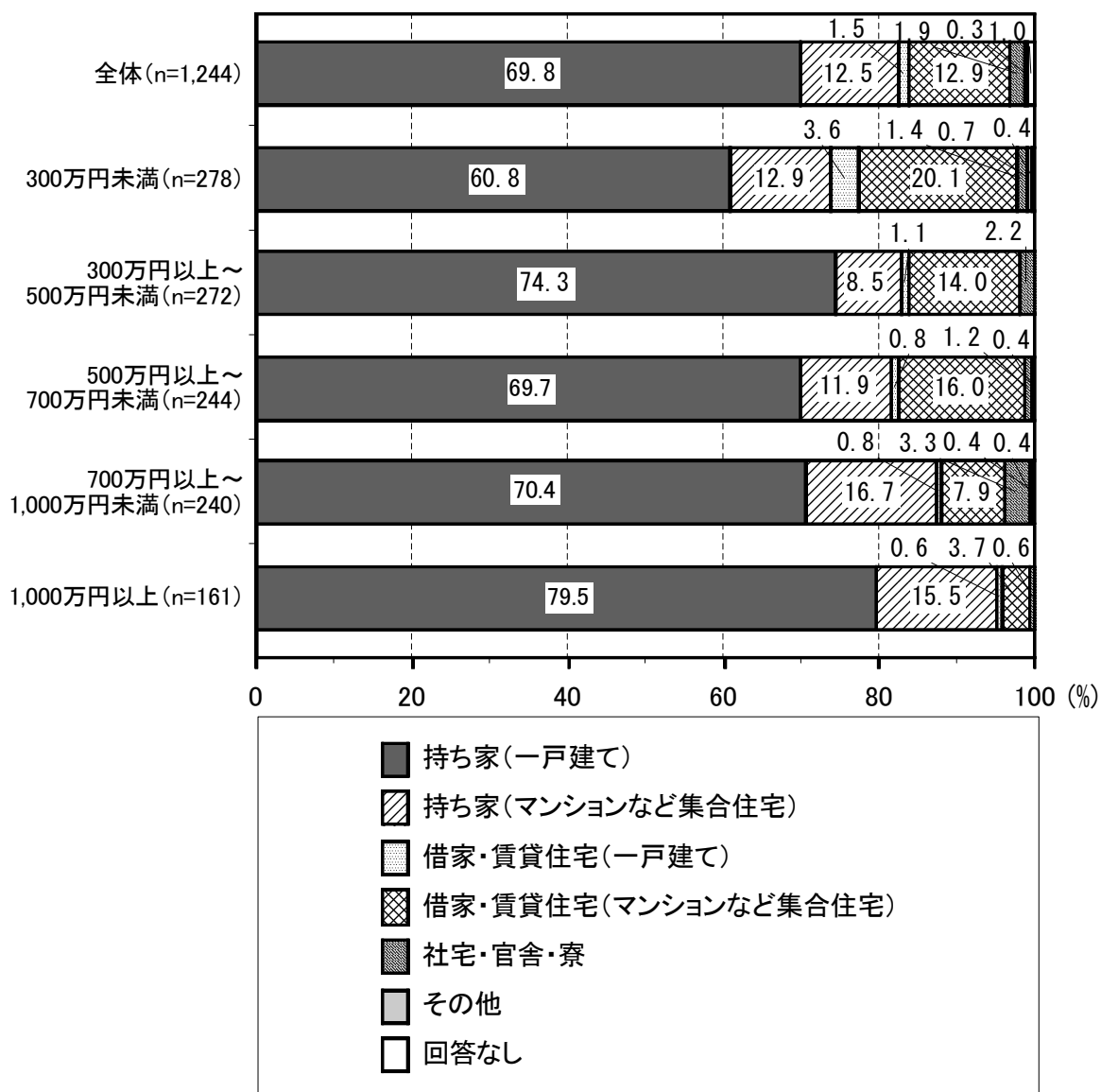
図1-9-1 「住まいについて」



○世帯年収が300万円未満の世帯でも、「持ち家（一戸建て）」が6割を占めており、「持ち家（マンションなどの集合住宅）」（12.9%）と合わせると、73.7%が持ち家となっています（図1-9-2）。

○これらの世帯は、生活保護費の受給の対象外の世帯であり、家族の健康状況等の変化によって家計の状況がさらに悪化しても生活保護を受けることが制度上難しいというリスクを背負っている世帯として捉えることもできます。

図1-9-2 世帯の収入別「住まいについて」



(10) 居住年数（問8）

問8 あなたは安城市にどのくらいお住まいですか。（○は1つだけ）

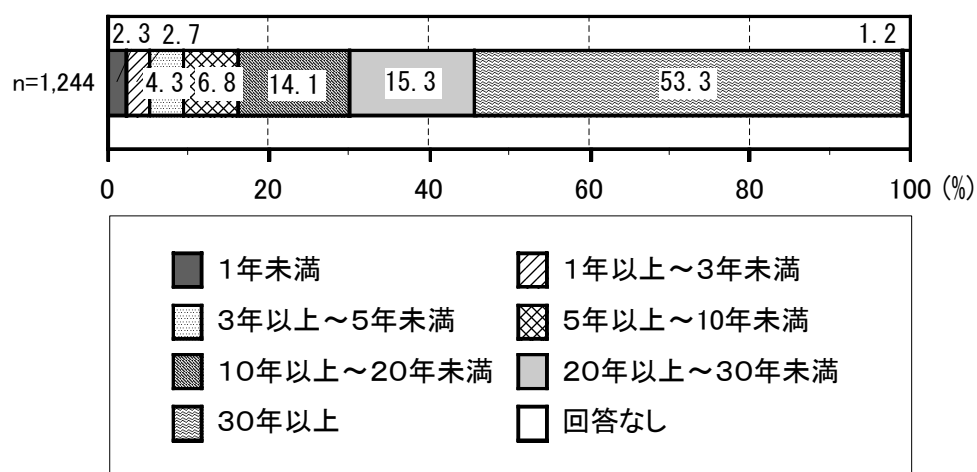
要点

居住年数「30 年以上」が最も多く 53.3%を占めています。30 歳代では、居住年数 10 年未満といった居住年数が比較的短い人の割合が半数以上（51.6%）を占めているのが特徴です。

全体

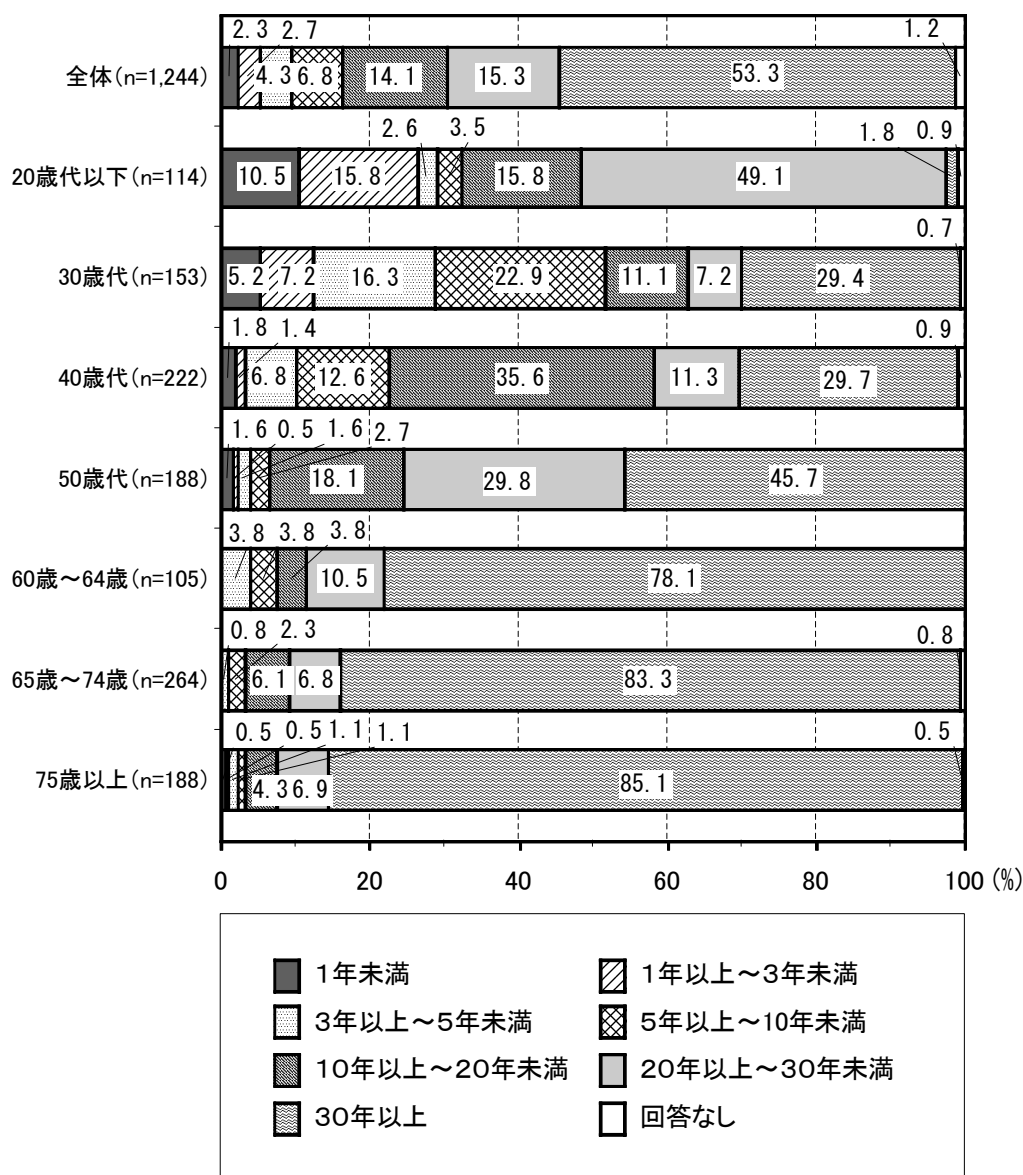
○「30 年以上」が最も多く 53.3%と半数以上を占めています。
○次いで、「20 年以上～30 年未満」が 15.3%、「10 年以上～20 年未満」が 14.1%が多くなっています（図 1-10-1）。

図 1-10-1 「居住年数」



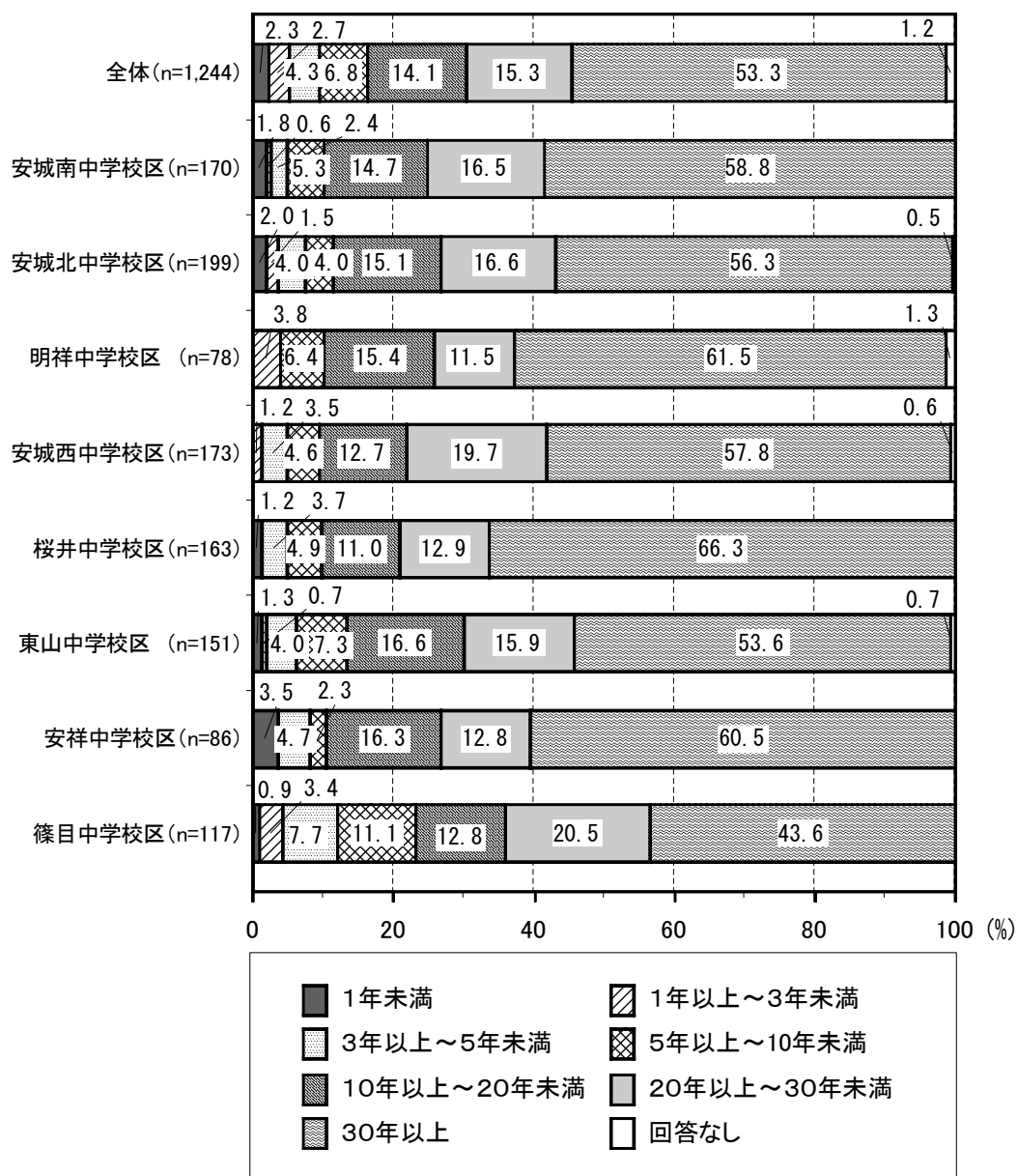
- 30 歳代を着目すると、「30 年以上」（ほぼ生まれてからずっと居住に相当）が 29.4%と約 3 割を占め最も多くなっていますが、「1 年未満」が 5.2%、「1 年以上～3 年未満」が 7.2%、「3 年以上～5 年未満」が 16.3%、「5 年以上 10 年未満」が 22.9%となっており、居住年数 10 年未満が半数以上（51.6%）を占めているのが特徴としてみられます。
- 同様に、40 歳代では居住年数 20 年未満が 6 割近く（58.2%）を占めています。
- 逆に、50 歳代では、「30 年以上」が 5 割近く（45.7%）を占め、60 歳～64 歳、65 歳～74 歳まで、75 歳以上の年齢層では、「30 年以上」が、それぞれ 78.1%、83.3%、85.1%を占めています（図 1-10-2）。

図 1-10-2 年齢別「居住年数」



○篠目中学校区では、他の中学校区に比べて、居住年数 10 年未満の割合が 23.1%と多く、その分「30 年以上」が 43.6%と少なくなっています（図 1-10-3）。

図 1-10-3 中学校区別「居住年数」



(11) 居住地区（中学校区）（問9）

問9 あなたのお住まいの中学校区をお答えください。（○は1つだけ）

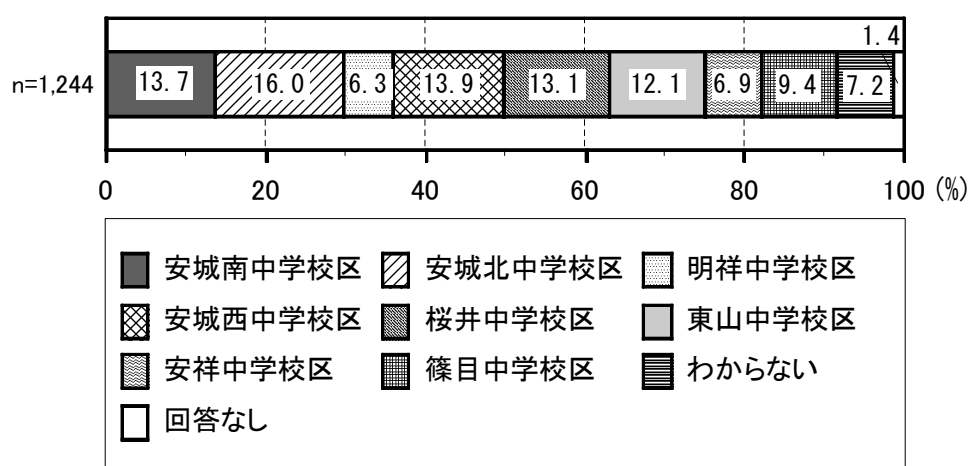
要点

回答者の居住地区（中学校区）は、安城北中学校区が16.0%を占め最も多くなっています。

全体

○回答の居住地区を中学校区でみると、「安城北中学校区」が16.0%を占め最も多く、次いで、「安城西中学校区」が13.9%、「安城南中学校区」が13.7%、「桜井中学校区」が13.1%、「東山中学校区」が12.1%となっています（図1-11-1）。

図1-11-1 「居住地区（中学校区）」



2 福祉に関する意識について

(1) 福祉との関わり (問 10)

問 10 現在のあなたと福祉との主な関わりは次のどれですか。(○は1つだけ)

要点

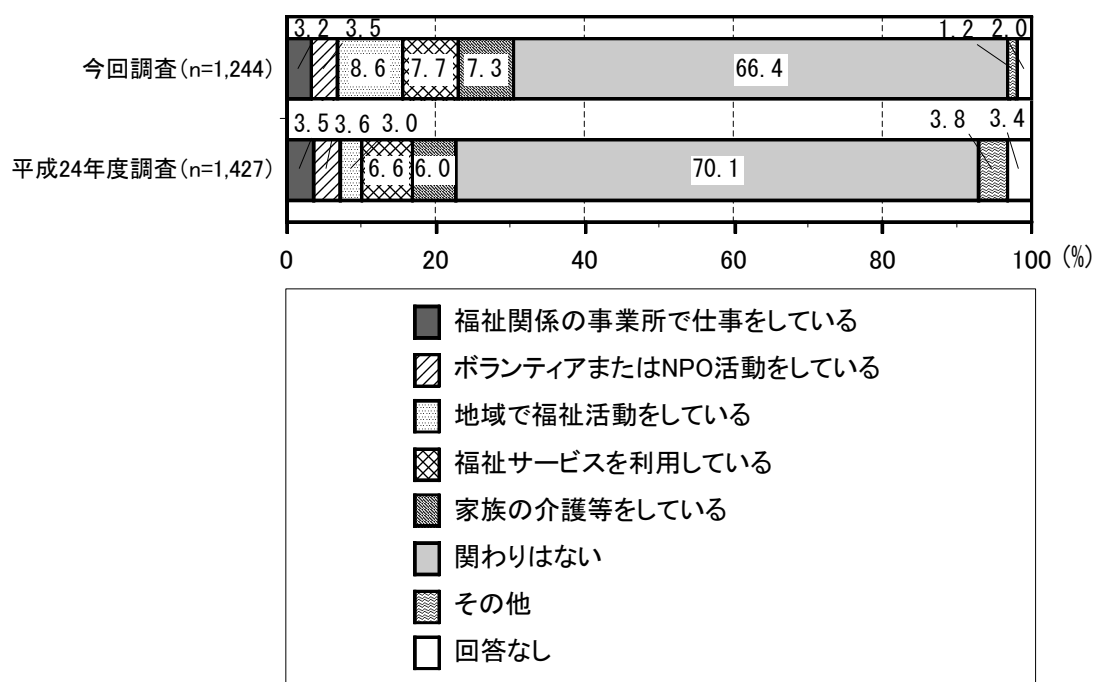
福祉とは「関わりはない」が66.4%を占めています。前回調査と比べて「地域で福祉活動をしている」の割合が5.6ポイントアップしています。

全体

○「関わりはない」の割合が66.4%と最も多く、次いで「地域で福祉活動をしている」が8.6%、「福祉サービスを利用している」の割合が7.7%、「家族の介護等をしている」の割合が7.3%となっています。

○前回調査（平成24年度調査）と比較すると、「地域で福祉活動をしている」の割合が5.6ポイント上昇しており、その分「関わりはない」の割合が3.7ポイント低下しています。（図2-1）。

図2-1 「福祉との関わり」（前回調査比較）



（２）福祉に関する情報入手の程度（問 12）

問 12 あなたは、現在、福祉に関する情報（問 11 の選択肢参照）がどの程度入ってきているとお考えですか。（○は１つだけ）

要点

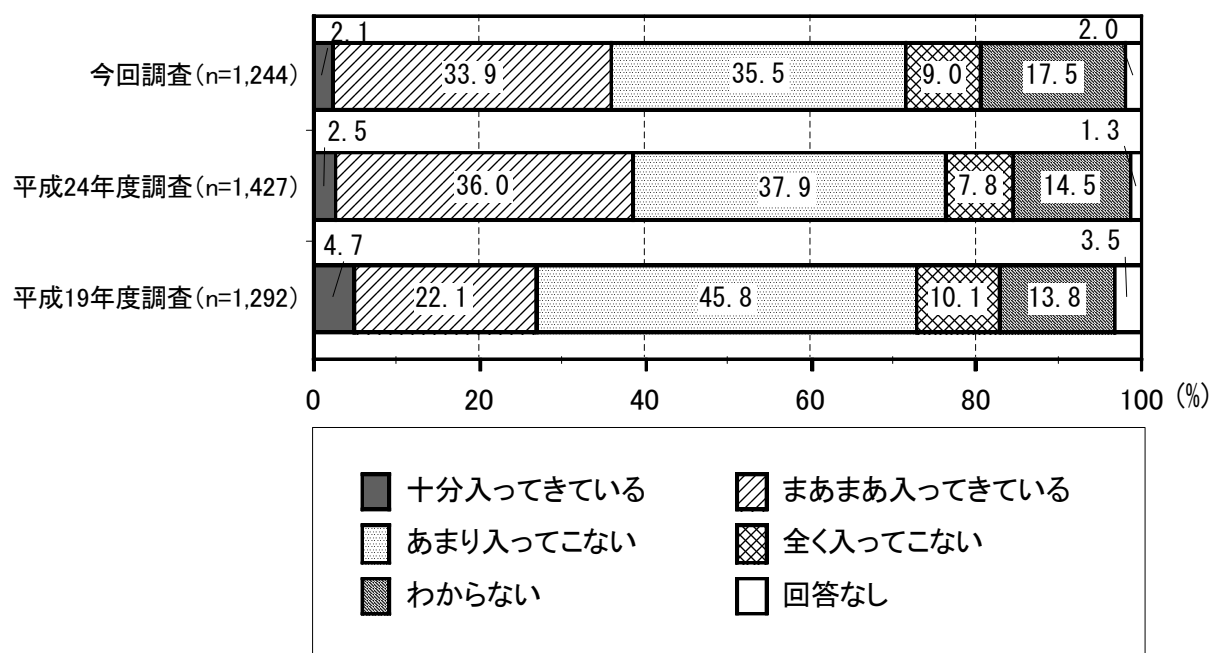
“情報が入ってきていると感じている人”が36.0%であるのに対して、“情報が入ってこないと感じている人”は44.5%となっています。

全体

○「十分入ってきている」と「まあまあ入ってきている」を合わせた“情報が入ってきていると感じている人”が36.0%を占めています。一方、「あまり入ってこない」と「全く入ってこない」を合わせた“情報が入ってこないと感じている人”は44.5%を占め、“情報が入ってきていると感じている人”の割合を8.5ポイント上回っています。

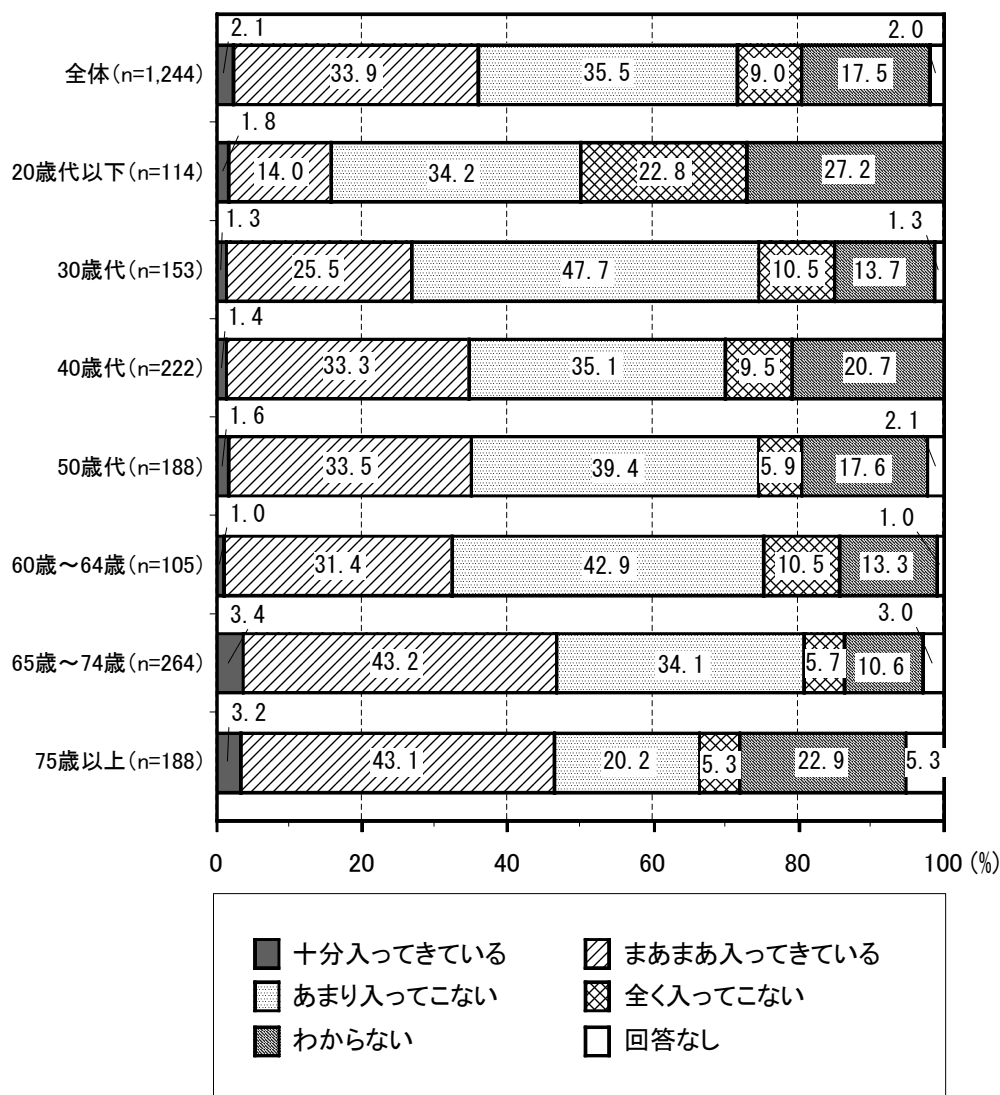
○前回調査（平成24年度調査）の結果とほぼ同様の結果になっています（図2-2-1）。

図 2-2-1 「福祉に関する情報入手の程度」（前回・前々回比較）



○65 歳以上になると、“情報が入ってきていると感じている人”の割合が多くなる傾向がみられます。一方、20 歳代以下や30 歳代といった若い年齢層では、“情報が入ってこないと感じている人”の割合が共に6割近くを占めています（図2-2-2）。

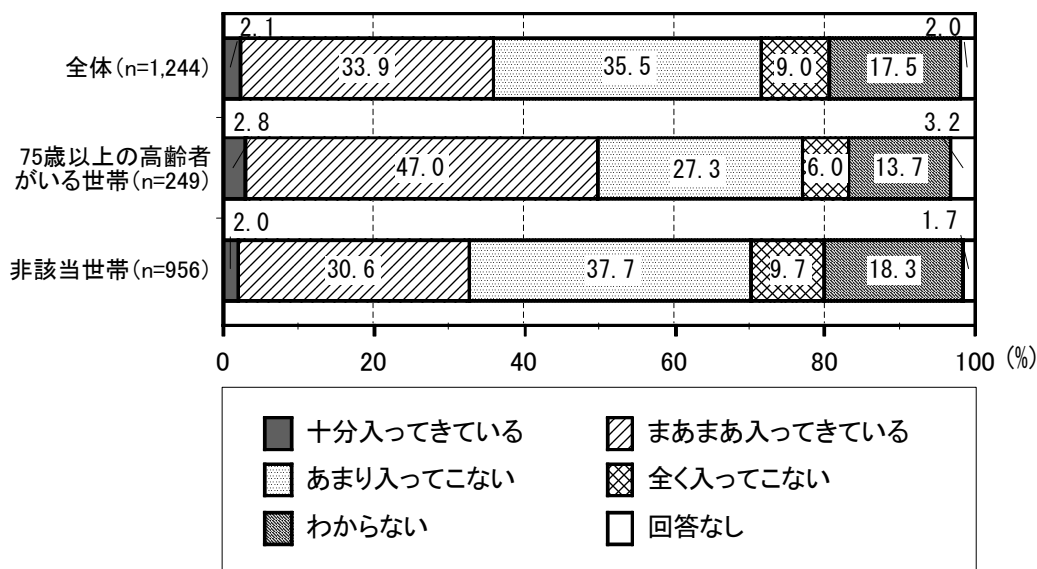
図2-2-2 年齢別「福祉に関する情報入手の程度」



75歳以上の高齢者がいる世帯別

○75歳以上の高齢者がいる世帯の方が非該当世帯（そうでない世帯）よりも“情報が入ってきていると感じている人”の割合（49.8%）が多くなっていますが、“情報が入ってこないと感じている人”も33.3%を占め決して少なくありません（図2-2-3）。

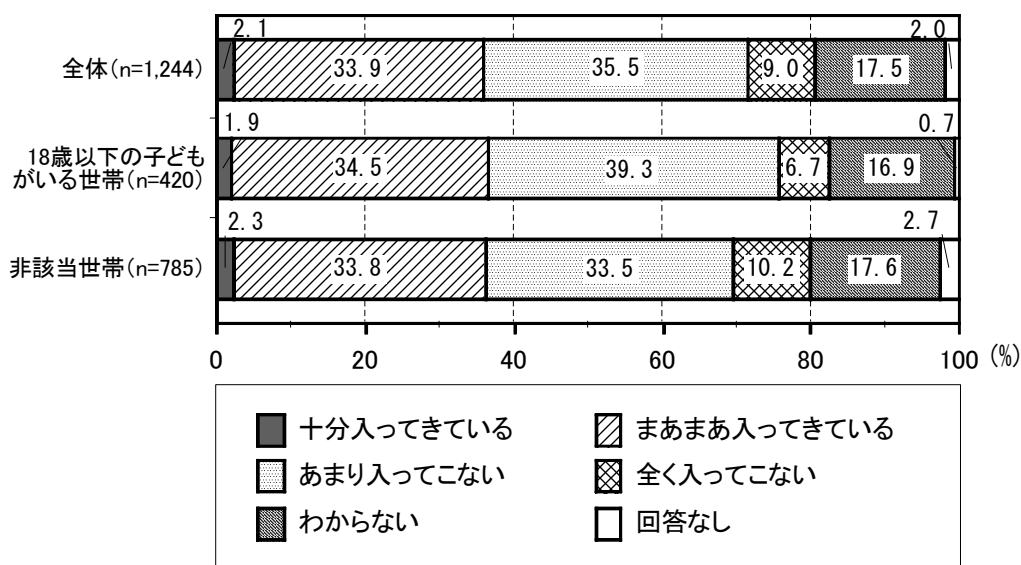
図2-2-3 75歳以上の高齢者がいる世帯別「福祉に関する情報入手の程度」



18歳以下の子どもがいる世帯別

○18歳以下の子どもがいる世帯と非該当世帯（そうでない世帯）とでは、割合にほとんど差はみられません（図2-2-4）。

図2-2-4 18歳以下の子どもがいる世帯別「福祉に関する情報入手の程度」



(3) 知りたい福祉に関する情報内容（問 11）

問 11 あなたは福祉に関してどのような情報を知りたいですか。
（あてはまるものすべてに○・ない場合は8に○）

要点

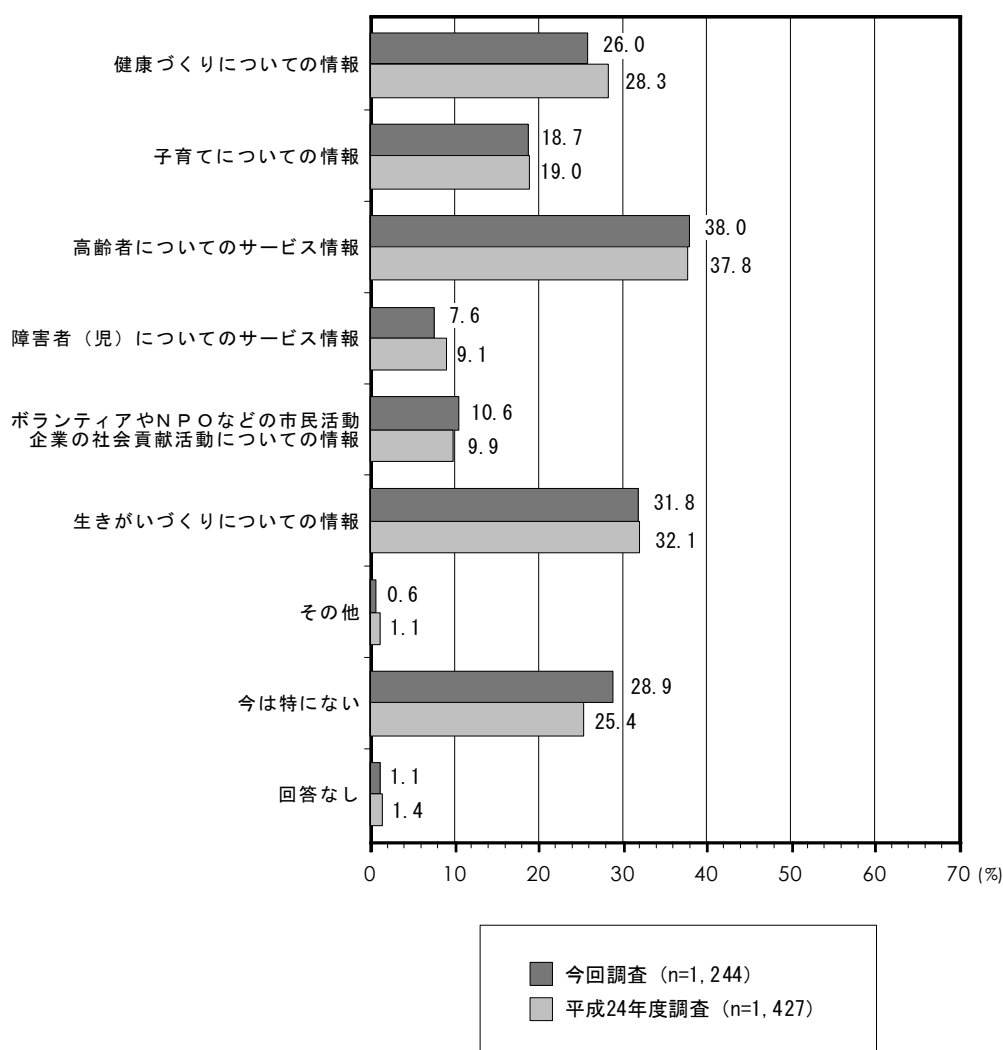
「高齢者についてのサービス情報」（38.0%）をはじめ、特に高齢者層にとって必要な情報の割合が多くなっています。知りたいと思っていながらもそうした福祉に関する情報にアクセスできていないような人が少なくありません。

全体

○「高齢者についてのサービス情報」が38.0%と最も多く、次いで「生きがいきづくり（講座、教室、サークル活動など）についての情報」の割合が31.8%、「健康づくりについての情報」の割合が26.0%となっています。（図2-3-1）。

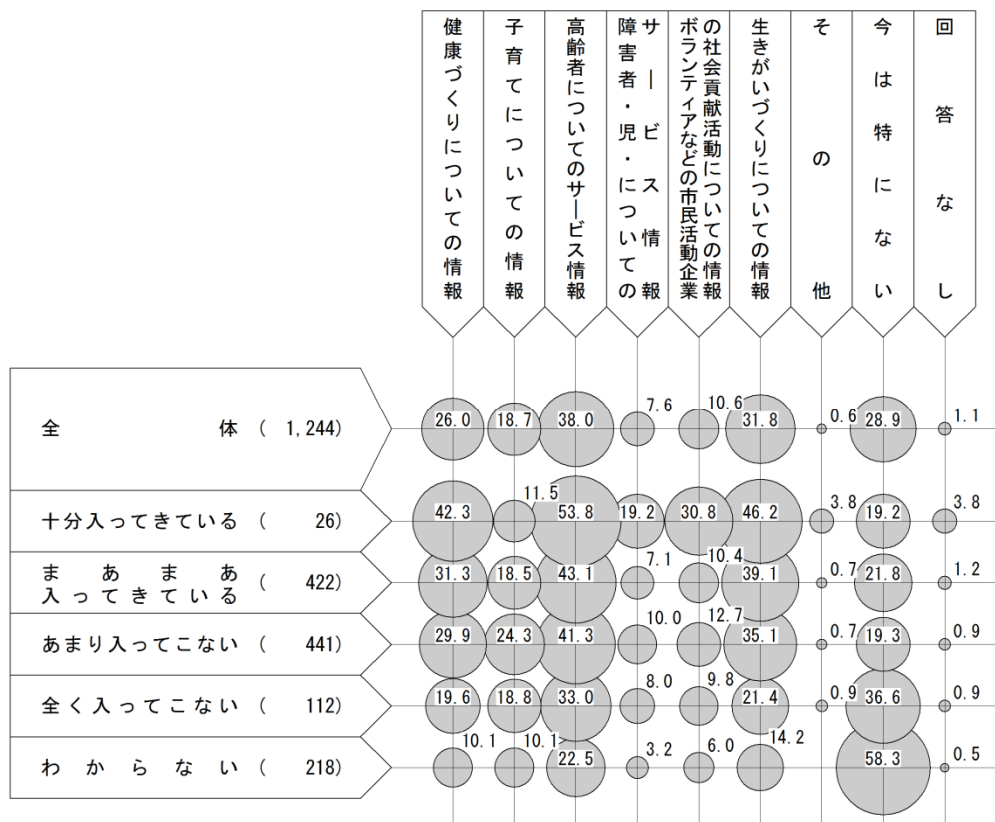
○前回調査（平成24年度調査）とほぼ同様の結果となっています（図2-3-1）。

図2-3-1 「知りたい福祉に関する情報内容」



- 「健康づくりについての情報」と「高齢者についてのサービス情報」、「生きがいづくりについての情報」といった特に高齢者層にとって必要な情報については、いずれも“福祉に関する情報が入ってきていると感じている人”ほど割合が順次多くなる傾向がみられます。
- これは、図 2-2-3 でみたように、年齢層が高いほど、“福祉に関する情報が入ってきていると感じている人”の割合が多くなる傾向があることに連動した結果であると考えられます。
- しかしながら、これら 3 つの特に高齢者層にとって必要な情報は、福祉に関する情報が全く入ってきていない人においても、それぞれ 19.6%、33.0%、21.4%みられ、知りたいと思っていながらも、そうした情報にアクセスできていないような人が少なくない状況がうかがえます。
- 「障害者・児についてのサービス情報」と「ボランティアなどの市民活動、企業の社会貢献活動についての情報」については、福祉に関する情報が十分入ってきている人における割合が、それぞれ 19.2%、30.8%と多くなっています。これらの情報についても、福祉に関する情報が全く入ってきていない人でも、それぞれ 8.0%、9.8%みられ、知りたいと思っていながらも、そうした情報にアクセスできていないような人が少ないながらもいる状況がうかがえます。
- 「子育てについての情報」については、福祉に関する情報があまり入ってこない人において割合（24.3%）が多くなっており、「子育てについての情報」を知りたいと思っていながらも、そうした情報にあまりアクセスできていないような人が少なくない状況をうかがわせる結果となっています。
- 一方、知りたい福祉に関する情報が「今は特にない」の割合は、福祉に関する情報が全く入ってきていない人において 36.6%と割合が多くなっています。これは、福祉に関する情報が全く入ってきていない人の中には、福祉に関する情報を特に必要としていない人が 4 割弱（36.6%）と少なからず含まれていることを示すものです（図 2-3-2）。

図 2-3-2 福祉に関する情報入手の程度別「知りたい福祉に関する情報内容」



(4) 福祉に関する情報の入手先 (問 13)

問 13 あなたは、福祉に関する必要な情報 (問 11 の選択肢参照) をどこから得ていますか。
(あてはまるものすべてに○)

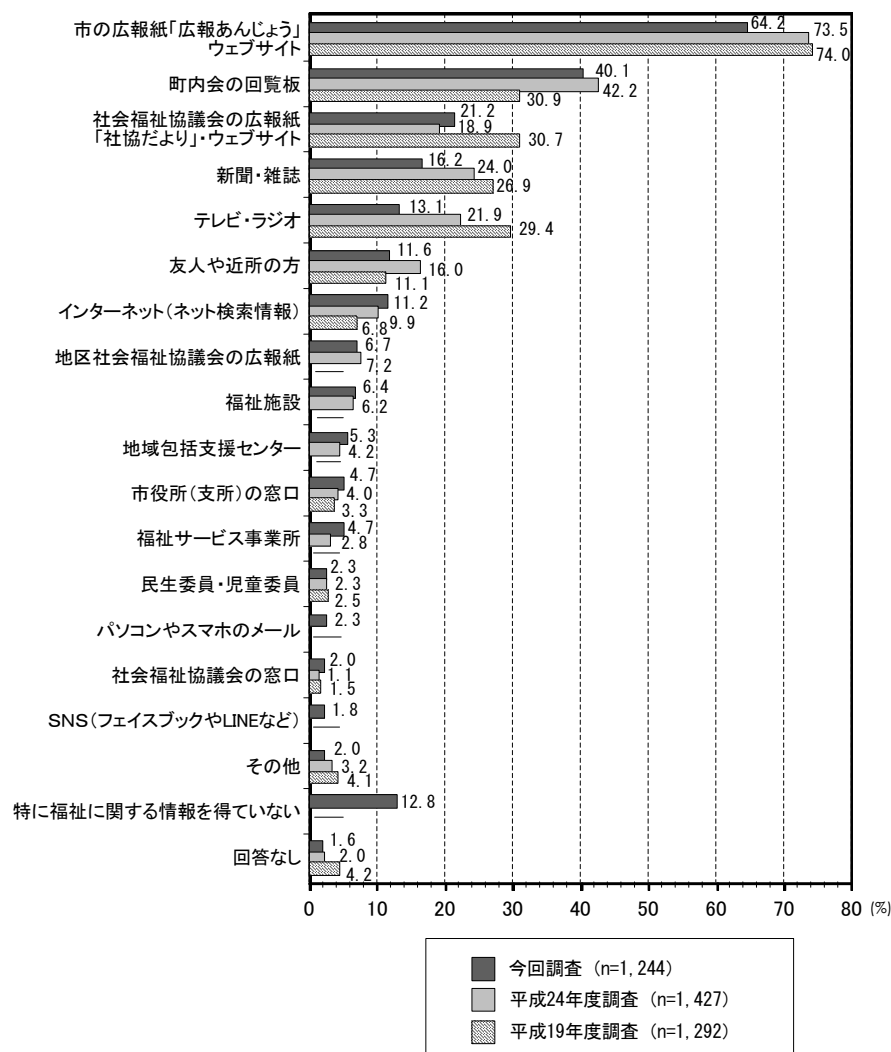
要点

依然として「市の広報紙『広報あんじょう』・ウェブサイト」が 64.2%と最も多く、「町内会の回覧板」(40.1%) が2番目に多くなっています。

全体

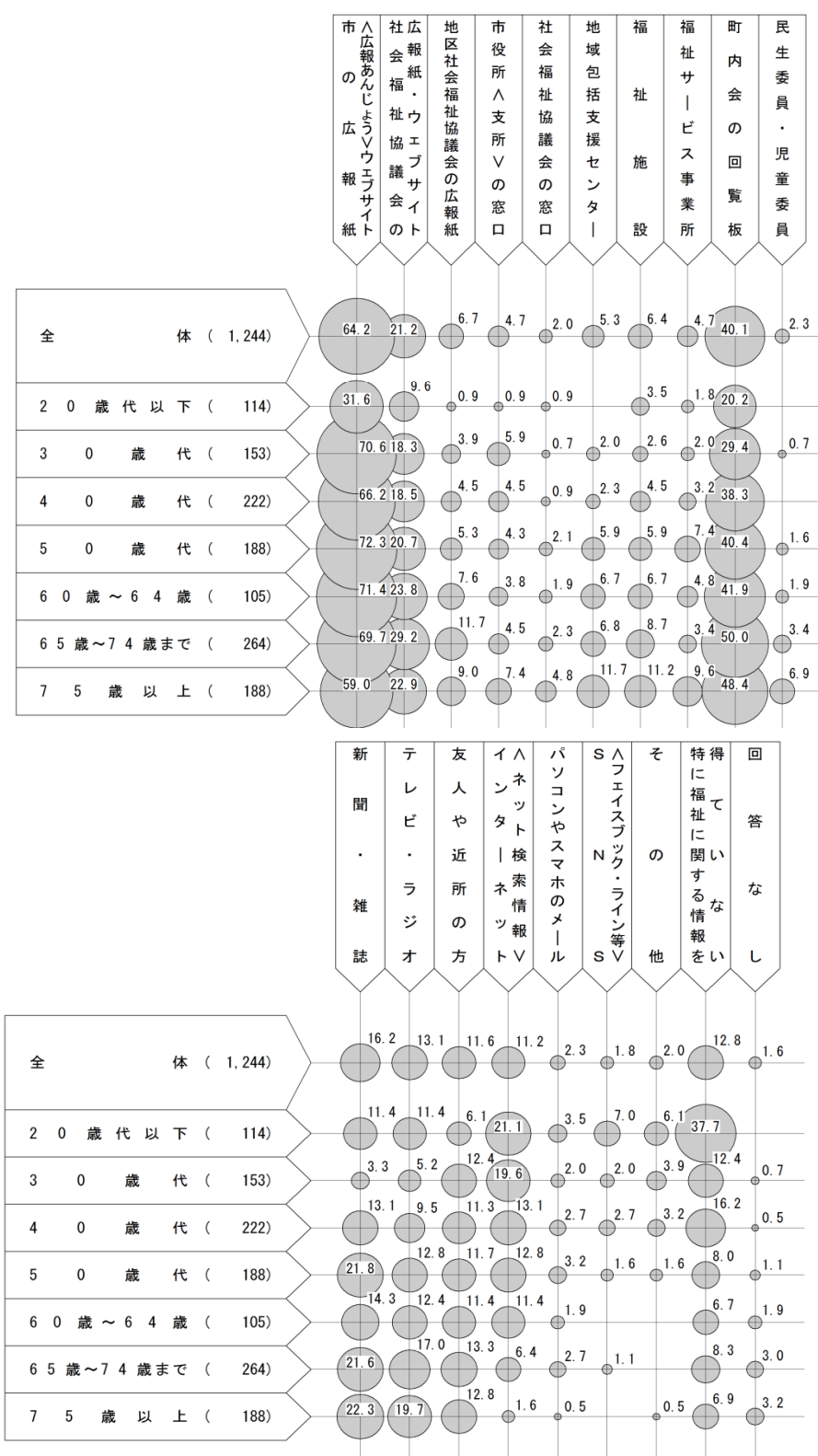
- 「市の広報紙『広報あんじょう』・ウェブサイト」が 64.2%と最も多く、次いで「町内会の回覧板」が 40.1%、「社会福祉協議会の広報紙『社協だより』・ウェブサイト」が 21.2%、「新聞・雑誌」の割合が 16.2%となっています。
- こうした市や社協の「市の広報紙・ウェブサイト」や「町内会の回覧板」、「新聞・雑誌」等の紙を中心とした媒体から情報を得ている割合が多いが、市役所や社協、地域包括支援センター等の専門機関の窓口や民生委員などから直接、情報を得ている割合は少ない傾向にあります。
- 前回・前々回の調査 (平成 24 年度調査・平成 19 年度調査) と比較すると、「市の広報紙『広報あんじょう』・ウェブサイト」と「新聞・雑誌」、「テレビ・ラジオ」の割合は前回調査結果に比べて、それぞれ 9.3 ポイント、7.8 ポイント、8.8 ポイント低下しています。一方、もともと割合が少ないものの「インターネット (ネット検索情報)」については、前々回よりも前回、前回よりも今回の方がというように、割合が徐々に増加しています (図 2-4-1)。

図 2-4-1 「福祉に関する情報の入手先」 (前回・前々回比較)



- 「市の広報紙『広報あんじょう』・ウェブサイト」については、20歳代以下を除くどの年齢層においても最も割合が多くなっています。20歳代以下では、「特に福祉に関する情報を得ていない」の割合（37.7%）が「市の広報紙『広報あんじょう』・ウェブサイト」の割合（31.6%）を上回っています。
- 年齢が高いほど「町内会の回覧板」の割合が多くなる傾向がみられます。「インターネット（ネット検索情報）」はこれとは逆の傾向がみられます（図2-4-2）。

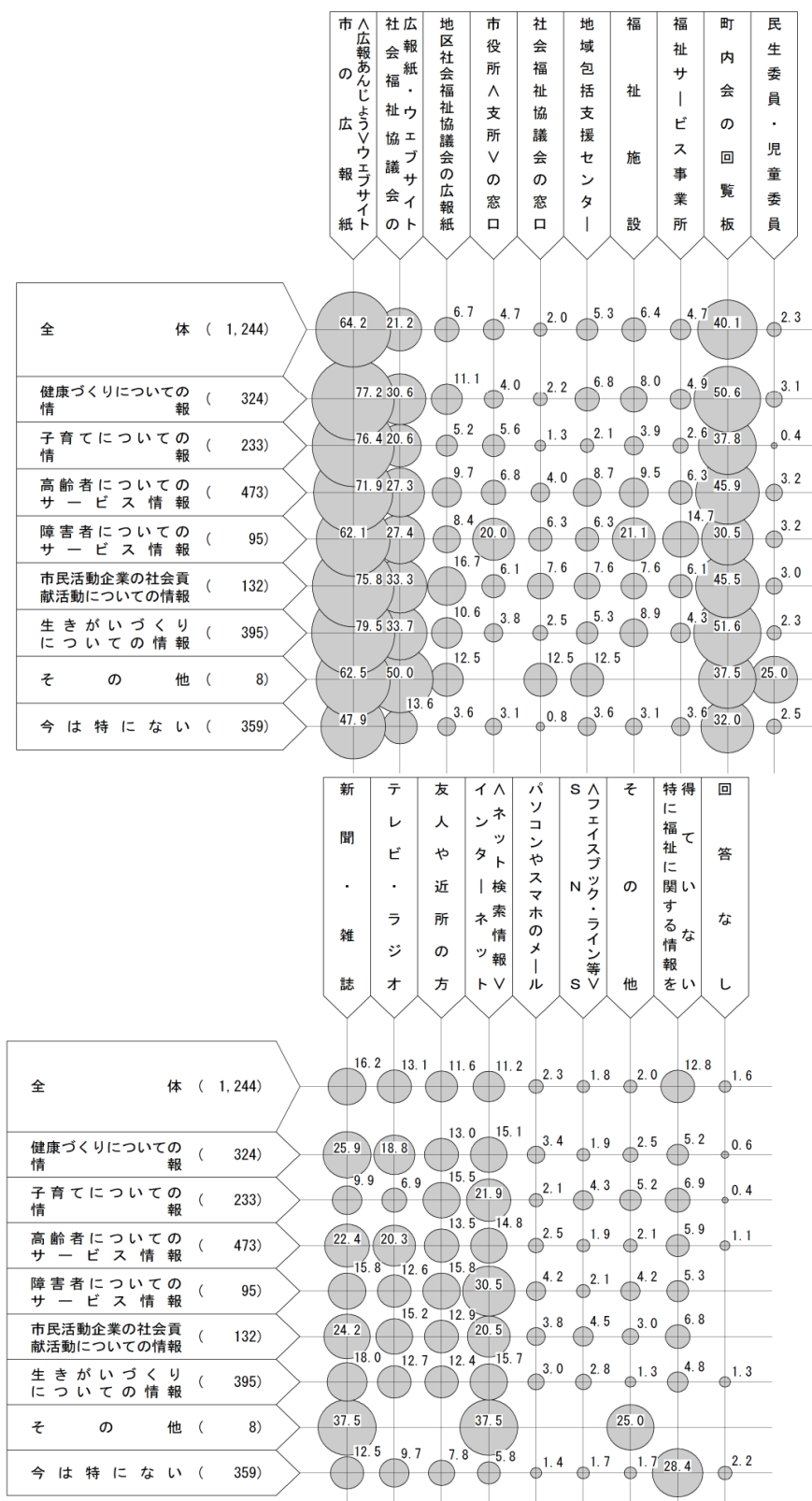
図2-4-2 年齢別「福祉に関する情報の入手先」



○いずれの情報についても「市の広報紙『広報あんじょう』・ウェブサイト」と「町内会の回覧板」が主要な情報入手手段となっています。

○しかしながら、障害者についてのサービス情報については、「インターネット(ネット検索情報)」の割合(30.5%)が「町内会の回覧板」と同じになっていること、「市役所(支所)の窓口」(20.0%)と「福祉施設」(21.1%)の割合が他の知りたい情報内容に比べて多くなっていることが特徴としてみられます。これは、障害者についてのサービス情報を知りたいという人は、専門的な情報を欲している状況をうかがわせるものです。(図2-4-3)。

図2-4-3 知りたい情報内容別「福祉に関する情報の入手先」



(5) 充実してほしい情報発信手段 (問 14)

問 14 あなたにとって、福祉に関する情報 (問 11 の選択肢参照) をより得やすくするためには、どの情報発信を充実してほしいですか。(あてはまるものすべてに○)

要点

問 14 の福祉に関する情報の入手先と同様に、「市の広報紙『広報あんじょう』・ウェブサイト」が 63.9%と最も多く、次いで「町内会の回覧板」(35.3%)「社会福祉協議会の広報紙『社協だより』・ウェブサイト」(19.9%)が多くなっています。

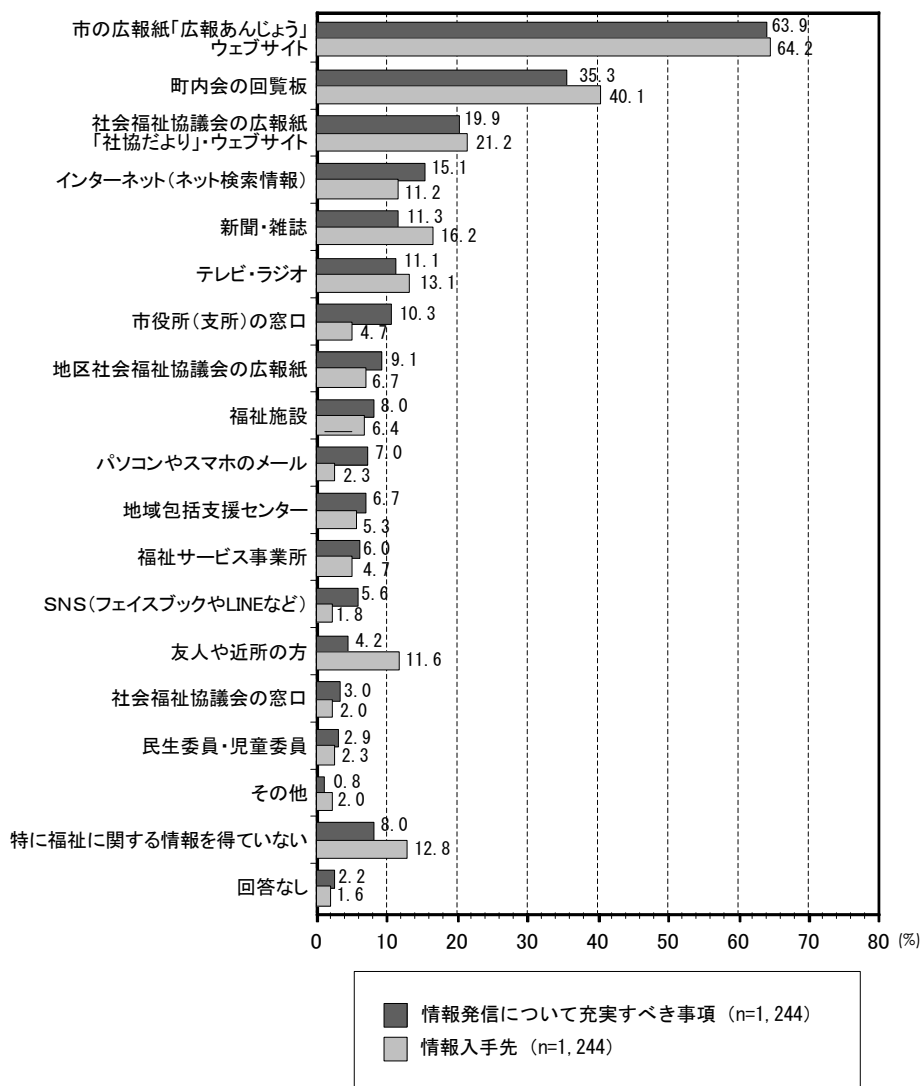
全体

○充実してほしい情報発信手段は、「市の広報紙『広報あんじょう』・ウェブサイト」が 63.9%と最も多く、次いで「町内会の回覧板」が 35.3%、「社会福祉協議会の広報紙『社協だより』・ウェブサイト」が 19.9%というように、上位 3 番目までは問 14 の福祉に関する情報の入手先と同様の結果となっています。

○一方、「新聞・雑誌」(11.3%)や「テレビ・ラジオ」(11.1%)、「友人や近所の方」(4.2%)を上回る割合(15.1%)で「インターネット(ネット検索情報)」が充実してほしい情報発信手段の 4 番目になっていることが特徴としてみられます。また、「市役所(支所)の窓口」の割合(10.3%)が福祉に関する情報の入手先の割合(4.7%)を 5.6 ポイント上回っており、情報入手実態よりもニーズの方が若干高くなっていることが特徴としてみられます。

○なお、それとは逆に「友人や近所の方」の割合(4.2%)については、福祉に関する情報の入手先の割合(11.6%)を 7.4 ポイント下回っています(図 2-5-1)。

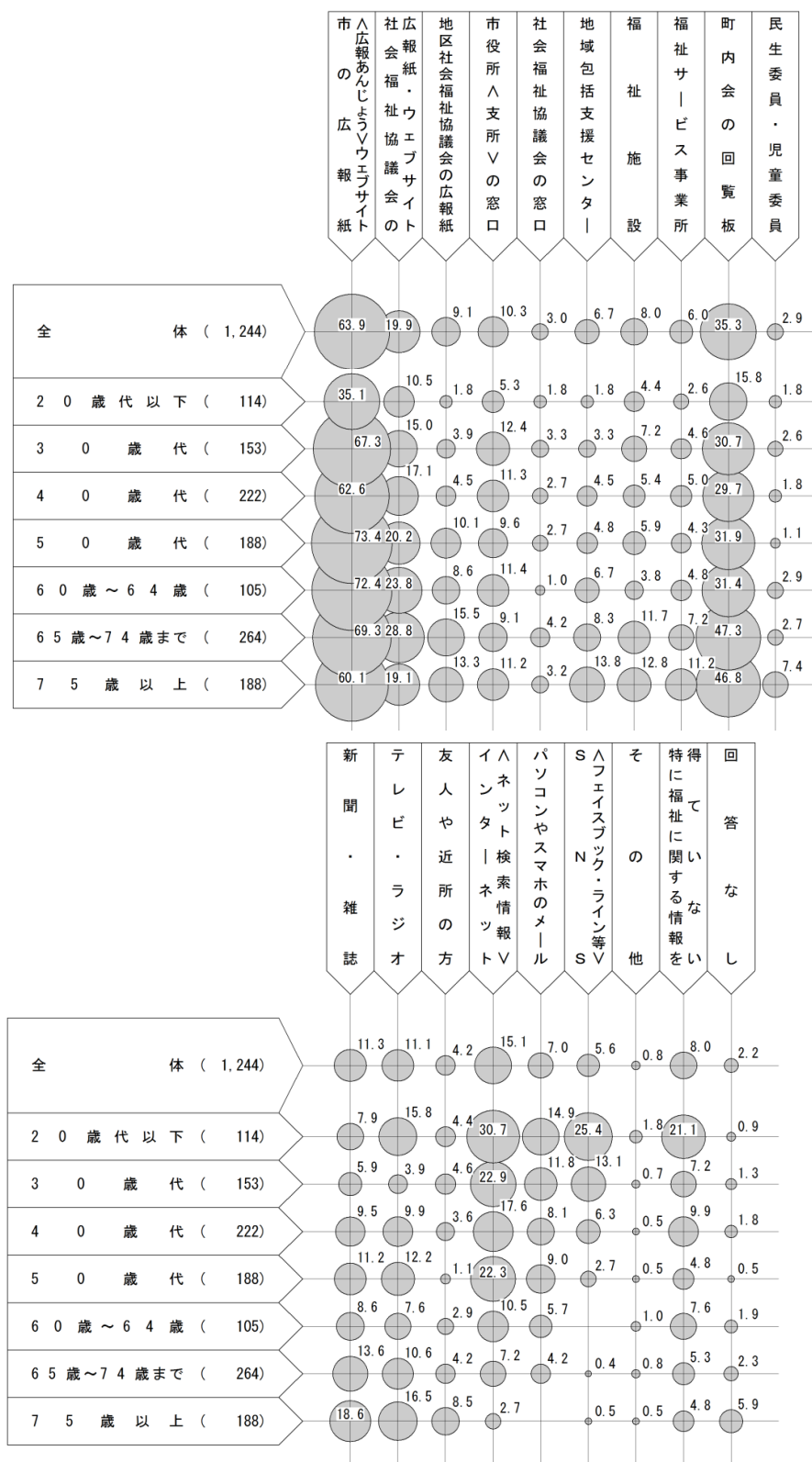
図 2-5-1 「充実してほしい情報発信」(情報入手先比較)



○「市の広報紙『広報あんじょう』・ウェブサイト」については、20 歳代以下を除くどの年齢層においても最も割合が多くなっています。20 歳代以下では、「インターネット（ネット検索情報）」の割合（30.7%）が「市の広報紙『広報あんじょう』・ウェブサイト」の割合（35.1%）に拮抗しています。

○65 歳以上の高齢者層ほど「町内会の回覧板」の割合が多くなっています。「インターネット（ネット検索情報）」は 20 歳代以下（30.7%）をはじめ、30 歳代（22.9%）や 50 歳代（22.3%）で多くなっています（図 2-5-2）。

図 2-5-2 年齢別「充実してほしい情報発信」



3 日常生活、将来の暮らしについて

(1) 近所づきあいの程度 (問 15)

問 15 あなたは、地域での付き合い（近所づきあい）をどの程度していますか。
(○は1つだけ)

要点

“近所づきあいをよく・ある程度している人”が52.2%を占めているのに対して、「あまり付き合っていない」(32.4%)と「全く付き合っていない」(12.5%)を合わせた割合は44.9%となっています。

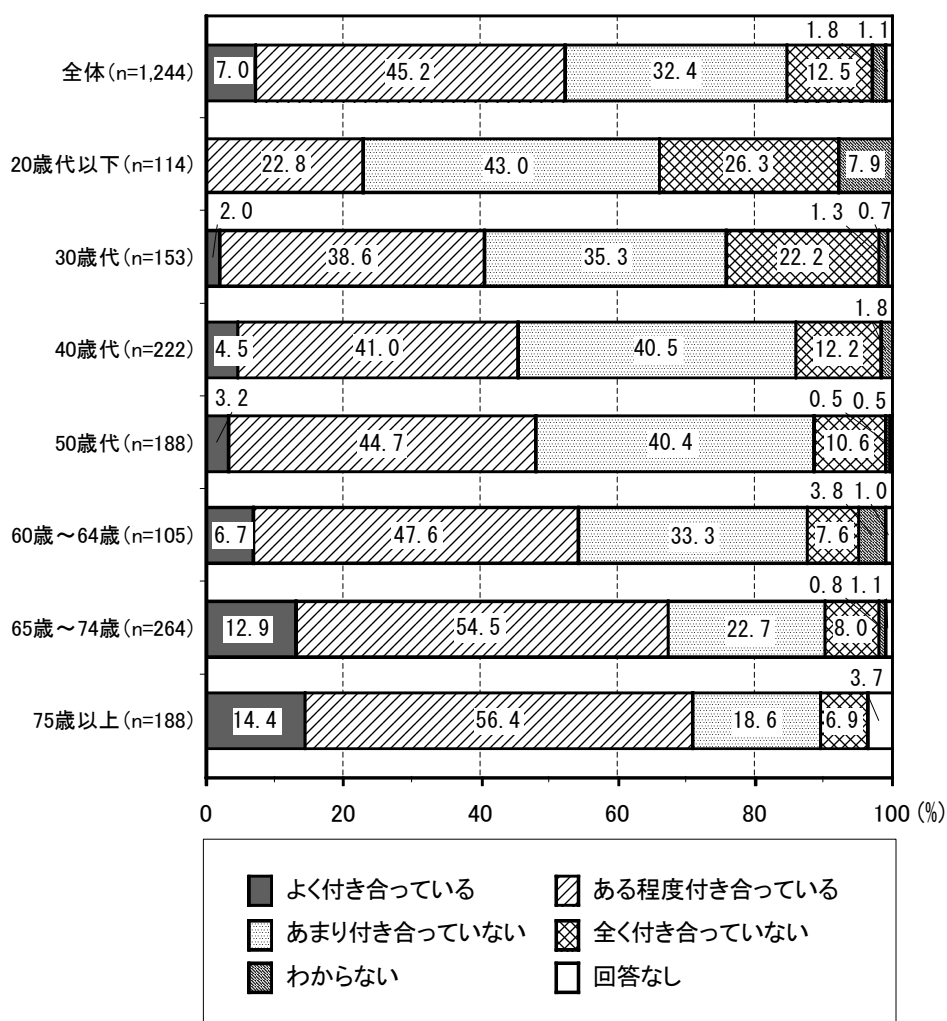
全体

○「よく付き合っている」(7.0%)と「ある程度付き合っている」(45.2%)を合わせた“近所づきあいをよく・ある程度している人”が52.2%を占めています。「あまり付き合っていない」(32.4%)と「全く付き合っていない」(12.5%)を合わせた割合(44.9%)を7.3ポイント上回っています(図3-1-1)。

年齢別

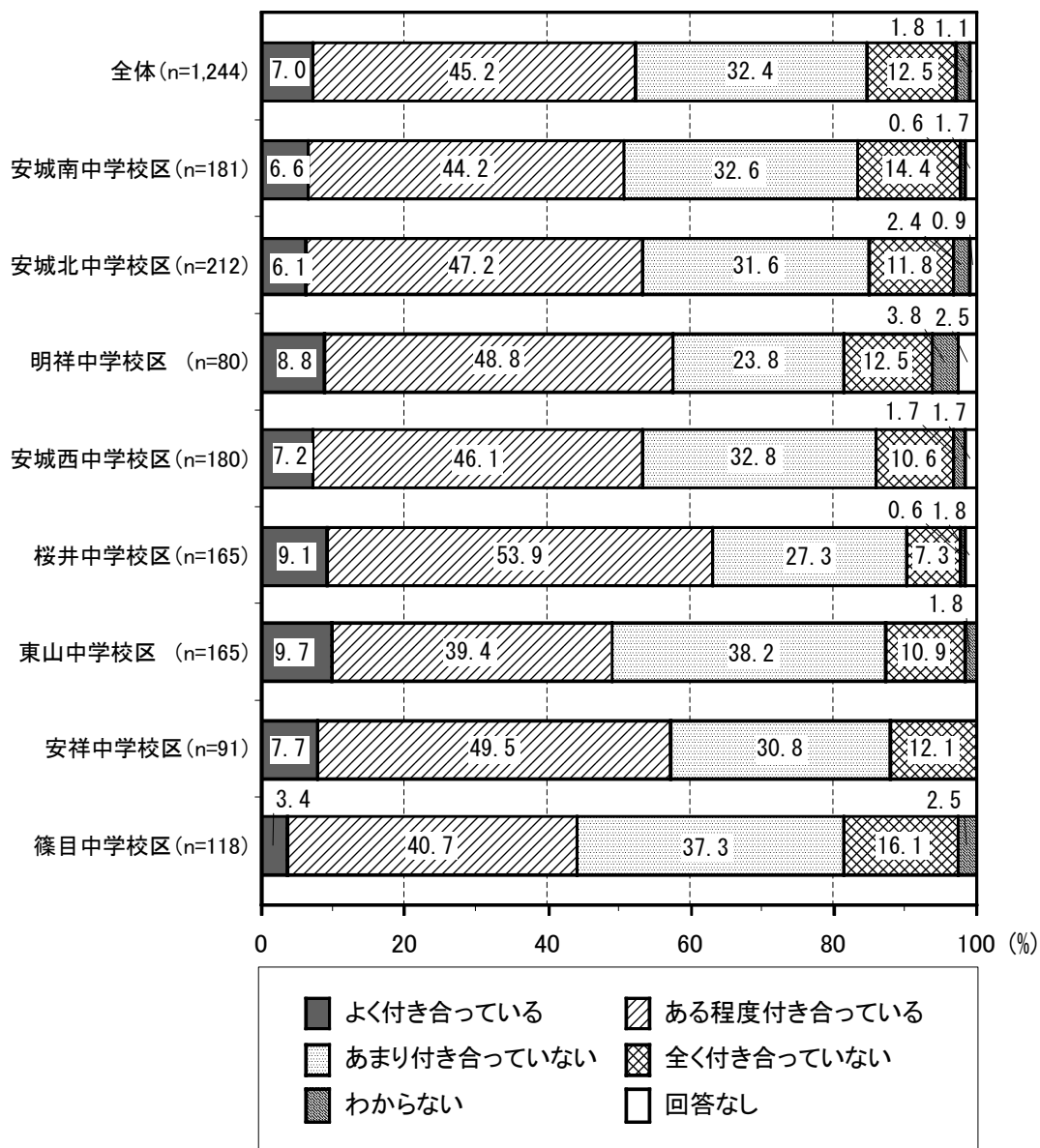
○“近所づきあいをよく・ある程度している人”の割合は、75歳以上では70.8%を占めているが、年齢層が低くなるにしたがってその割合は少なくなる傾向が顕著にみられ、20歳代以下では、22.8%（「ある程度付き合っている」）と1/4にも満たない結果になっています(図3-1-1)。

図3-1-1 年齢別「近所づきあいの程度」



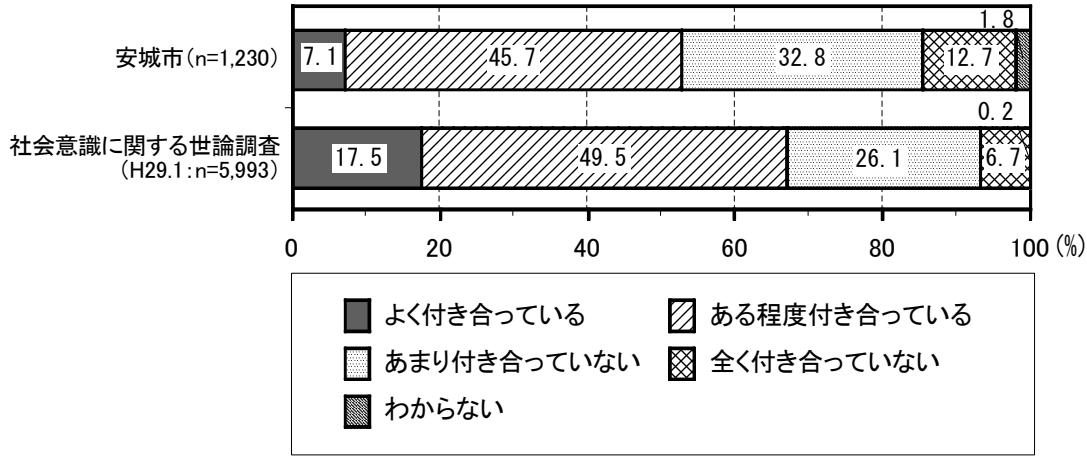
- “近所づきあいをよく・ある程度している人”の割合は、桜井中学校区で63.0%を占め、全体値を10.8ポイント上回っています。また、安祥中学校区（57.2%）と明祥中学校区（57.6%）でも、それぞれ全体値を5.0ポイント、5.4ポイント上回っています。
- 逆に篠目中学校区（44.1%）では全体値を8.1ポイント下回っています（図3-1-2）。

図3-1-2 中学校区別「近所づきあいの程度」



○国の社会意識に関する世論調査（平成 29 年調査）と比較すると国では、近所づきあいをよく・ある程度している人”の割合は 67.0%と、安城市（52.8%）の方が 14.2 ポイント下回っており、近所づきあいが国よりも希薄である状況をうかがわせる結果になっています（図 3-1-3）。

図 3-1-3 「近所づきあいの程度」（世論調査比較）



※国の調査では、「回答なし」を含めていないことから、それに合わせて「回答なし」を除いた%にしたため、図 3-1-1 や 3-1-2 とは%が一致していない。

(2) 地域での付き合いの満足度 (問 16)

問 16 地域での付き合い (近所づきあい) に満足していますか。(○は1つだけ)

要点

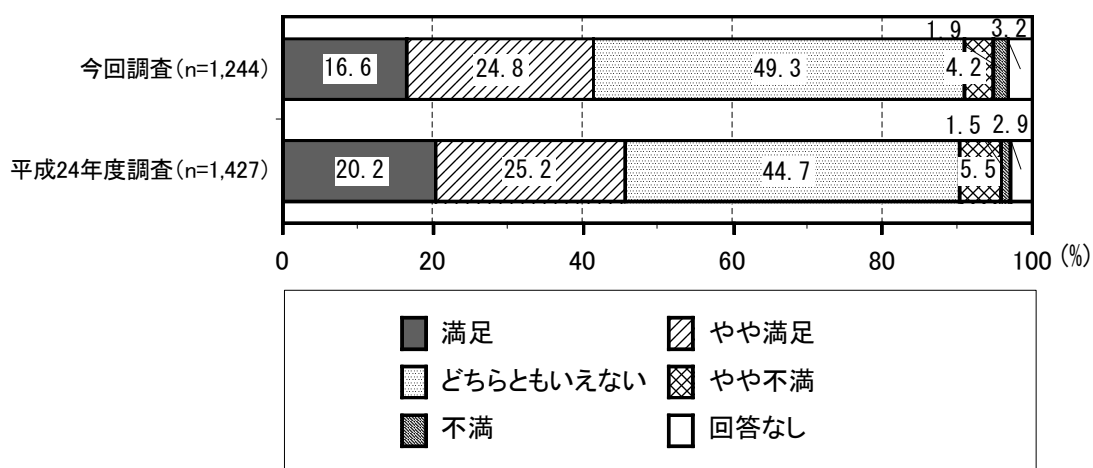
“近所づきあいに満足している人”の割合が41.4%に対して、“近所づきあいに不満である人”は6.1%で、総じて、近所づきあいには概ね満足している状況にあります

全体

○「満足」(16.6%)と「やや満足」(24.8%)を合わせた“近所づきあいに満足している人”の割合が41.4%、「やや不満」(4.2%)と「不満」(1.9%)を合わせた“近所づきあいに不満である人”の割合が6.1%となっています。「どちらともいえない」との回答が49.3%を占めているものの、総じて近所づきあいには概ね満足している状況にあります。

○前回調査(平成24年度調査)結果との有意な差はみられません(図3-2-1)。

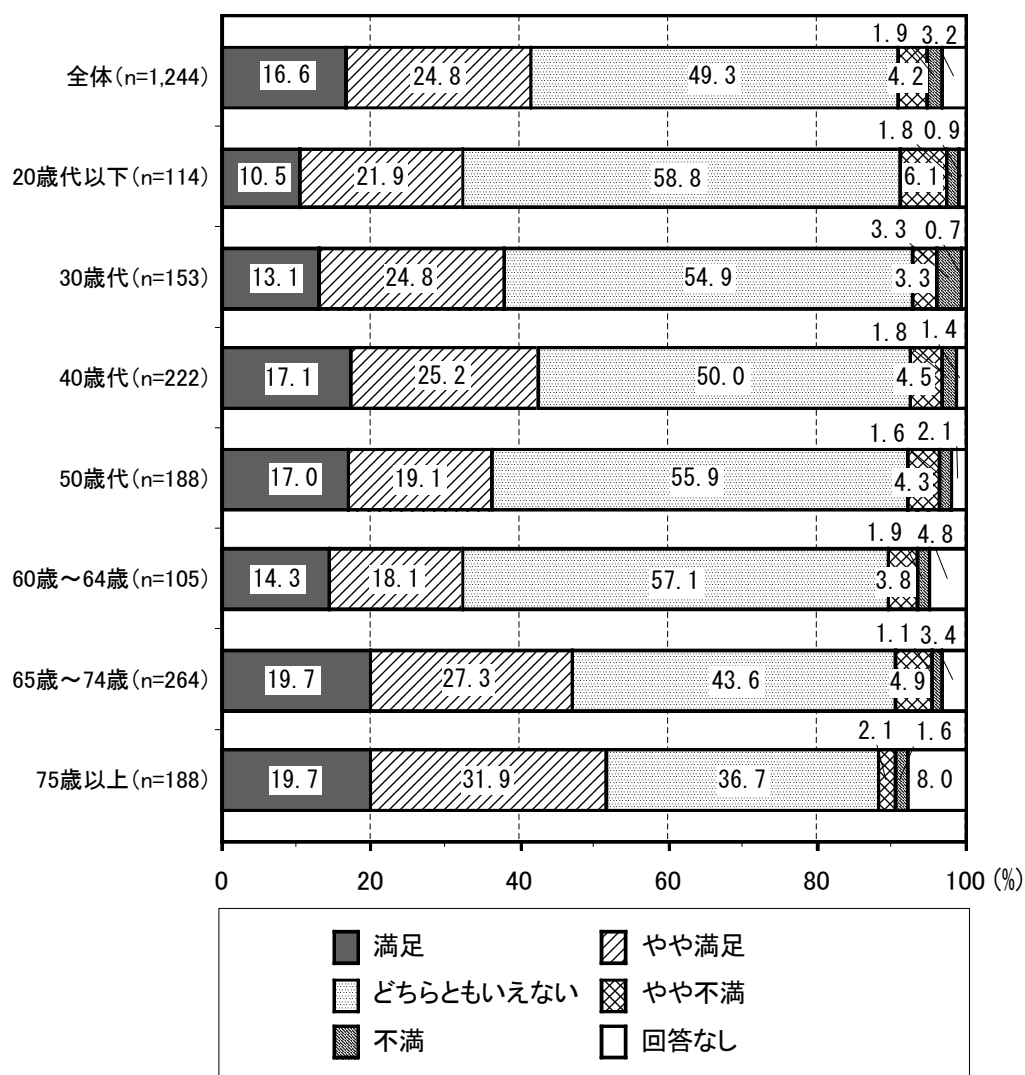
図3-2-1 「地域での付き合いの満足度」(前回比較)



○ “近所づきあいに不満である人” の割合については、年齢の違いによる有意な差はみられません。

○ 一方、“近所づきあいに満足している人” の割合については、75 歳以上では 51.6% を占め、全体値を 10.2 ポイント上回っていますが、20 歳代以下 (32.4%) と 60～64 歳 (32.4%) では、共に全体値を 9.0 ポイント下回っており、満足度が低くなっています (図 3-2-2)。

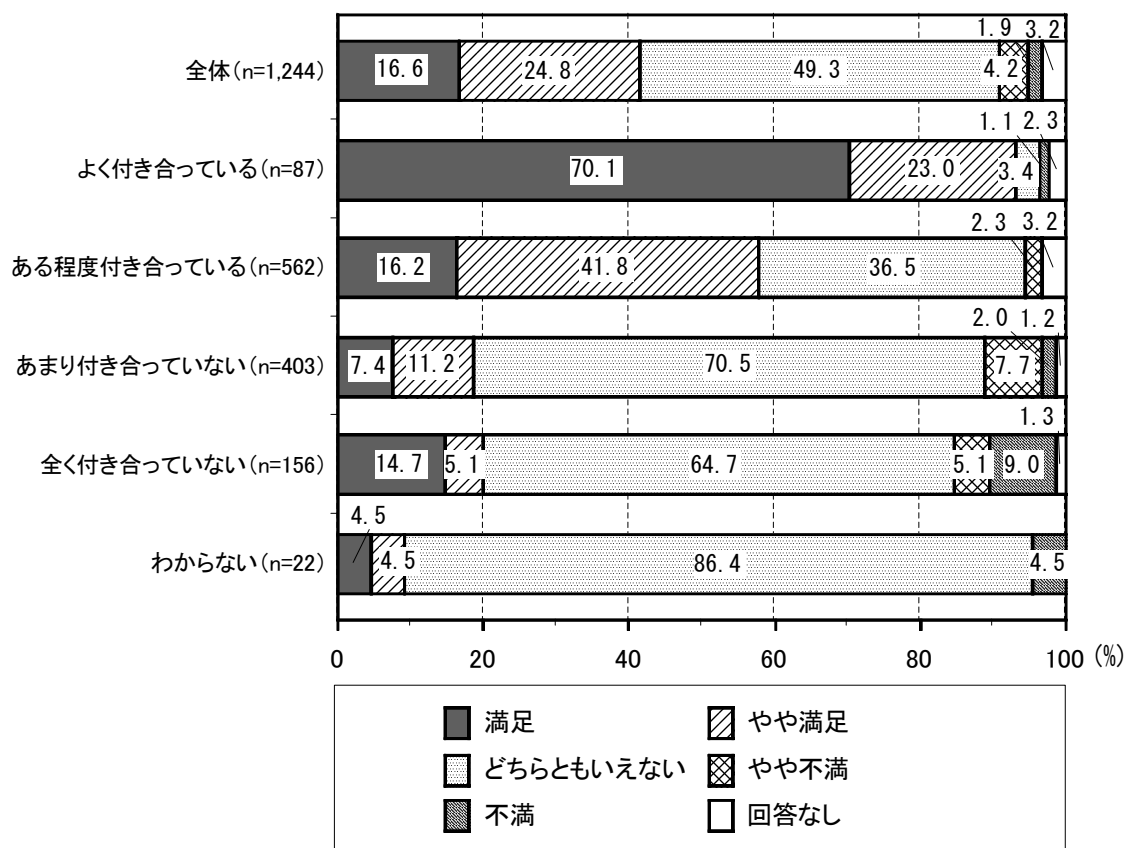
図 3-2-2 年齢別「地域での付き合いの満足度」



○近所づきあいがよい人ほど、満足度が高く、近所づきあいが希薄である人ほど満足度が低い傾向がみられます。

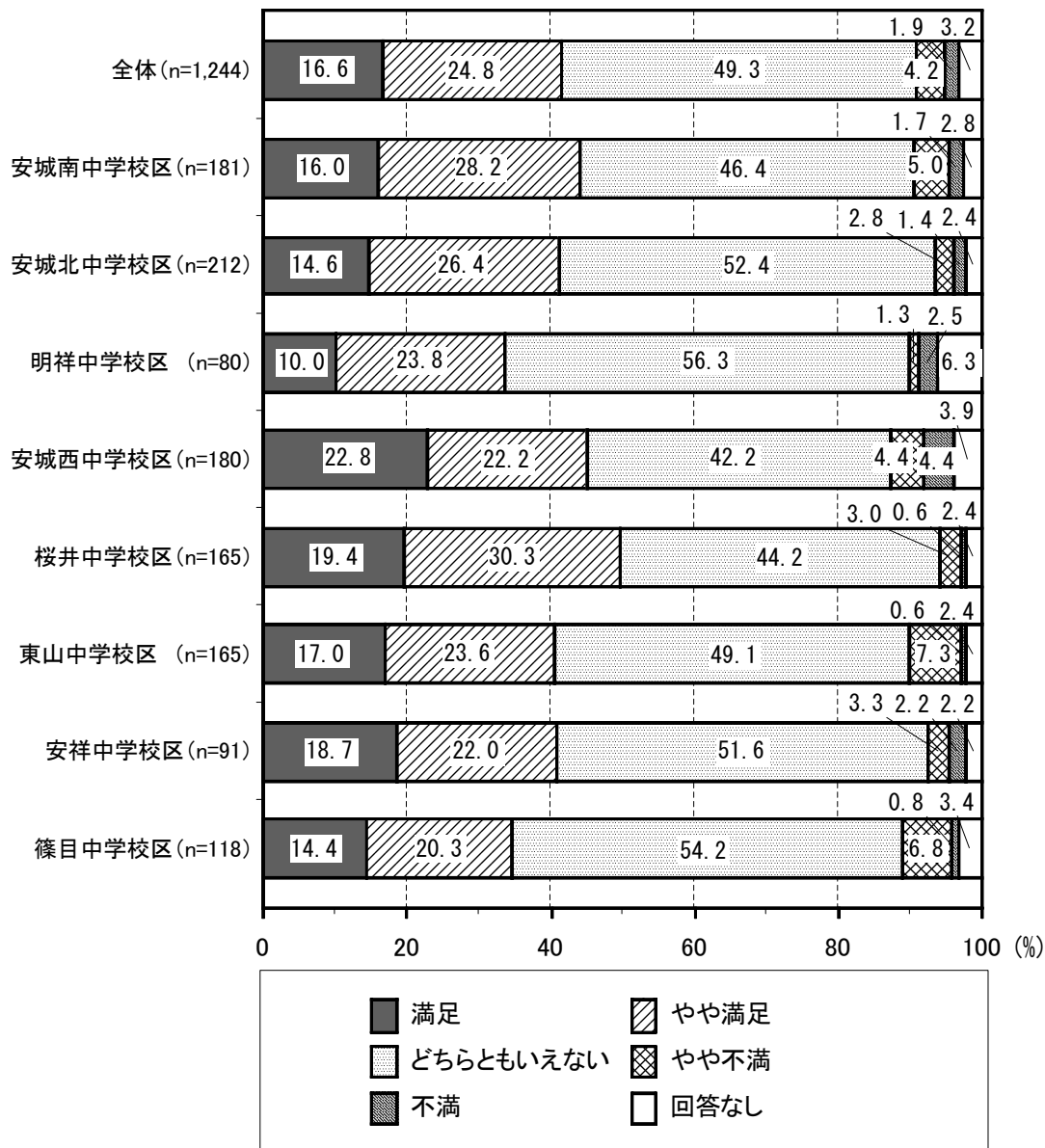
○近所づきあいが希薄である「全く付き合っていない」と「あまり付き合っていない」という人における“近所づきあいに満足している人”の割合は、それぞれ19.8%、18.6%と、共に2割にも達していませんが、「やや不満」や「不満」が極端に多いわけではなく、「どちらともいえない」が、それぞれ64.7%、70.5%と多数を占めています（図3-2-3）。

図3-2-3 近所づきあいの程度別「地域での付き合いの満足度」



○ “近所づきあいに満足している人”の割合は、桜井中学校区で49.7%を占め多い一方で、明祥中学校区（33.8%）と篠目中学校区（34.7%）で少なくなっています（図3-2-4）。

図3-2-4 中学校区別「地域での付き合いの満足度」



(3) 望ましい地域での付き合いの程度（問 17）

問 17 地域での付き合い（近所づきあい）は、どの程度が望ましいと思いますか。（○は1つだけ）

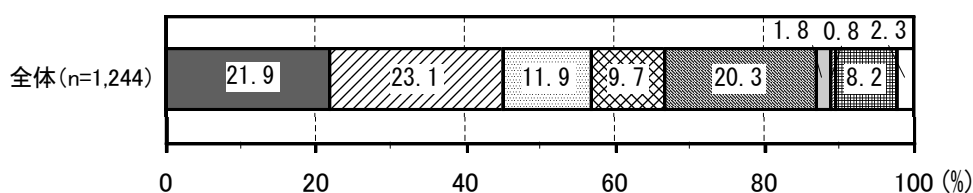
要点

“住民同士で助け合う近所づきあいを望む人”は合わせて 45.0%を占めています。しかしながら、「困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間であいさつを交わす」といった軽い近所づきあいを望む人（20.3%）を含む“困った時に助け合うことをしない近所づきあいを望む人”（41.9%）もほぼ拮抗しています。

全体

- 「住民全ての間で困ったときに互いに助け合う」が 21.9%、「気の合う住民の間で困ったときに助け合う」が 23.1%で、“住民同士で助け合う近所づきあいを望む人”は合わせて 45.0%を占めています。
- これに対して、「地域での付き合いは必要ない」の割合は 1.8%と僅かですが、「困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間であいさつを交わす」といった軽い近所づきあいを望む人が 20.3%を占めています。これと「困ったときに助け合うことまではしなくても、住民がみんなで行事や催しに参加する」（11.9%）と「困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間に世間話や立ち話をする」（9.7%）を合わせた“困った時に助け合うことをしない近所づきあいを望む人”は 41.9%も占め、“住民同士で助け合う近所づきあいを望む人”の割合と拮抗しています（図 3-3-1）。

図 3-3-1 「望ましい地域での付き合いの程度」

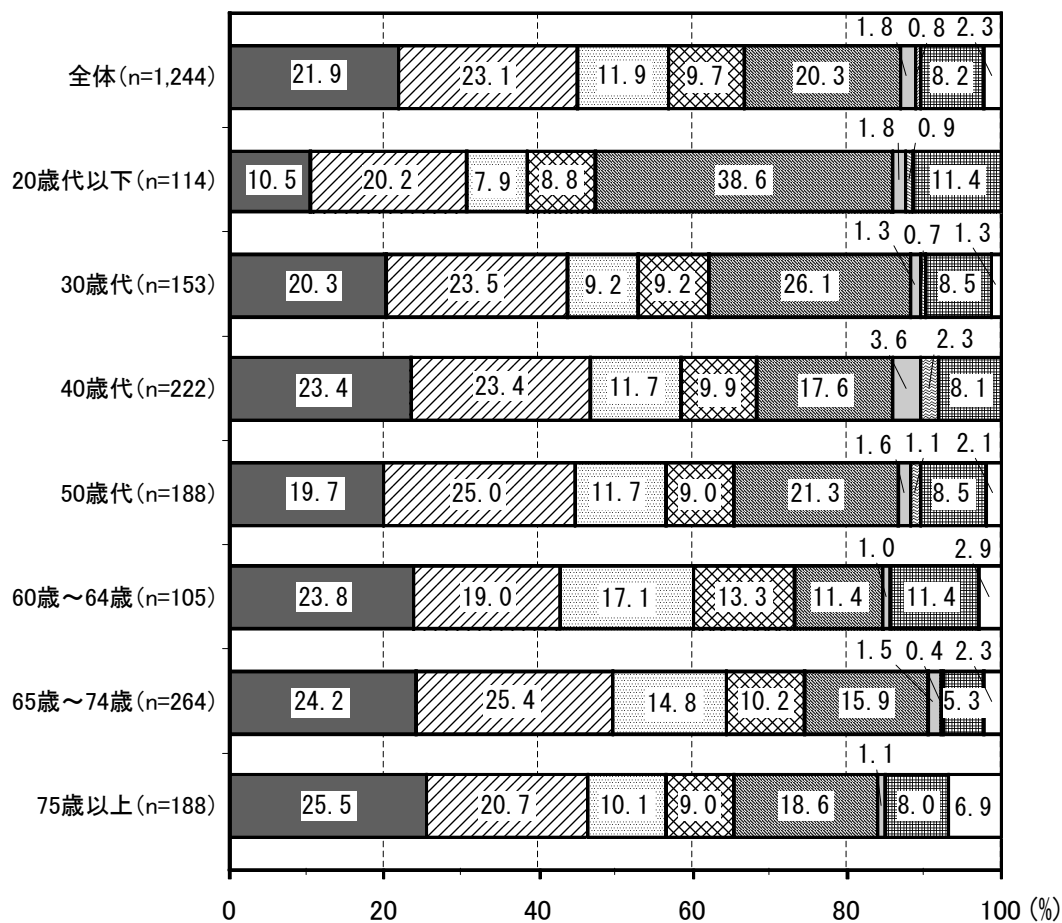


- 住民全ての間で困ったときに互いに助け合う
- ▨ 気の合う住民の間で困ったときに助け合う
- ▤ 困ったときに助け合うことまではしなくても、住民がみんなで行事や催しに参加する
- ▥ 困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間に世間話や立ち話をする
- ▧ 困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間であいさつを交わす
- 地域での付き合いは必要ない
- ▨ その他
- ▤ わからない
- 回答なし

○20 歳代以下で“住民同士で助け合う近所づきあいを望む人”の割合が 30.7%と、他の年齢層に比べて少なくなっています。その分、20 歳代以下では「困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間であいさつを交わす」といった軽い近所づきあいを望む人が 38.6%と目立って多くなっています。

○また、「困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間であいさつを交わす」といった軽い近所づきあいを望む人は、30 歳代でも 26.1%を占め、全体値に比べて多くなっています(図 3-3-2)。

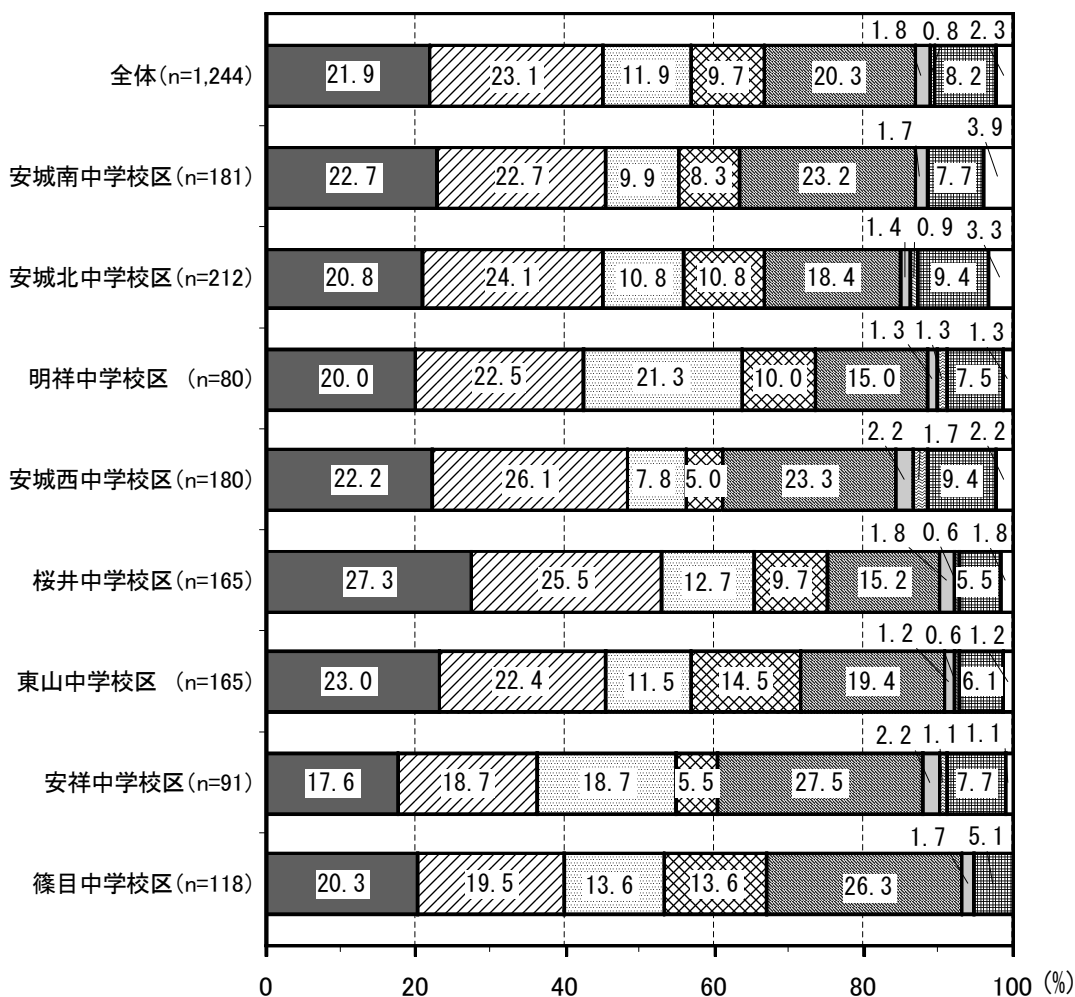
図 3-3-2 年齢別「望ましい地域での付き合いの程度」



- 住民全ての間で困ったときに互いに助け合う
- ▨ 気の合う住民の間で困ったときに助け合う
- ▤ 困ったときに助け合うことまではしなくても、住民がみんなで行事や催しに参加する
- ▧ 困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間で世間話や立ち話をする
- ▩ 困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間であいさつを交わす
- 地域での付き合いは必要ない
- ▨ その他
- ▤ わからない
- 回答なし

○ “住民同士で助け合う近所づきあいを望む人”の割合は、桜井中学校区では52.8%を占め、全体値を7.8ポイント上回っていますが、安祥中学校区（36.3%）では、全体値を8.7ポイント下回っています（図3-3-3）。

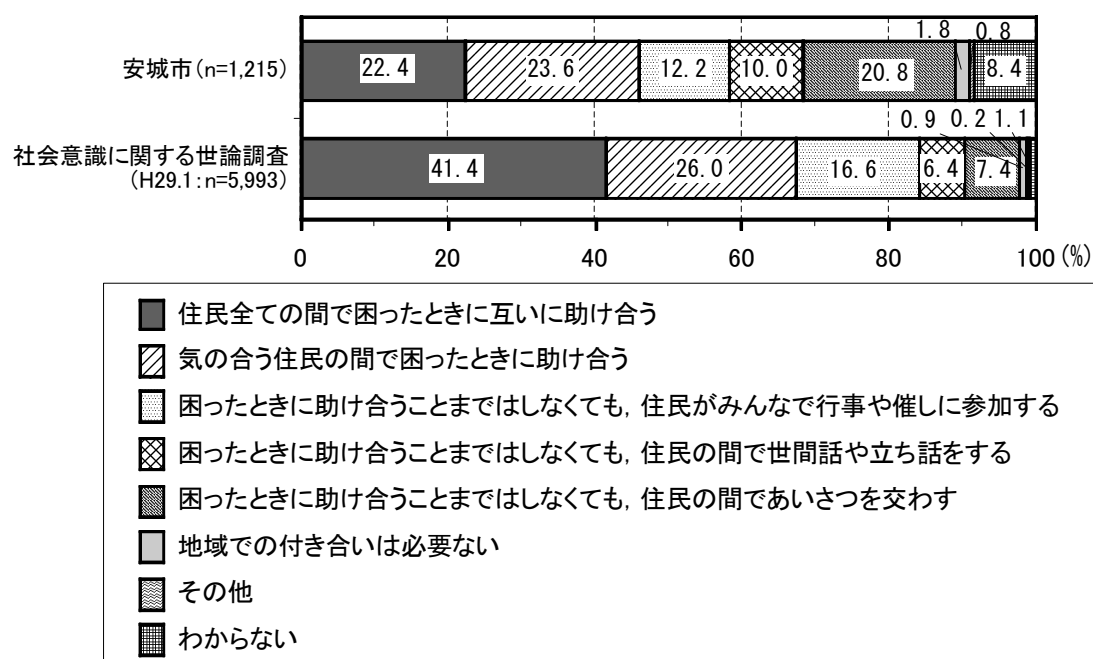
図3-3-3 中学校区別「望ましい地域での付き合いの程度」



- 住民全ての間で困ったときに互いに助け合う
- ▨ 気の合う住民の間で困ったときに助け合う
- ▤ 困ったときに助け合うことまではしなくても、住民がみんなで行事や催しに参加する
- ▥ 困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間で世間話や立ち話をする
- ▧ 困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間であいさつを交わす
- ▩ 地域での付き合いは必要ない
- その他
- わからない
- 回答なし

- 社会意識に関する世論調査（平成 29 年調査）と比較すると、“住民同士で助け合う近所づきあいを望む人”の割合は、国よりも低くなっています。特に、「住民全ての間で困った時にお互い助け合う」の割合は、国が 41.4%であるのに対して、安城市では 22.4%で、国よりも 19.0 ポイントも下回っています。
- 一方、「困ったときに助け合うことまではしなくても、住民の間であいさつを交わす」といった軽い近所づきあいを望む人の割合（20.8%）は、国を 13.4 ポイントも上回っています。（図 3-3-4）。

図 3-3-4 「望ましい地域での付き合いの程度」（世論調査比較）



※国の調査では、「回答なし」を含めていないことから、それに合わせて「回答なし」を除いた%にしたため、図 3-3-1 や 3-3-2、3-3-3 とは%が一致していない。

(4) 近所からの頼みごとの有無 (問 18)

問 18 あなたは、近所の人から頼みごとをされたり、お手伝いしたりすることがありますか。(○は1つだけ)

要点

近所の人から頼みごとをされたり、お手伝いしたりすることが「ある」という人は、25.9%を占めています。

全体

○近所の人から頼みごとをされたり、お手伝いしたりすることが「ある」という人は、25.9%を占めています。前回調査（平成24年度調査）結果とほとんど変化はありません（図3-4-1）。

年齢別

○年齢が高くなるほど、「ある」という割合が増加する傾向がみられます（図3-4-2）。

図 3-4-1 「近所からの頼みごとの有無」(前回比較)

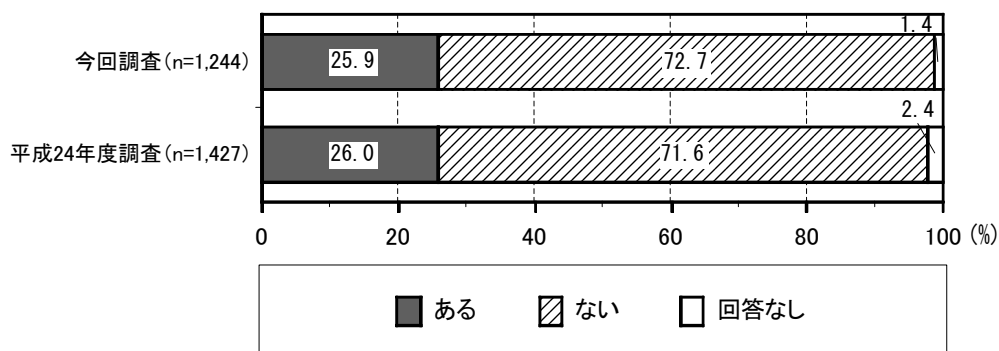
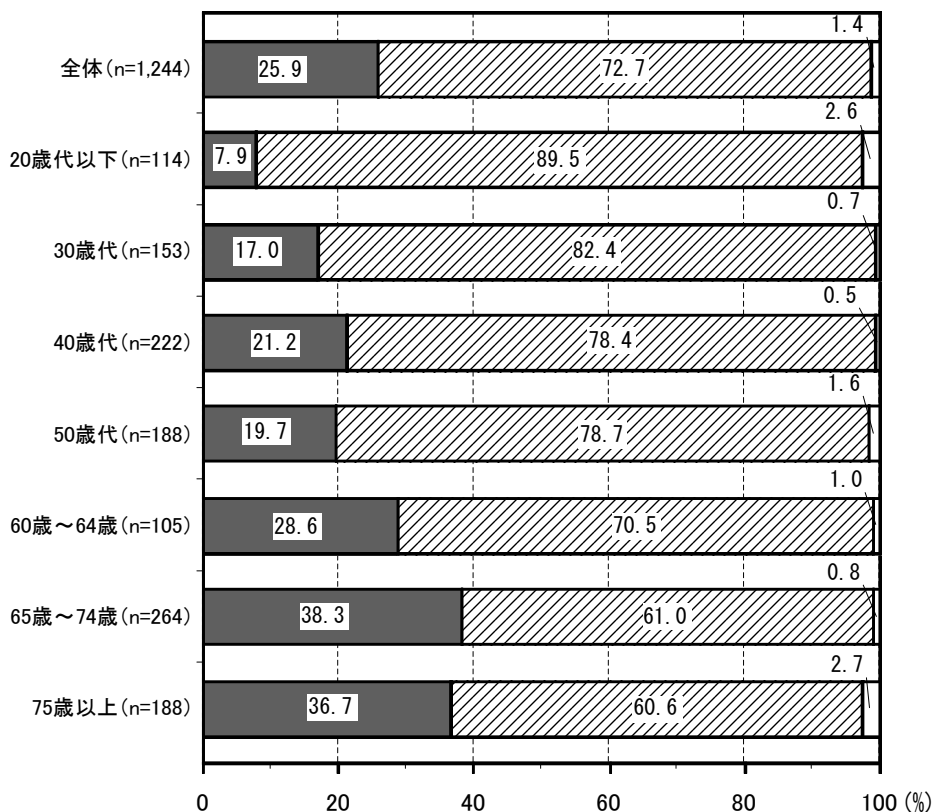
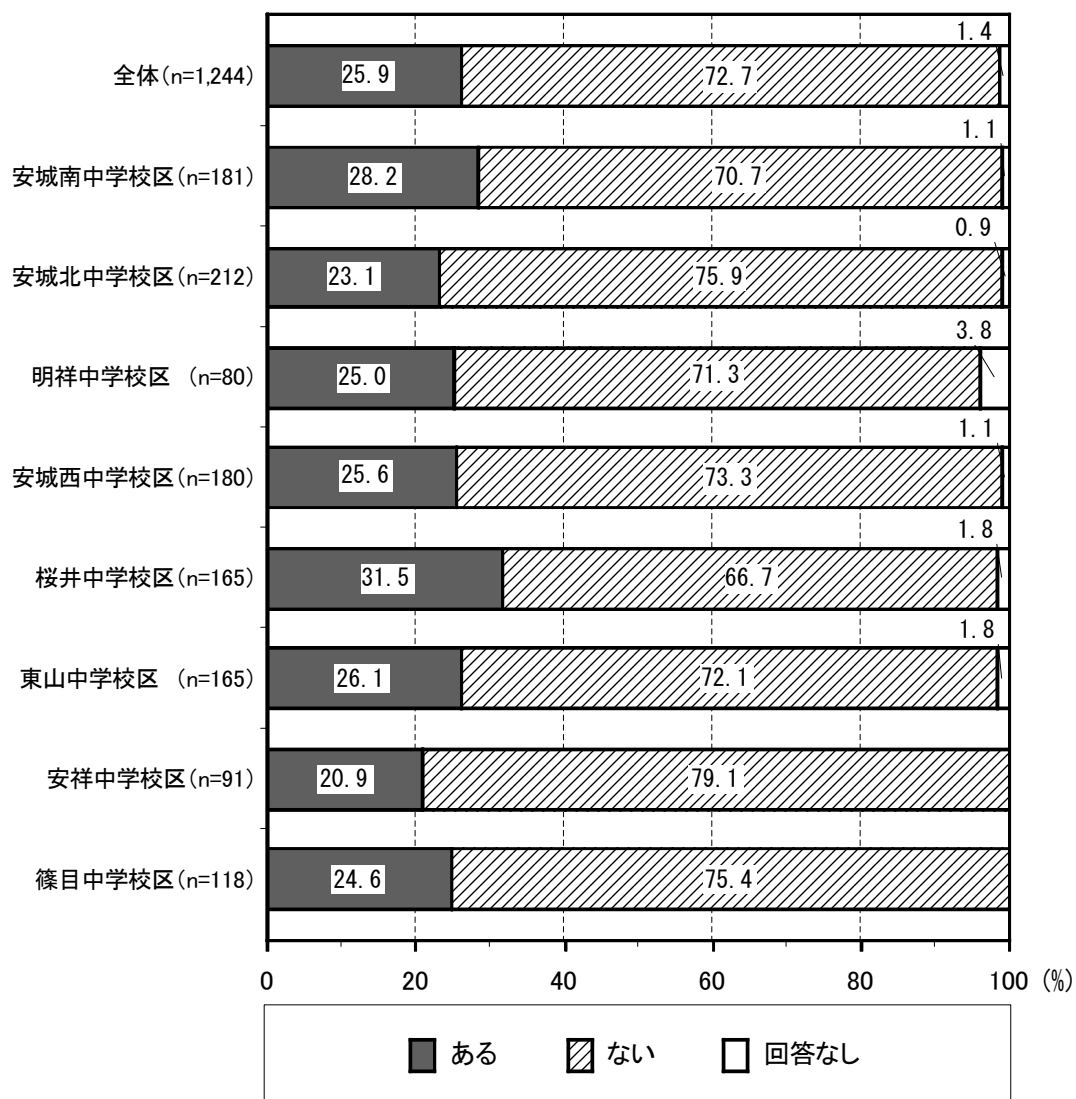


図 3-4-2 年齢別「近所からの頼みごとの有無」



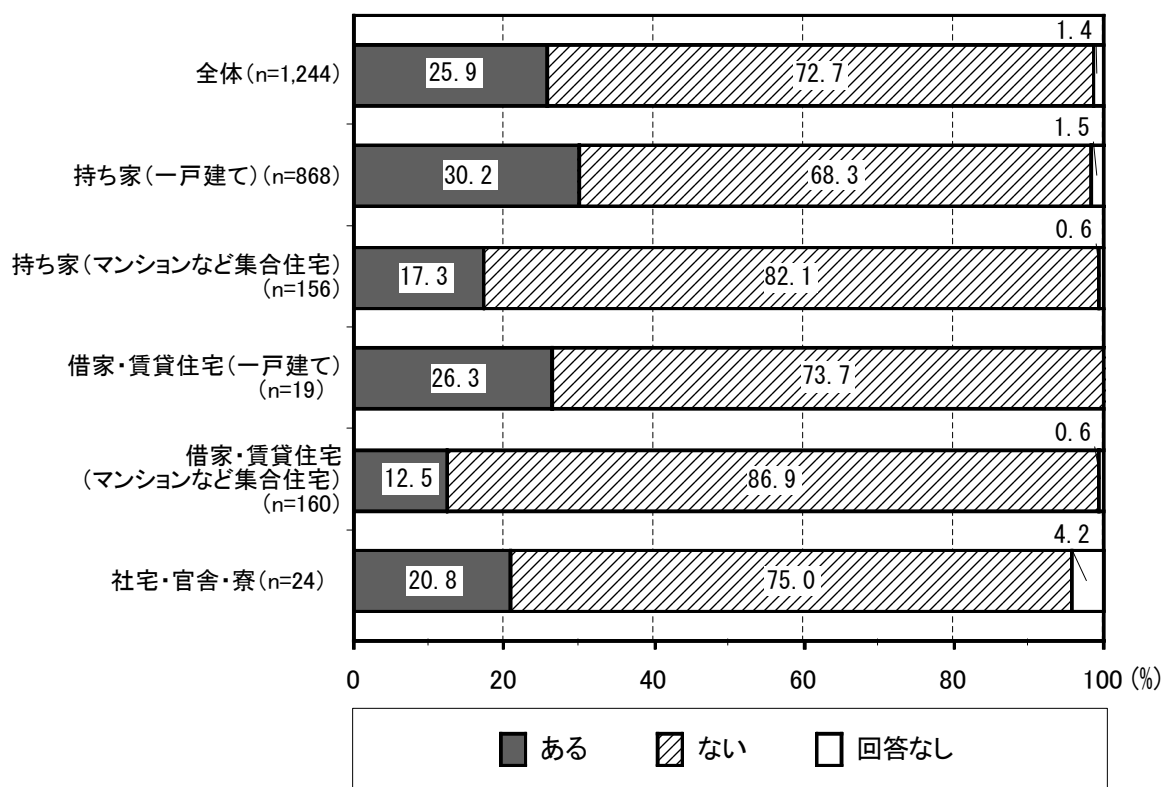
○「ある」という割合は、桜井中学校区では31.5%を占め、全体値を5.6ポイント上回っていますが、安祥中学校区（20.9%）では、全体値を5.0ポイント下回っています（図3-4-3）。

図3-4-3 中学校区別「近所からの頼みごとの有無」



- 「持ち家（一戸建て）」では、「ある」という割合が 30.2%を占めていますが、「借家・賃貸住宅（マンションなど集合住宅）」（12.5%）をはじめ、「持ち家（マンションなど集合住宅）」（17.3%）、「社宅・官舎・寮」（20.8%）では「ある」という割合が少なくなっています。
- このように、住まいの種類によって、近所との間柄が異なっています（図 3-4-4）。

図 3-4-4 住まい別「近所からの頼みごとの有無」



(5) 具体的な手伝いの内容 (問 18-1)

問 18-1 それは、どのような手伝いですか。(あてはまるものすべてに○・ない場合 12 に○)

要点

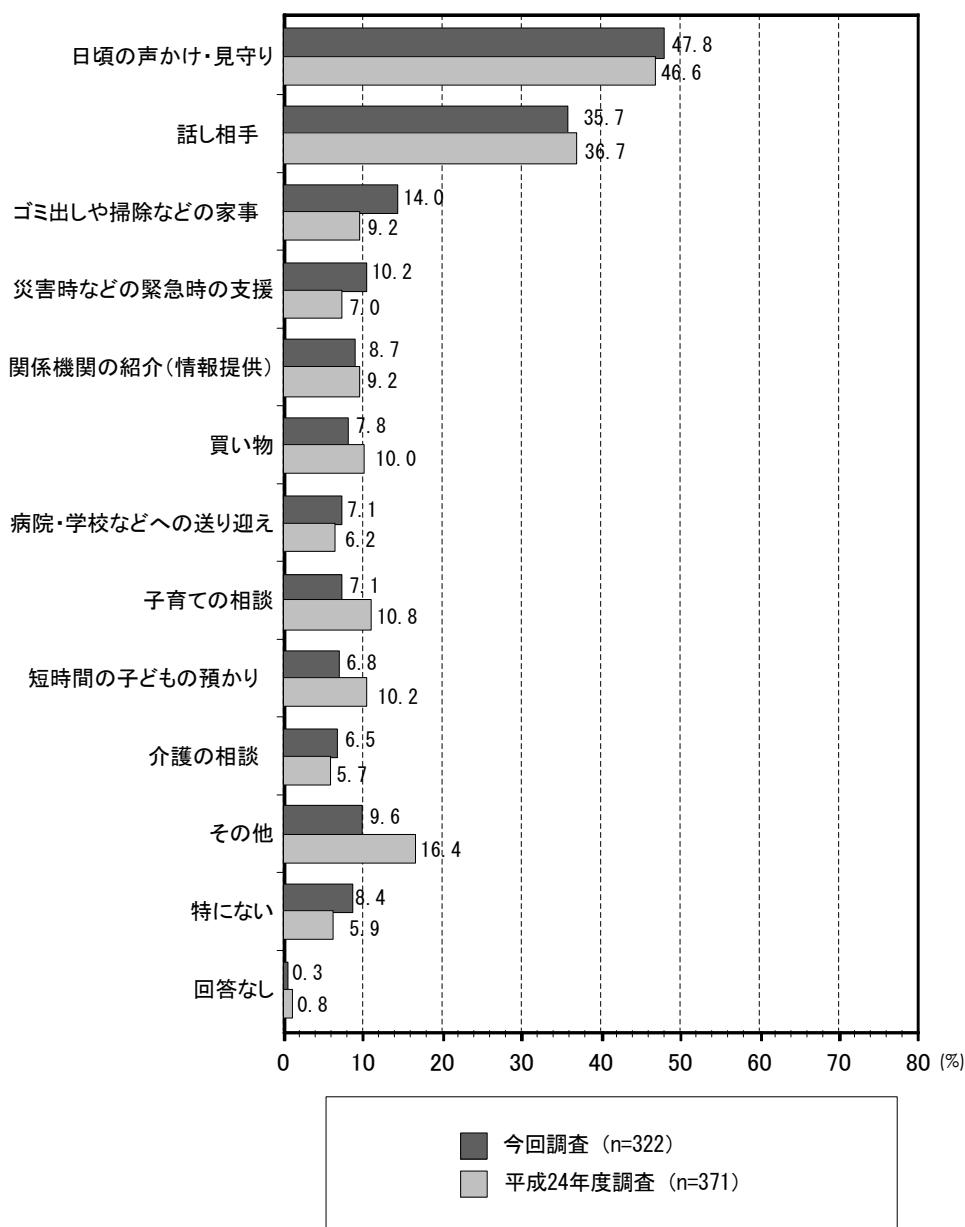
具体的な手伝いの内容については、「日頃の声かけ・見守り」が47.8%と最も多く、次いで「話し相手」(35.7%)が多くなっています。

全体

○問 18 で近所の人から頼みごとをされたり、お手伝いしたりすることが「ある」と回答した 322 人に対して手伝いの内容について尋ねたところ、「日頃の声かけ・見守り」が 47.8%と最も多く、次いで「話し相手」(35.7%)が多くなっています。上位 2 項目とは大きな差があるものの、「ゴミ出しや掃除などの家事」(14.0%)が 3 番目に多くなっています。

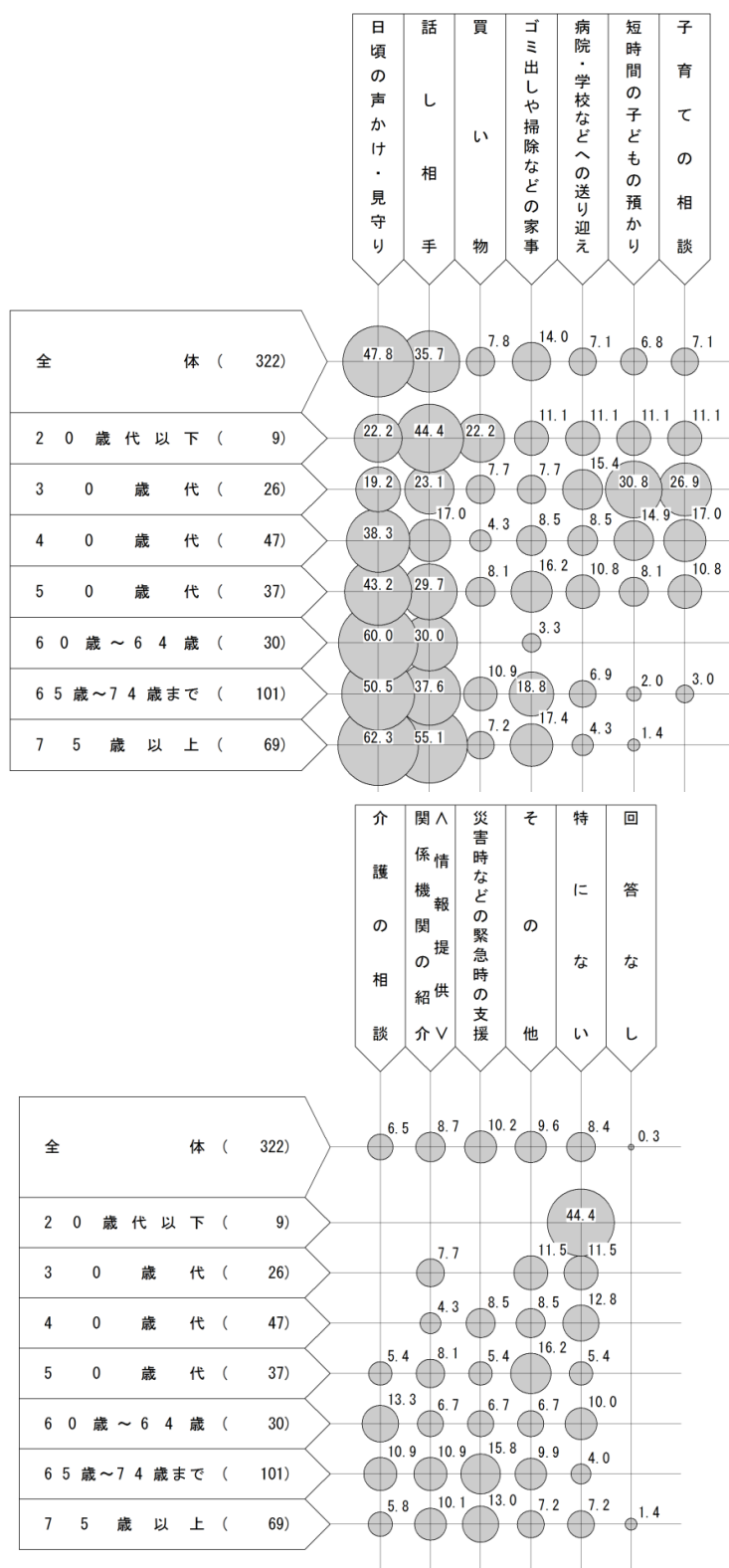
○前回調査 (平成 24 年度調査) 結果と比べてみても、大きな差異は認められません (図 3-5-1)。

図 3-5-1 「具体的な手伝いの内容」(前回調査)



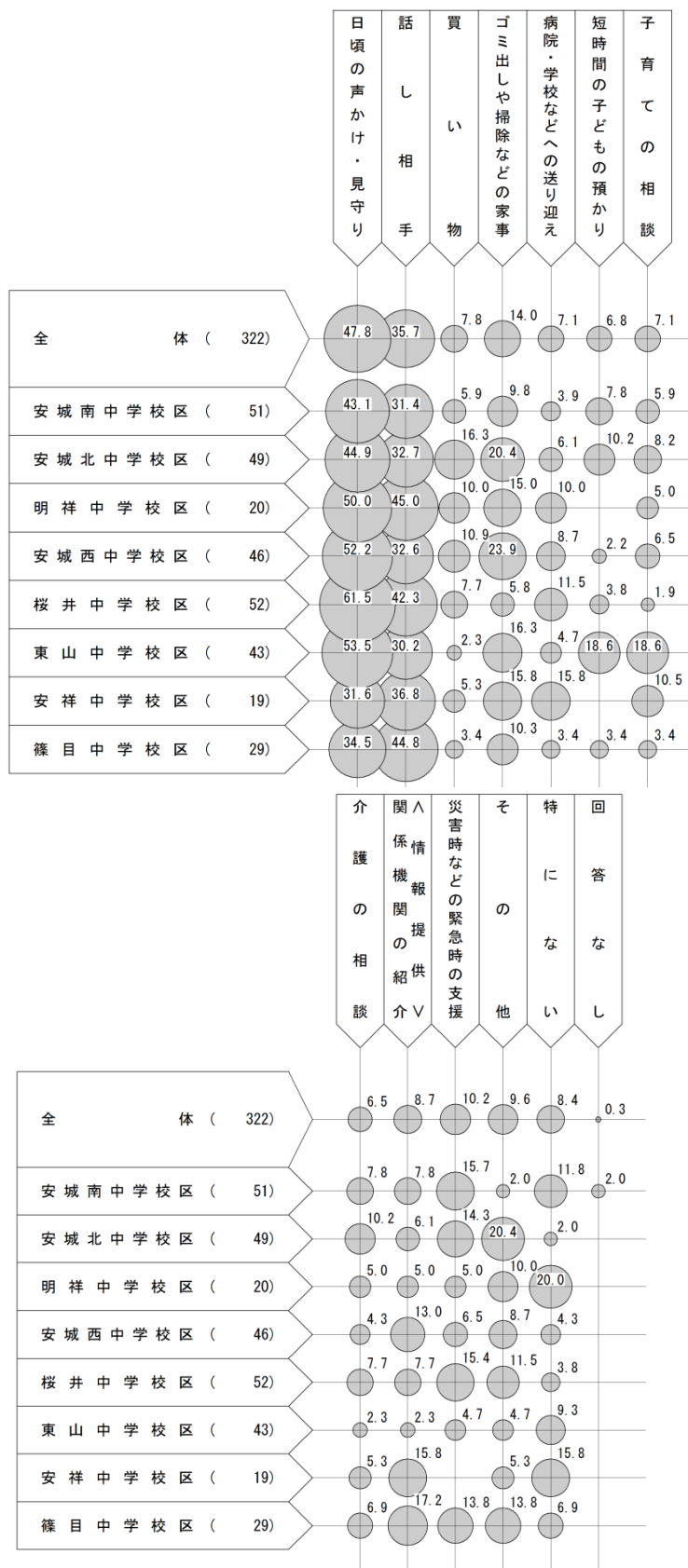
- 「日頃の声かけ・見守り」については、年齢が高くなるにしたがって概ね順次その割合が多くなる傾向がみられます。特に、60歳～64歳（60.0%）と75歳以上（62.3%）における割合が多くなっています。
- 「話し相手」についても、どちらかと言えば年齢が高くなるにしたがって回答割合が多くなる傾向がみられ、75歳以上（55.1%）で最も多くなっています。
- 一方、「短時間での子どもの預かり」と「子育ての相談」については、子育て期である30歳代で多くなっています（図3-5-2）。

図3-5-2 年齢別「具体的な手伝いの内容」



- 「日頃の声かけ・見守り」については、桜井中学校区 (61.5%) で多くなっています。一方、安祥中学校区 (31.6%) と篠目中学校区 (34.5%) で少なくなっています。
- 「話し相手」については、明祥中学校区 (45.0%) や篠目中学校区 (44.8%)、桜井中学校区 (42.3%) で若干多くなっている一方で、東山中学校区 (30.2%) では若干少なくなっています。
- 「買い物」については安城北中学校区 (16.3%) で、若干多くなっています (図 3-5-3)。

図 3-5-3 中学校区別「具体的な手伝いの内容」



（6）今後における近所づきあいの程度（問 19）

問 19 近所の人とは、今後どの程度の付き合いをしていきたいと思いますか。（○は1つだけ）

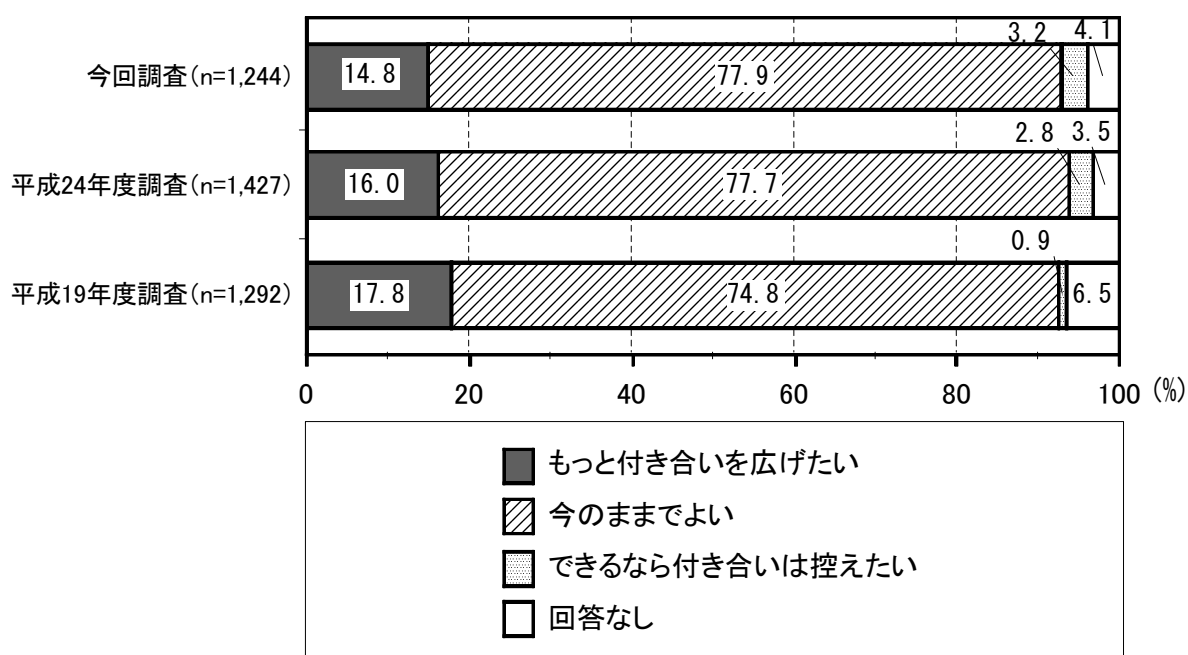
要点

今後の近所づきあいに対して「今のままでよい」と回答した割合が 77.9%を占め最も多くなっています。

全体

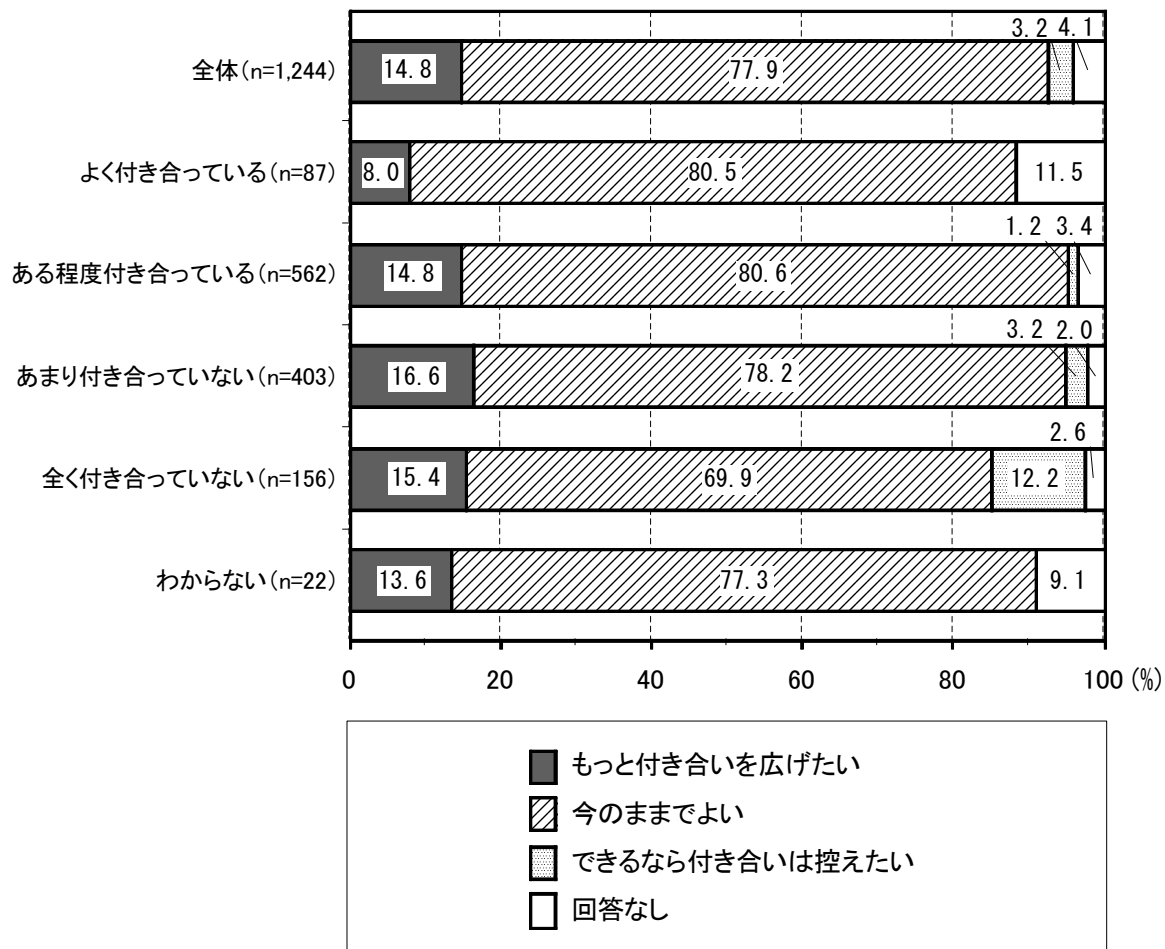
- 「今のままでよい」の割合が 77.9%を占め最も多く、次いで「もっと付き合いを広げたい」が 14.8%、「できるなら付き合いは控えたい」の割合が 3.2%となっています。
- 前回・前々回調査（平成 24 年度・平成 19 年度調査）と比較しても、大きな差異はみられません（図 3-6-1）。

図 3-6-1 「今後における近所づきあいの程度」（前回・前々回比較）



○近所と「よく付き合っている」と回答した人では、「もっと付き合いを広げたい」の割合(8.0%)が少なくなっています。一方、「全く付き合っていない」と回答した人では、「出来るだけ付き合いは控えたい」の割合(12.2%)が少なくなっています(図3-6-2)。

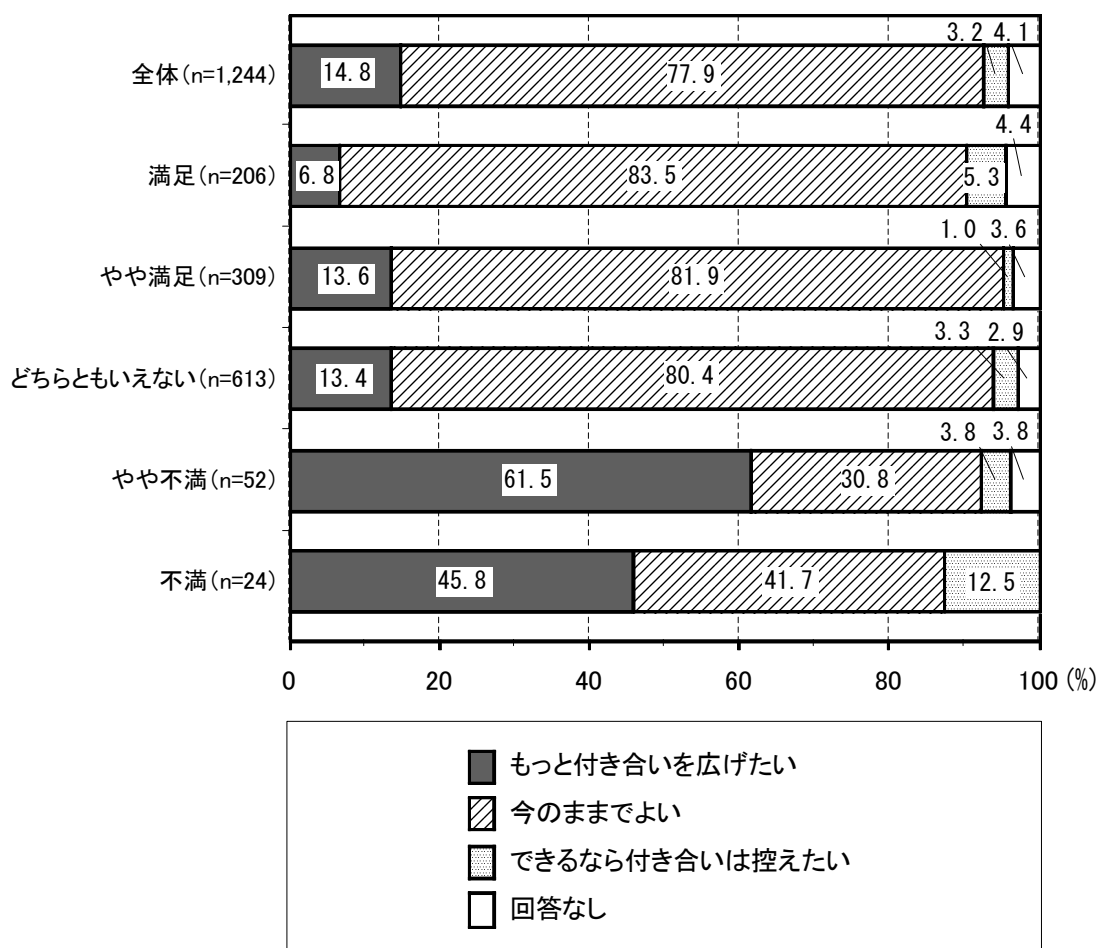
図3-6-2 近所づきあいの程度別「今後における近所づきあいの程度」



○近所づきあいに「やや不満」と「不満」と回答した人では、「もっと付き合いを広げたい」の割合がそれぞれ61.5%、45.8%を占め、目立って多くなっています。

○加えて、近所づきあいに「不満」と回答した人では、「できるなら付き合いは控えたい」の割合（12.5%）が多くなっています（図3-6-3）。

図3-6-3 地域での付き合いの満足度別「今後における近所づきあいの程度」



（7）毎日の暮らしにおける悩みや不安・10年後の悩みや不安（問20、問21）

問20 毎日の暮らしの中で、次のどのようなことで悩みや不安を感じていますか。（○は3つまで・ない場合は10に○）

問21 10年後のあなたご自身やあなたの家族の状況を考えた場合、毎日の暮らしの中で、次のどのようなことで悩みや不安を感じていると思われますか。（○は3つまで・ない場合は10に○）

要点

「自分や家族の健康に関すること」や「介護に関すること」、「お金（収入や家計）に関すること」の3項目が、多くの市民にとって大きな将来不安になっている状況がうかがえます。

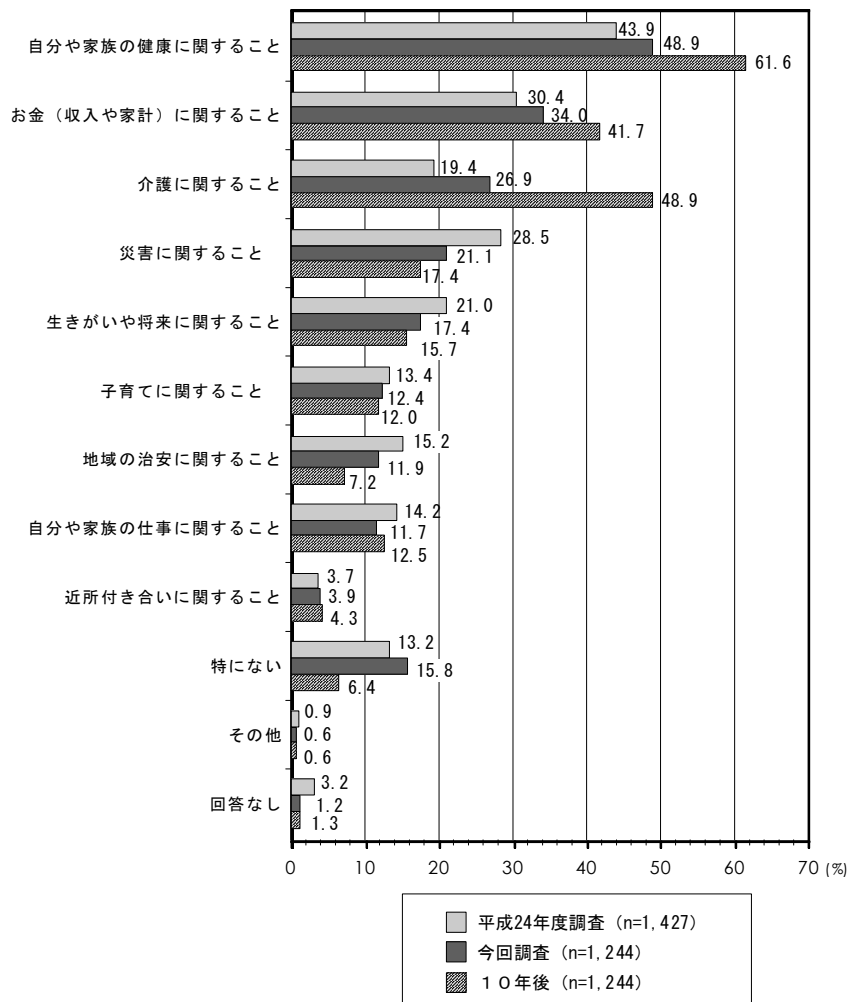
全体

○毎日の暮らしにおける悩みや不安の上位3項目は、1位：「自分や家族の健康に関すること」（48.9%）、2位：「お金（収入や家計）に関すること」（34.0%）、3位：「介護に関すること」（26.9%）となっています。

○一方、10年後の悩みや不安の上位3項目は、1位：「自分や家族の健康に関すること」（61.6%）、2位：「介護に関すること」（48.9%）、3位：「お金（収入や家計）に関すること」（41.7%）となっており、毎日の暮らしにおける悩みや不安の3位である「介護に関すること」が2位に浮上しています。

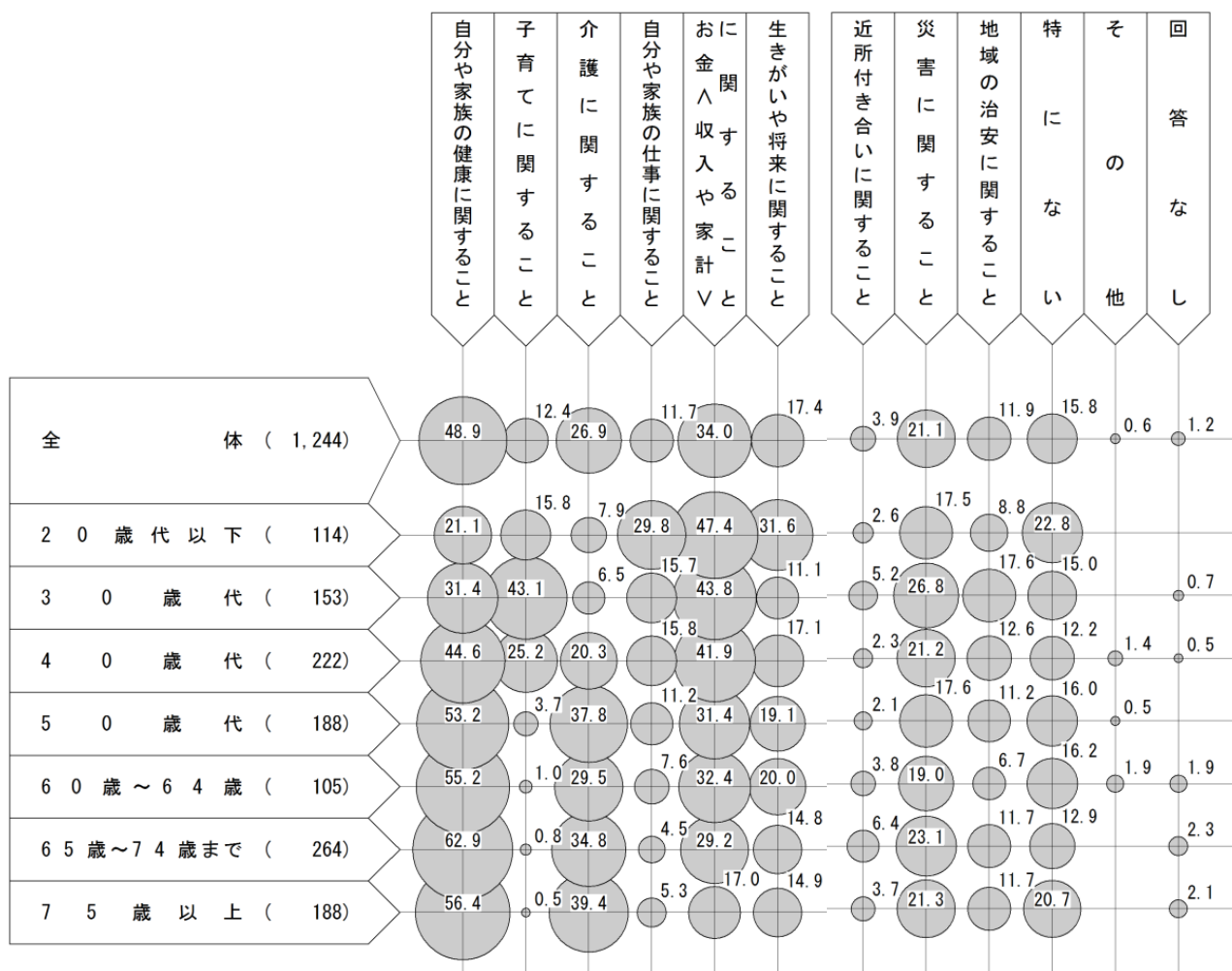
○また、これら上位3項目については、前回調査で、毎日の暮らしにおける悩みや不安と回答した割合よりも今回調査の方が、また、今回調査の毎日の暮らしにおける悩みや不安と回答した割合よりも10年後の悩みや不安と回答した割合の方が、いずれも高い割合になっており、これら3項目は、市民にとって大きな将来不安になっている状況がうかがえます（図3-7-1）。

図3-7-1 「毎日の暮らしにおける悩みや不安・10年後の悩みや不安」



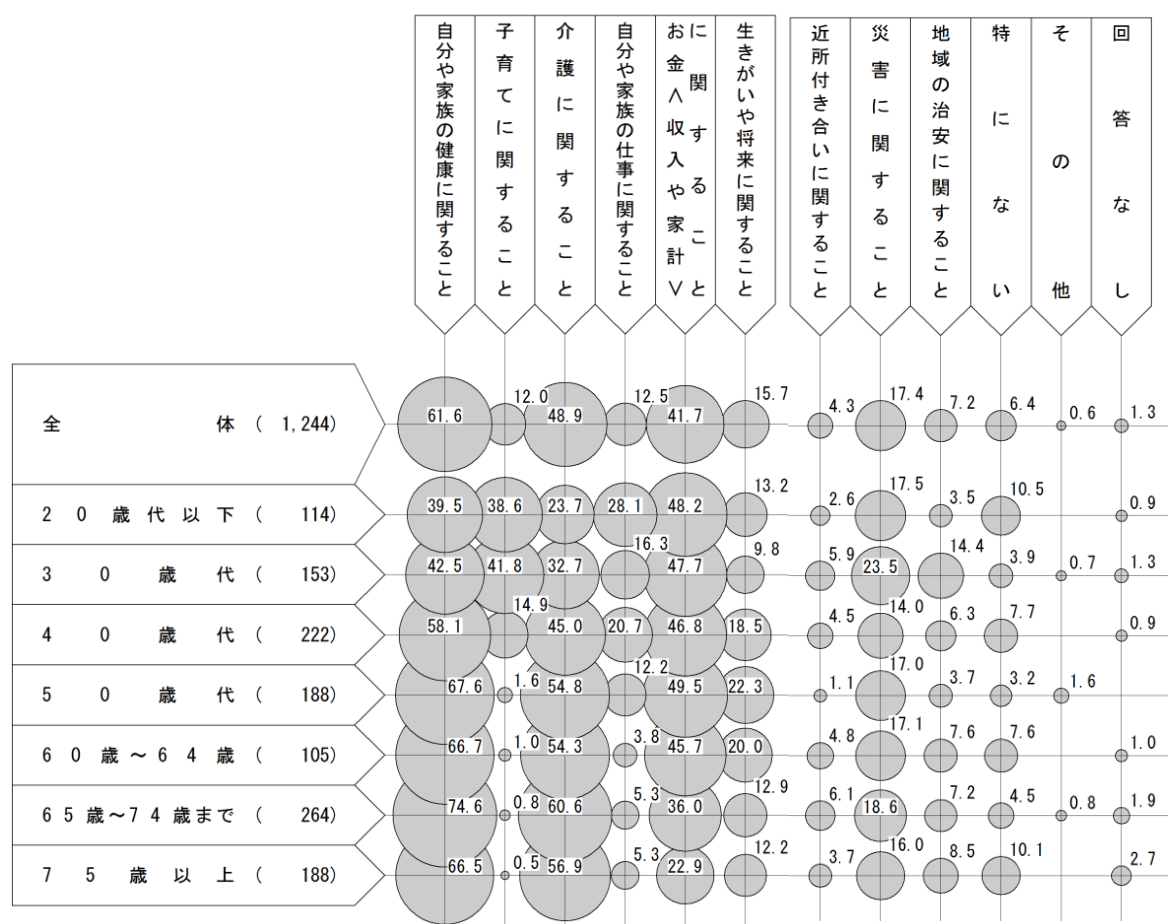
- 年齢別に毎日の暮らしにおける悩みと不安についてみると、「自分や家族の健康に関すること」の割合は、年齢が高くなるにしたがって概ね順次多くなる傾向がみられ、65歳～74歳で62.9%と最も多くなっています。
- 逆に「お金（収入や家計）に関すること」の割合は、年齢が高くなるにしたがって概ね順次少なくなる傾向がみられ、75歳以上の後期高齢者では17.0%となっており、「自分や家族の健康に関すること」(56.4%)や「介護に関すること」(39.4%)、さらには「災害に関すること」(21.3%)ほどは悩みや不安になっていません。
- 「介護に関すること」の割合は、要支援・要介護のリスクを抱える年齢層にあたる75歳以上(39.4%)とその子どもの世代にあたる50歳代(37.8%)で多くなっています。
- 「子育てに関すること」の割合は、子育て世代にあたる30歳代(43.1%)と40歳代(25.2%)で目立って多くなっています(図3-7-2)。

図3-7-2 年齢別「毎日の暮らしにおける悩みや不安」



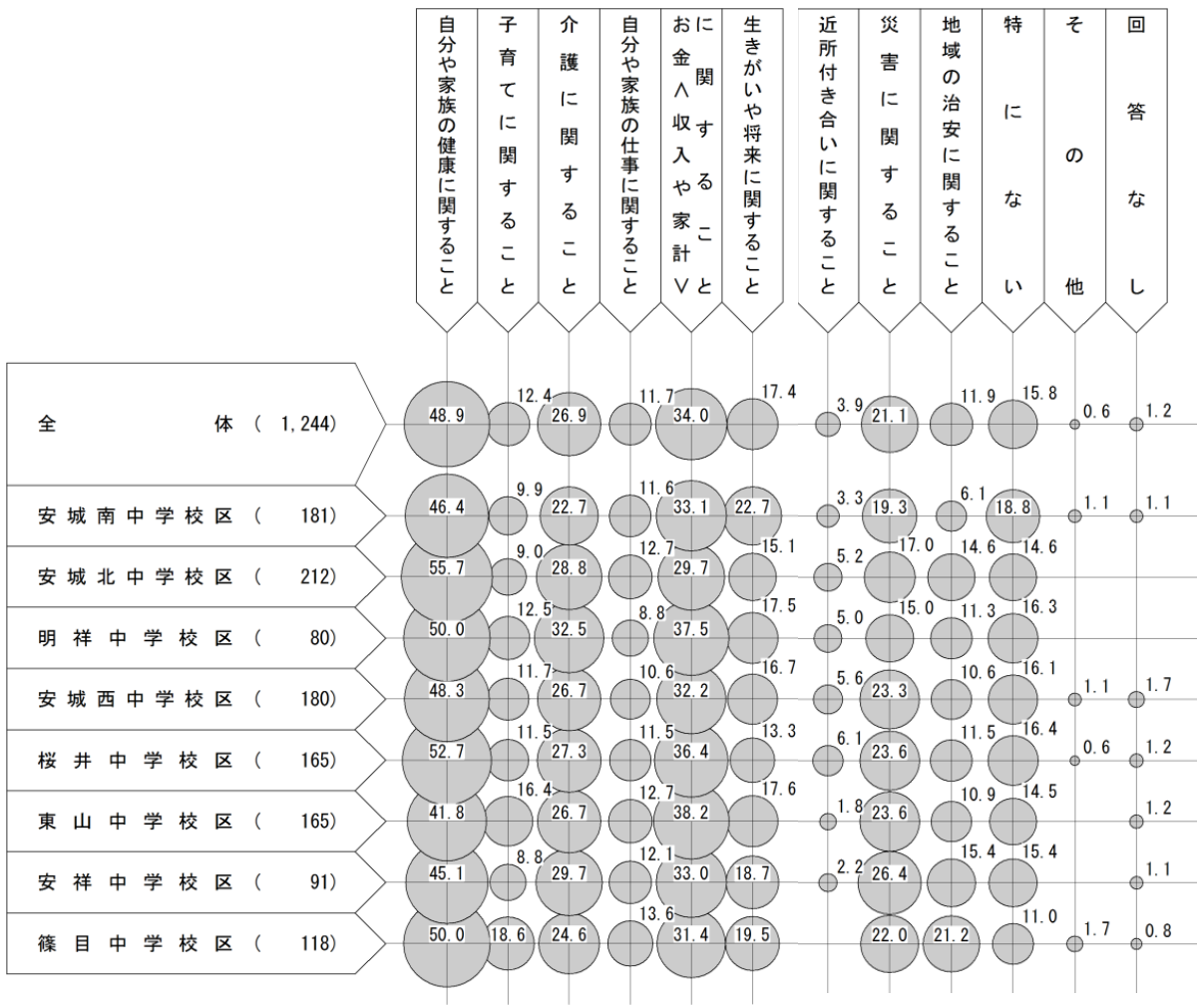
- 年齢別に 10 年後の暮らしの悩みと不安についてみると、「自分や家族の健康に関すること」の割合は、20 歳代以下 (39.5%) や 30 歳代 (42.5%) では少なく、50 歳代以上の中高年層、その中でも 65 歳～74 歳の前期高齢者 (74.6%) で多くなっています。
- 「介護に関すること」の割合についても同様に、50 歳代以上の中高年層で若干多くなっています。
- 逆に「お金 (収入や家計) に関すること」の割合は、20 歳代以下から 50 歳代にかけての年齢層で全体値と比べて若干多くなっている一方で、75 歳以上 (22.9%) や 65 歳～74 歳 (36.0%) では全体値に比べて少なくなっています。「自分や家族の健康に関すること」や「介護に関すること」ほどは悩みや不安となっていない。
- 「子育てに関すること」の割合は、子育て期を迎える年齢層や子育て期にあたる年齢層にあたる 20 歳代以下 (38.6%) や 30 歳代 (41.8%) で目立って多くなっています (図 3-7-3)。

図 3-7-3 年齢別「10 年後の暮らしの悩みや不安」



○毎日の暮らしにおける悩みと不安について中学校区別にみると、全般的にあまり大きな差異はみられませんが、安城北中学校区で「自分や家族の健康に関すること」(55.7%)が、また、明祥中学校区で「介護に関すること」(32.5%)が他の中学校区に比べて若干多くなっています(図3-7-4)。

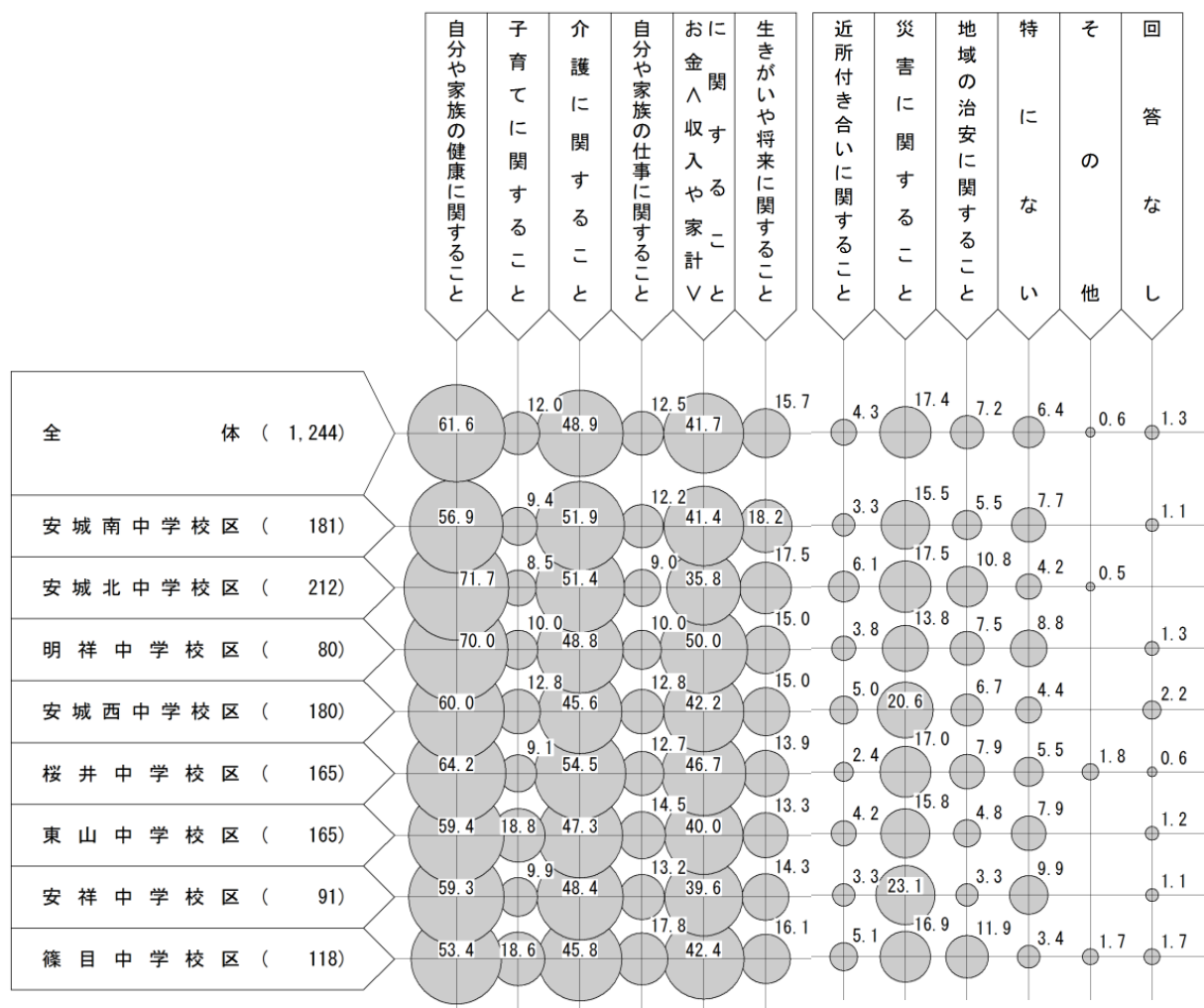
図3-7-4 中学校区別「毎日の暮らしにおける悩みや不安」



○10年後における暮らしの悩みと不安について中学校区別にみると、全般的にあまり大きな差異はみられませんが、安城北中学校区で「自分や家族の健康に関すること」(71.7%)が多くなっています。また、明祥中学校区でも「自分や家族の健康に関すること」(70.0%)が若干多くなっています。

○さらに、桜井中学校区で「介護に関すること」と「お金(収入や家計)に関すること」の割合が若干多くなっています(図3-7-5)。

図3-7-5 中学校区別「10年後の暮らしの悩みや不安」



(8) 家族、親族以外の相談相手 (問 22)

問 22 毎日の暮らしの中で困ったり不安を感じたときに、家族や親族以外では、誰に相談しますか。(あてはまるものすべてに○・不明の場合は14に○)

要点

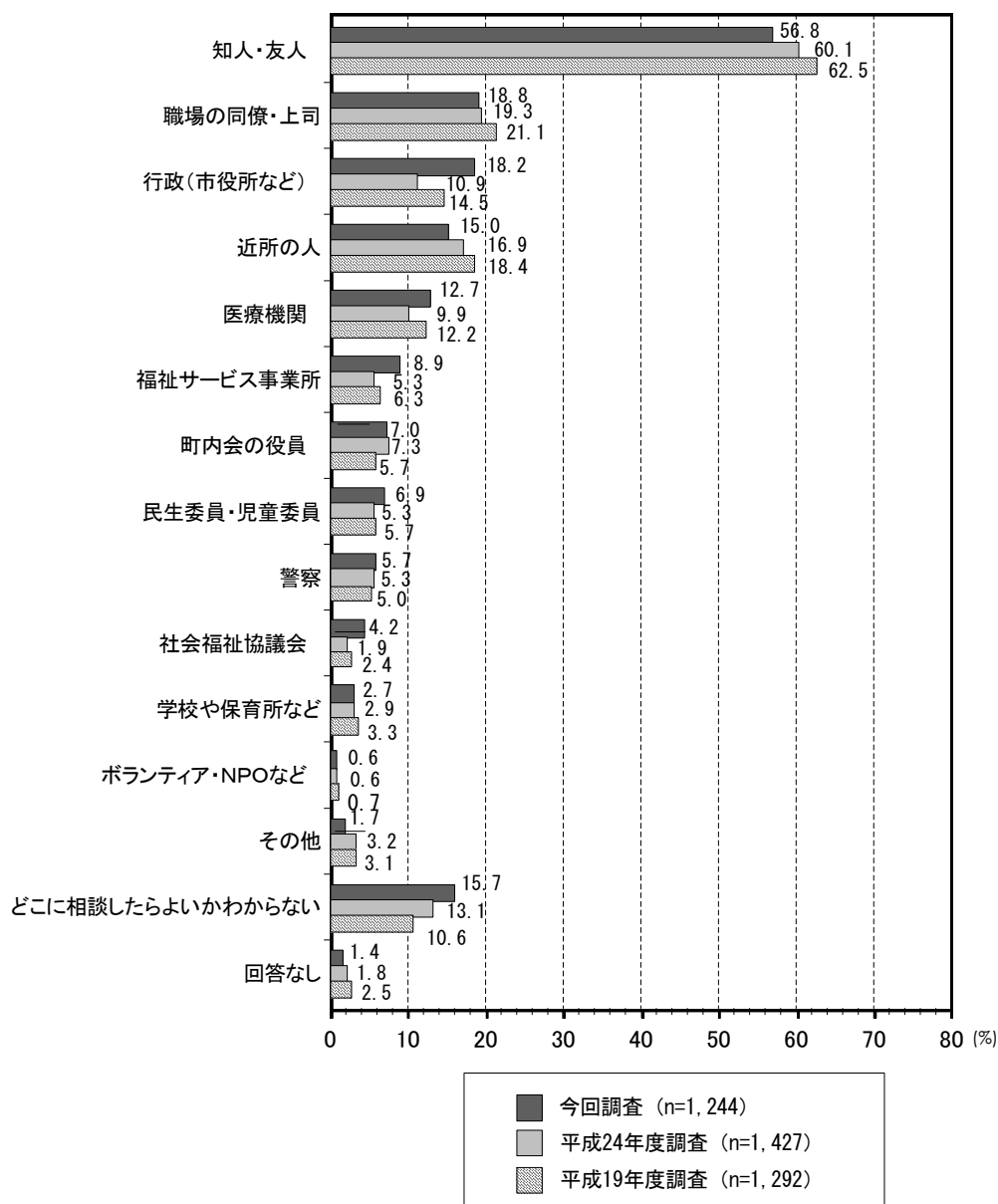
「知人・友人」の割合が 56.8%と最も多なっています。次いで「職場の同僚・上司」(18.8%)、「行政(市役所など)」(18.2%)となっています。

全体

○「知人・友人」の割合が 56.8%と最も多なっています。「知人・友人」よりは随分と割合が少ないながらも、次いで「職場の同僚・上司」(18.8%)と「行政(市役所など)」(18.2%)が多くなっています。

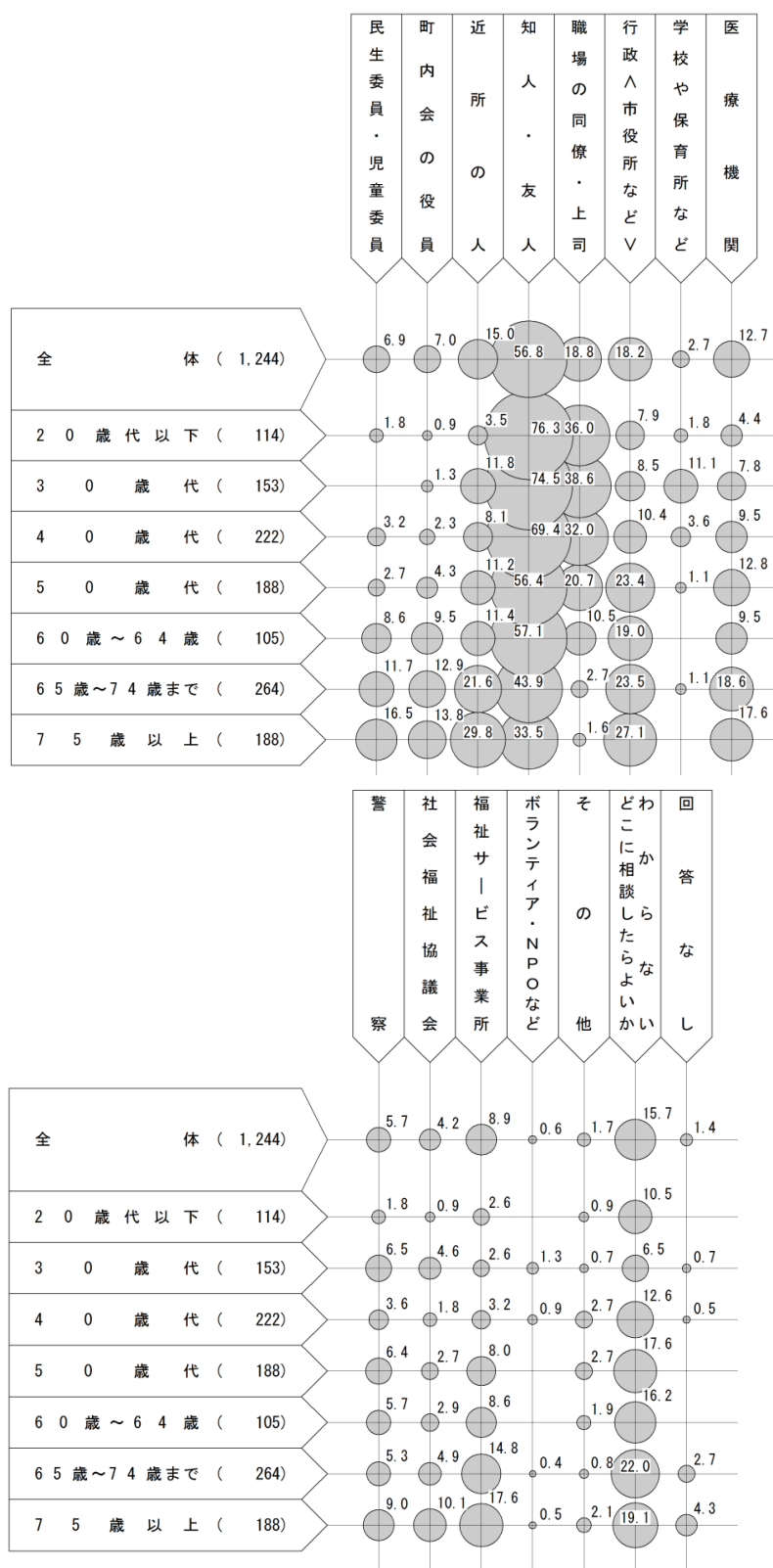
○前回・前々回調査(平成24年度・平成19年度調査)と比較しても大きな差異はみられませんが、「知人・友人」が調査を重ねるごとに割合が少なくなる傾向がみられる一方で、「どこに相談したらよいかわからない」については、調査を重ねるごとに割合が多くなる傾向がみられます。また、「行政(市役所など)」の割合(18.2%)は前回調査に比べて7.3ポイントアップしています(図3-8-1)。

図3-8-1 「家族、親族以外の相談相手」(前回・前々回比較)



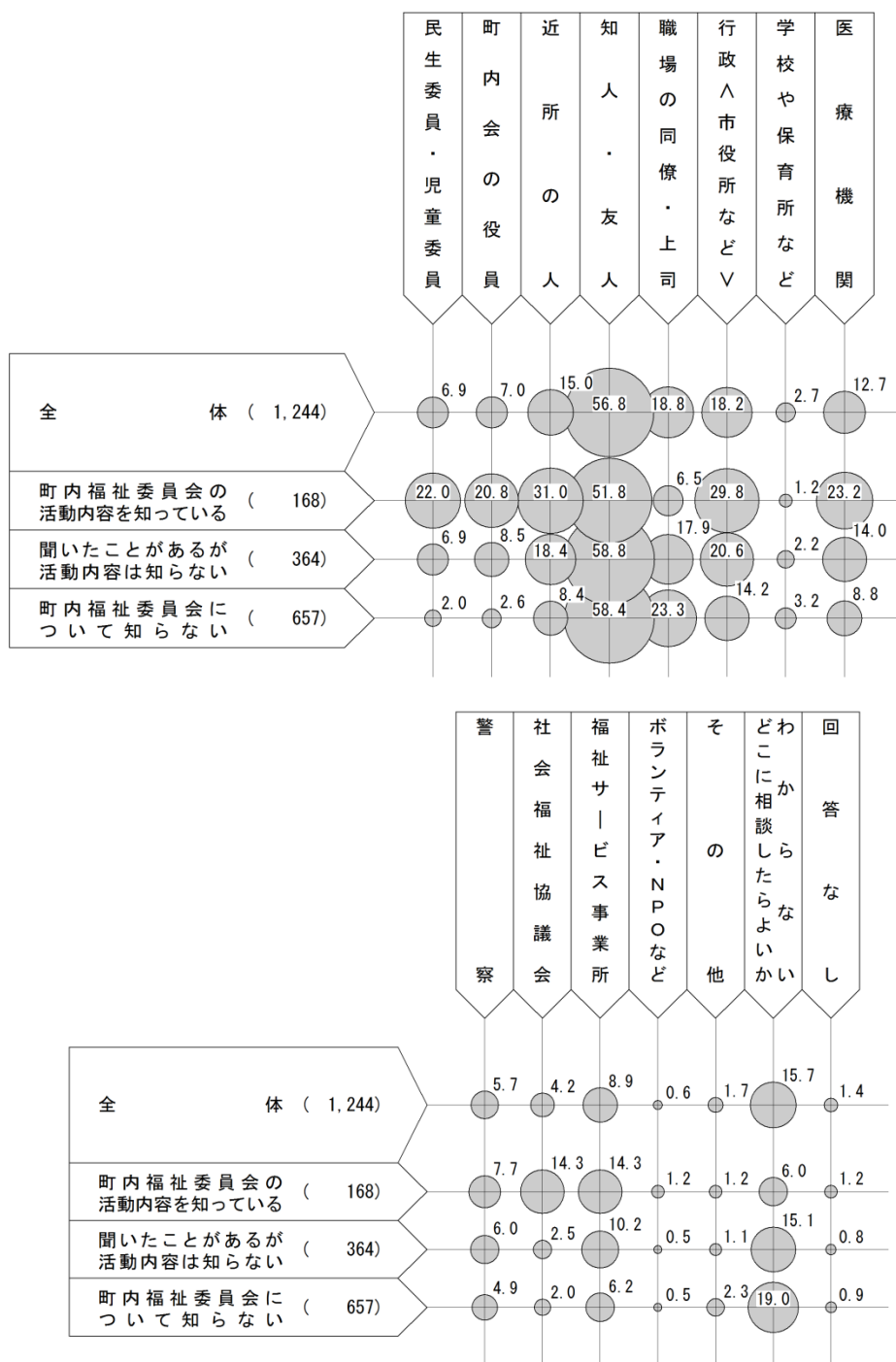
- 「知人・友人」と「職場の同僚・上司」の割合は、20歳代以下から40歳代にかけての年齢層で多く、65歳以上の高齢者層では少なくなっています。
- その分、65歳～74歳の前期高齢者では、「行政（市役所など）」（23.5%）や「医療機関」（18.6%）、「福祉サービス事業所」（14.8%）、「どこに相談してよいかわからない」（22.0%）が若干多くなっています。また、75歳以上の後期高齢者では、「行政（市役所など）」（27.1%）や「福祉サービス事業所」（17.6%）が若干多くなっています（図3-8-2）。

図3-8-2 年齢別「家族、親族以外の相談相手」



○町内福祉員会をよく知っている人ほど、家族・親族以外の相談相手が多様である状況をうかがわせる結果になっています（図 3-8-3）。

図 3-8-3 町内福祉委員会の認知度別「家族、親族以外の相談相手」



(9) 困っている世帯にできること (問 23)

問 23 地域で、ひとり暮らし高齢者、介護や病気、子育てなどで困っている世帯があったら、あなたにできることは何ですか。(○は3つまで・ない場合は1 2に○)

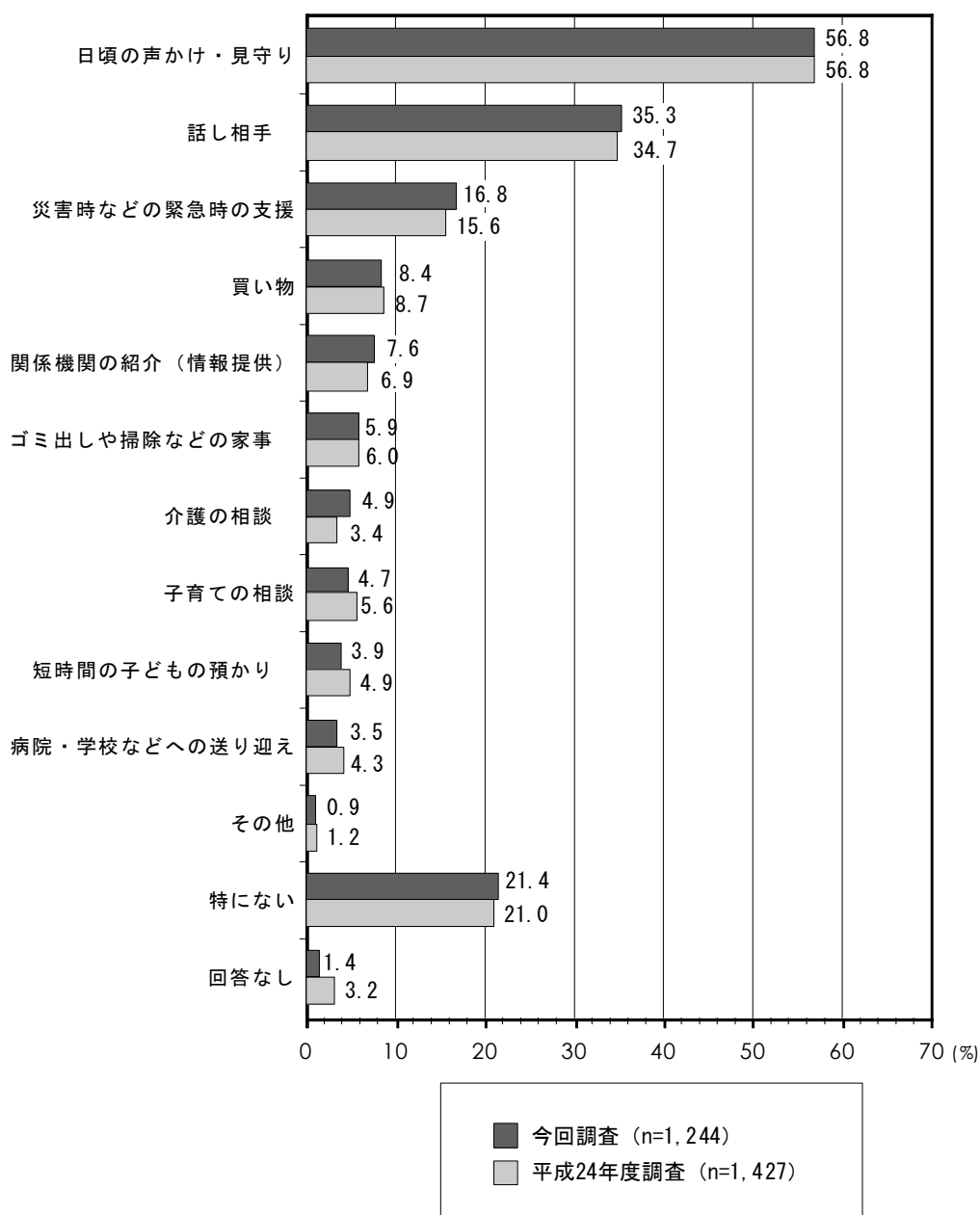
要点

「日ごろの声かけ・見守り」の割合が 56.8%と最も多く多く、次いで「話し相手」(35.3%) が多くなっています。

全体

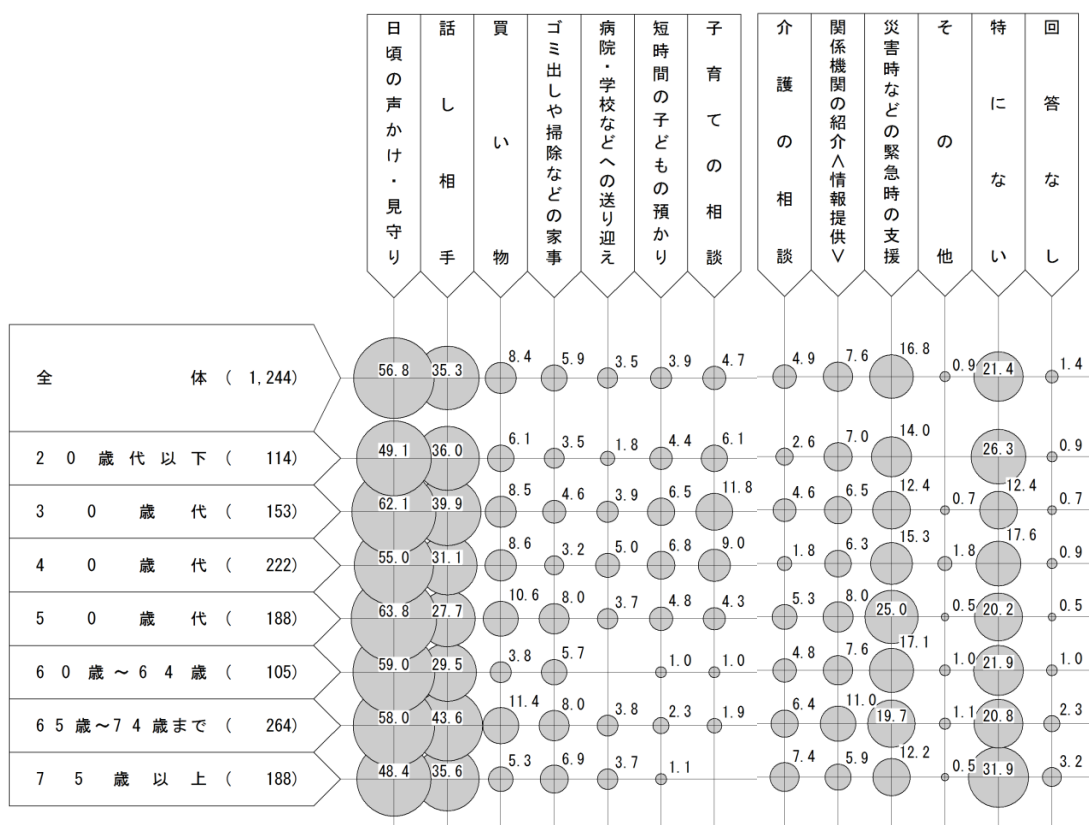
- 「特にない」が 21.4%を占めており、これと「回答なし」(1.4%)を除いた残りの 77.2%の人が、一人暮らし高齢者など困っている世帯があった時の何らかの支援項目を回答しています。
- 具体的には、「日ごろの声かけ・見守り」の割合が 56.8%と最も多く、次いで「話し相手」の割合が 35.3%、「災害時などの緊急時の支援」の割合が 16.8%となっています。
- その他の具体的な支援の項目は、いずれも 1 割未満の割合にとどまっています。しかしながら、例えば、「病院・学校などへの送り迎え」の割合は 3.5%と少ないですが、仮に安城市全体の 18 歳以上の人口に換算するしてみると、5 千人以上と相当の人数になります (図 3-9-1)。

図 3-9-1 「困っている世帯にできること」(前回比較)



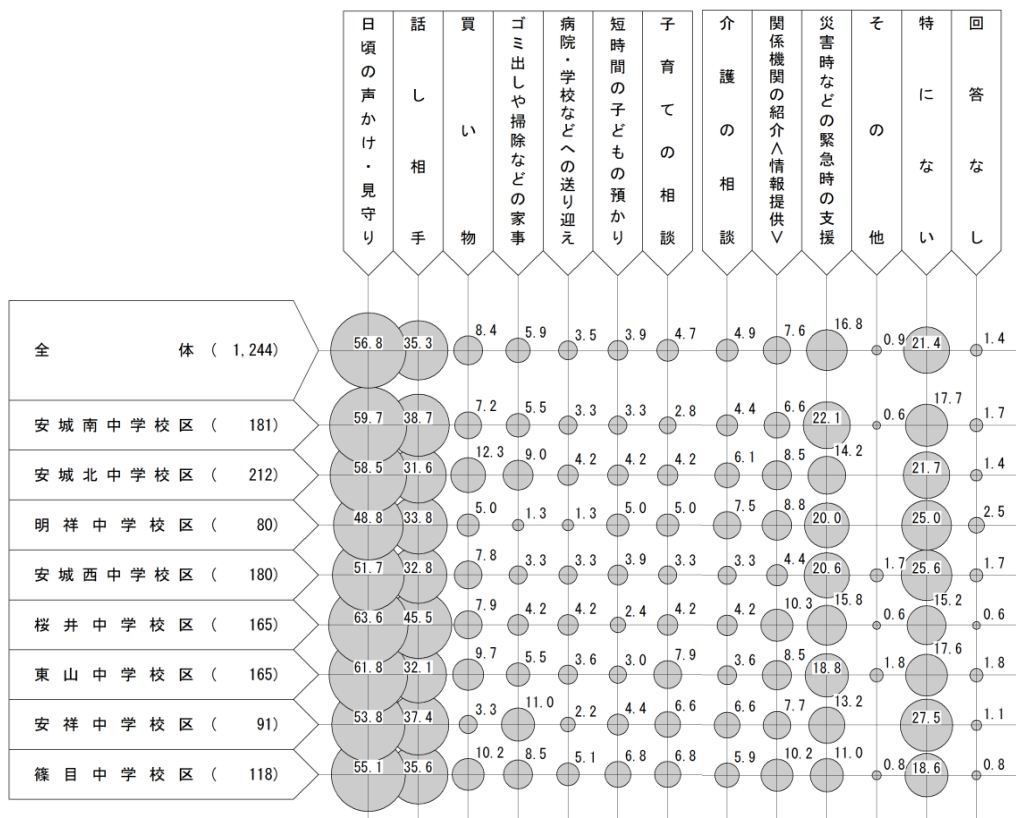
- 「日ごろの声かけ・見守り」の割合は、30 歳代（62.1%）や 50 歳代（63.8%）で若干多くなっている一方で、75 歳以上の後期高齢者層で若干少なくなっています。75 歳以上の後期高齢者層ではその分「特になし」（31.9%）が全体値に比べて多くなっています。
- 「話し相手」の割合は、50 歳代（27.7%）と 60 歳～64 歳（29.5%）で全体値に比べて若干少なくなっている一方で、65 歳～74 歳の前期高齢者で若干多くなっています。
- 「災害時などの緊急時の支援」の割合は 50 歳代（25.0%）で若干多くなっています（図 3-9-2）。

図 3-9-2 年齢別「困っている世帯にできること」



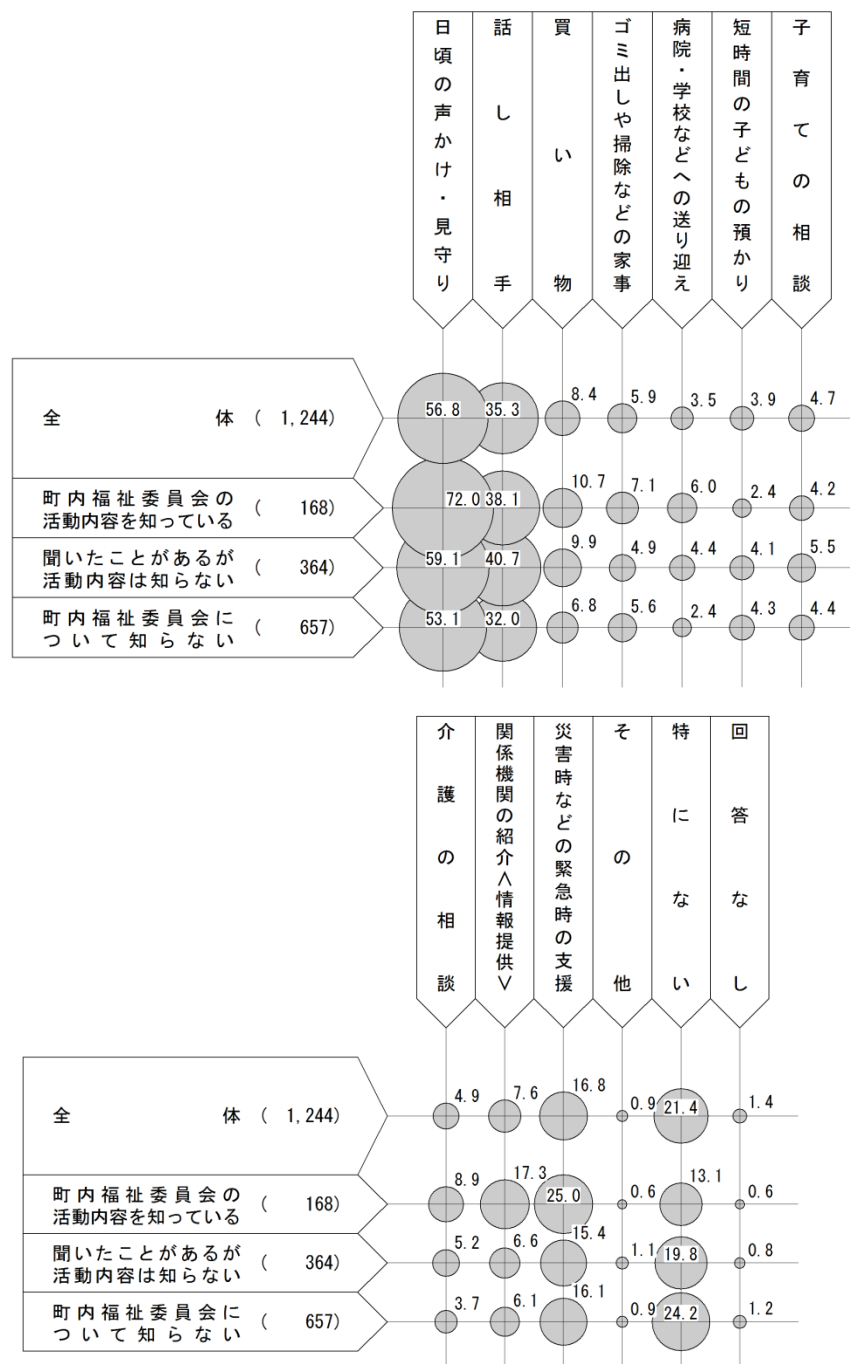
- 「日ごろの声かけ・見守り」の割合は、桜井中学校区（63.6%）と東山中学校区（61.8%）で全体値に比べて若干多くなっている一方で、明祥中学校区（48.8%）と安城西中学校区（51.7%）で若干少なくなっています。
- 桜井中学校区では、これに加えて「話し相手」の割合が 45.5%と全体値を 10.2 ポイント上回っています。
- なお、安祥中学校区では、「特になし」の割合が全体値に比べて若干多くなっています(図 3-9-3)。

図 3-9-3 中学校区別「困っている世帯にできること」



○「町内福祉委員会の活動内容を知っている」と回答した人において、「日頃の声かけ・見守り」の割合（72.0%）が全体値に比べて目立って多くなっています。また、「関係機関の紹介（情報提供）」（17.3%）と「災害時などの緊急時の支援」（25.0%）の割合も全体値に比べて若干多くなっています（図3-9-4）。

図3-9-4 町内福祉委員会の認知度別「困っている世帯にできること」



(10) 地域の人たちに支援してほしい事項（問 24）

問 24 あなた自身やあなたのご家族が、介護や病気、子育てなどで困った時、A欄に示したようなことを、地域の人たちに支援してほしいですか。

（○は3つまで・ない場合は1 2.に○）

要点

「日ごろの声かけ・見守り」の割合が 36.5%と最も多く、次いで「災害時などの緊急時の支援」(24.8%)、「介護の相談」(20.0%) が多くなっています。支援してほしい”（需要）と“地域で困っている世帯にできること”（供給）との間には隔たりが認められます。

全体

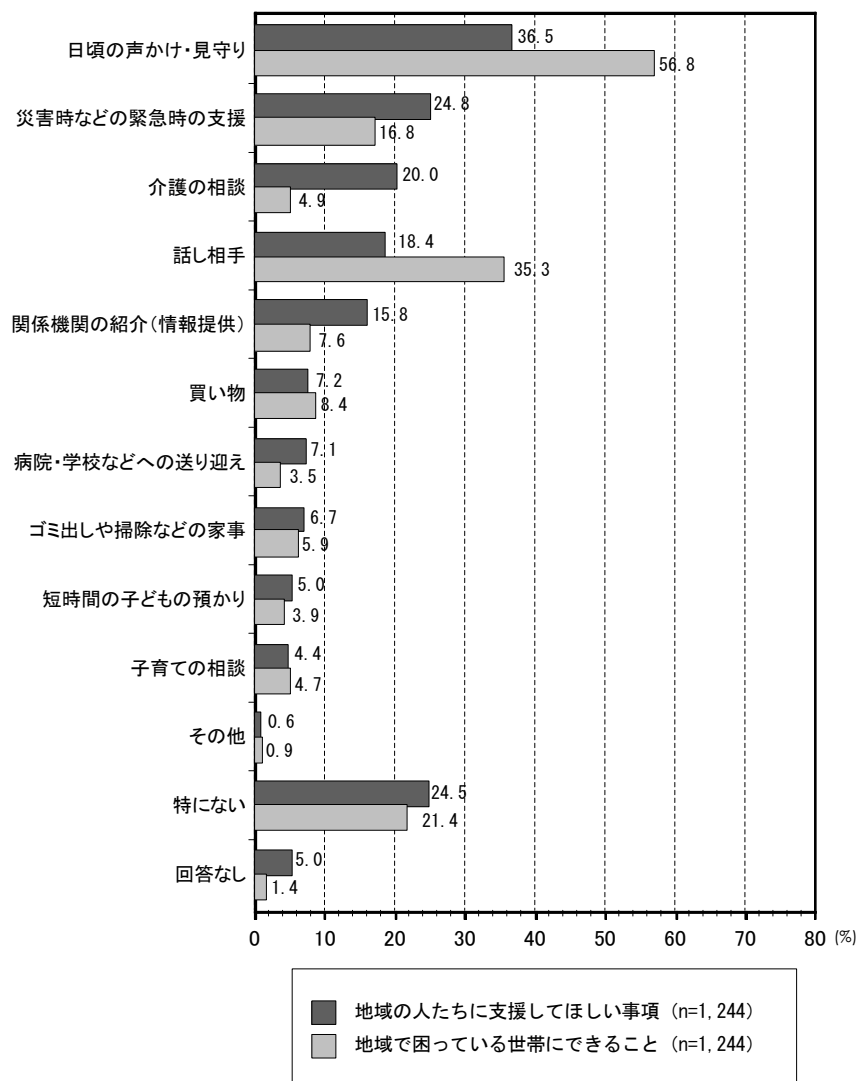
○「日ごろの声かけ・見守り」の割合が 36.5%と最も多く、次いで「災害時などの緊急時の支援」(24.8%)、「介護の相談」(20.0%)、「話し相手」(18.4%)、「関係機関の紹介(情報提供)」(15.8%)の割合が多くなっています。

○問 23 の「地域で困っている世帯にできること」の結果と比較すると、「日ごろの声かけ・見守り」や「話し相手」については、“支援してほしい”よりも“地域で困っている世帯にできること”の方が、それぞれ 20.3 ポイント、16.9 ポイント上回っています。

○逆に、「介護の相談」や「関係機関の紹介(情報提供)」、「災害時などの緊急時の支援」については、“支援してほしい”の方が“地域で困っている世帯にできること”よりもそれぞれ 15.1 ポイント、8.2 ポイント、8.0 ポイント上回っています。

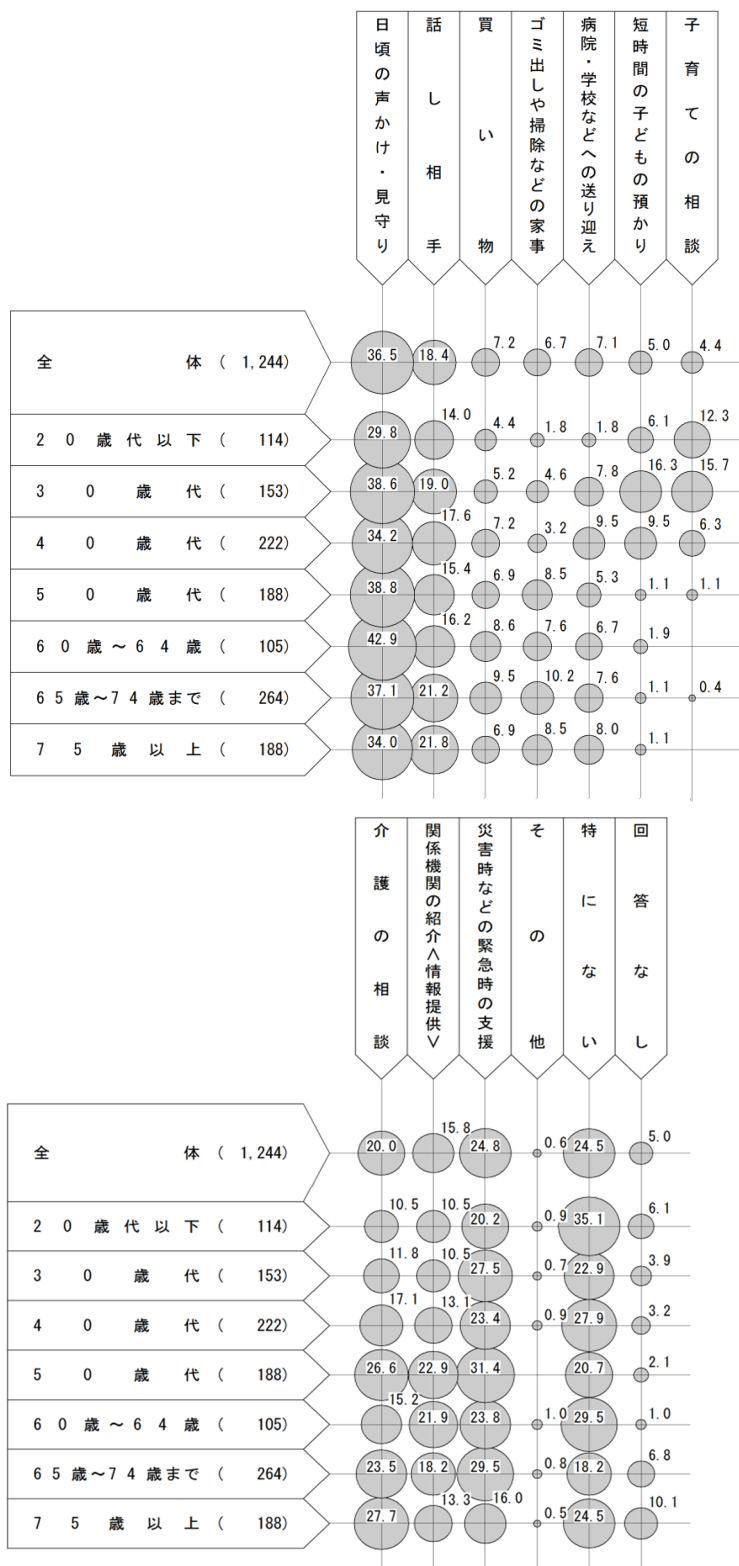
○このように、項目によっては“支援してほしい”（需要）と“地域で困っている世帯にできること”（供給）との間には隔たりがみられます（図 3-10-1）。

図 3-10-1 「地域の人たちに支援してほしい事項」（問 23 困っている世帯にできることとの比較）



- 「日ごろの声かけ・見守り」の割合は、60歳～64歳で全体値に比べて若干多くなっています。
- 「災害時などの緊急時の支援」の割合は、50歳代（31.4%）で若干多くなっています。
- 「介護の相談」の割合は、要支援・要介護のリスクを抱える年齢層にあたる75歳以上（27.7%）とその子どもの世代にあたる50歳代（26.6%）で若干多くなっています。
- また、30歳代において「短時間の子どもの預かり」（16.3%）と「子育ての相談」（15.7%）の割合が他の年齢層に比べて多くなっているのが特徴としてみられます。
- なお、「特にない」の割合は20歳代以下（35.1%）で多くなっています（図3-10-2）。

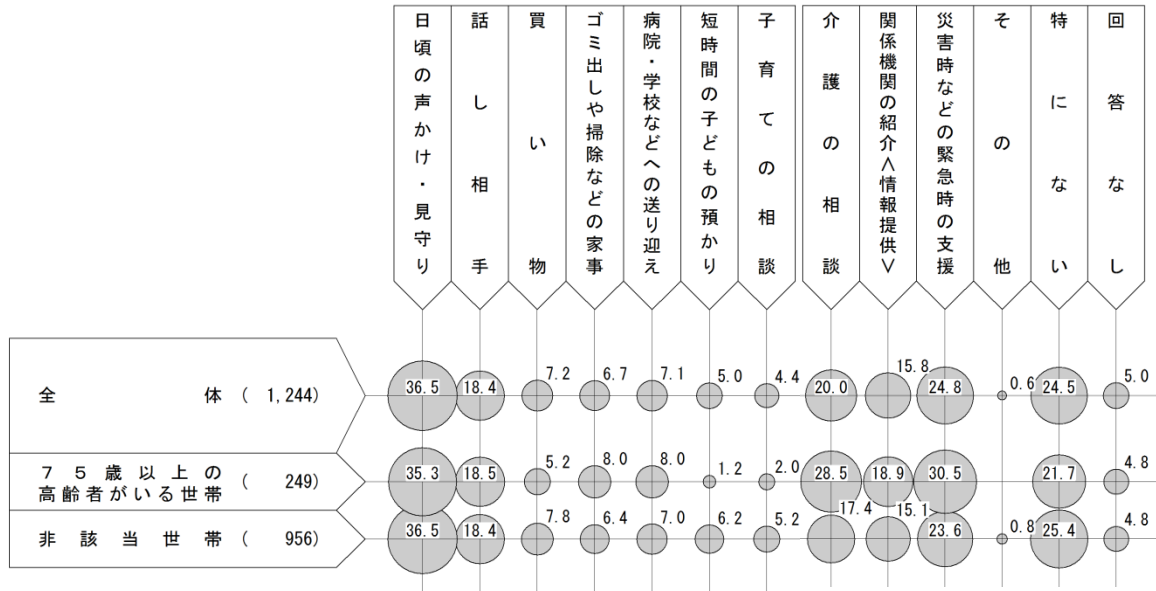
図3-10-2 年齢別「支援してほしい事項」



75 歳以上の高齢者がいる世帯別

○75 歳以上の高齢者がいる世帯の方が非該当世帯（そうでない世帯）よりも「介護の相談」（28.5%）と「災害時などの緊急時の支援」（30.5%）の割合が多くなっています（図 3-10-3）。

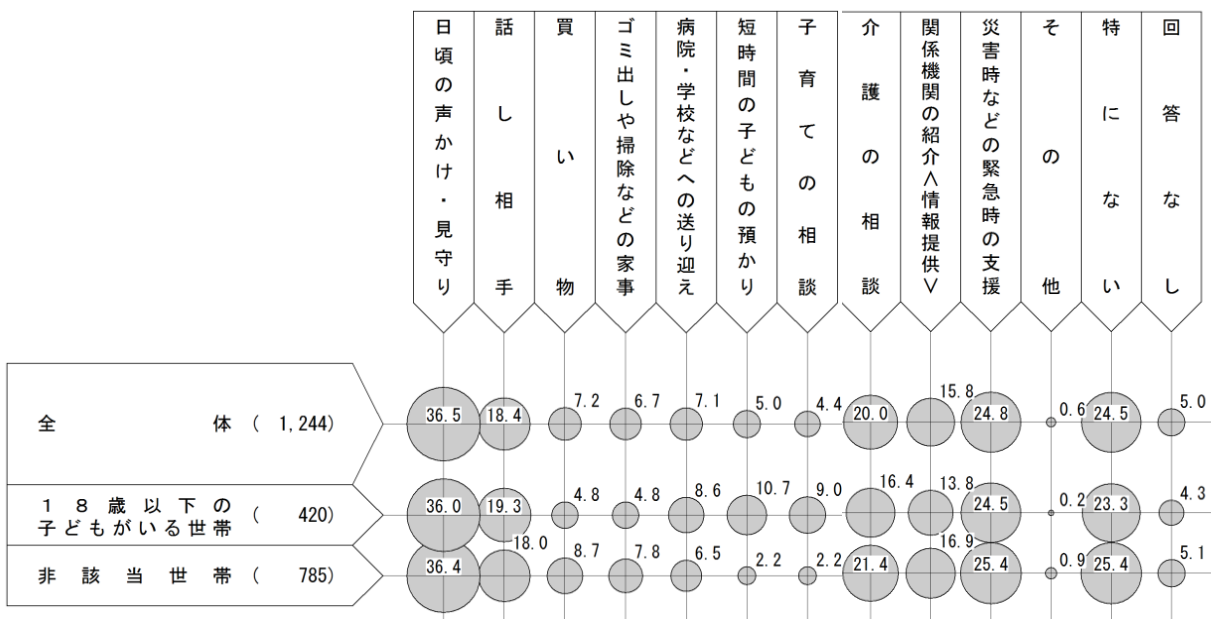
図 3-10-3 75 歳以上の高齢者がいる世帯別「支援してほしい事項」



18 歳以下の子どもがいる世帯別

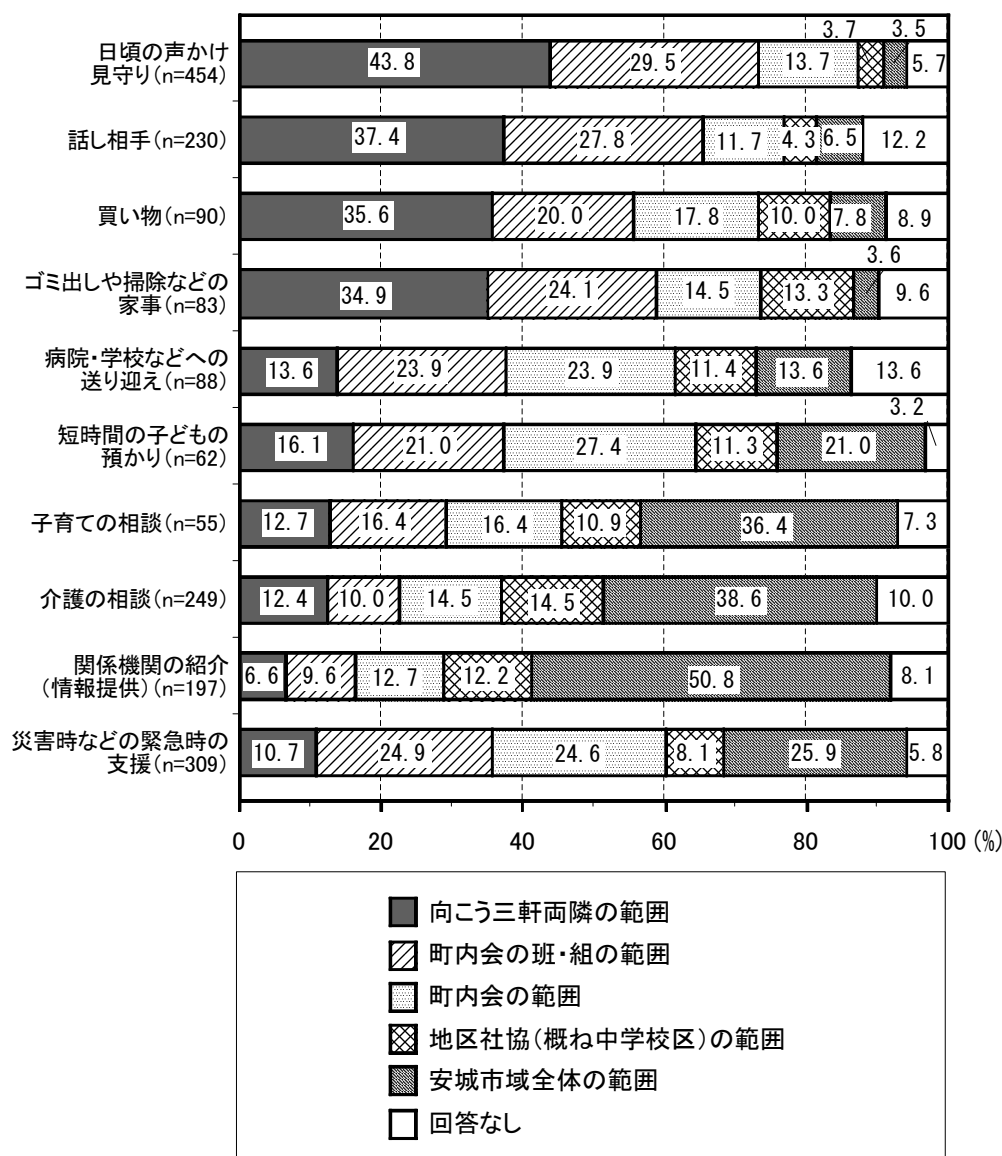
○18 歳以下の子どもがいる世帯と非該当世帯（そうでない世帯）とでは、大きな差は認められません（図 3-10-4）。

図 3-10-4 18 歳以下の子どもがいる世帯別「支援してほしい事柄」



- 「日ごろの声かけ・見守り」や「話し相手」、「買い物」、「ごみ出しや清掃などの家事」については、いずれも「向こう三軒両隣の範囲」の割合が最も多く、次いで「町内会の班・組の範囲」の割合が多くなっています。
- 「向こう三軒両隣の範囲」の割合と「町内会の班・組の範囲」を合わせた割合は、「日ごろの声かけ・見守り」では73.3%、「話し相手」では65.2%、「買い物」では55.6%、「ごみ出しや清掃などの家事」では59.0%となっており、半数を超える人が最も身近な地域での支援を望んでいます。
- 「病院・学校などへの送り迎え」と「短時間の子どもの預かり」については、どちらも「町内会の範囲」が最も多く、次いで「町内会の班・組の範囲」が多く、両者を合わせた割合はそれぞれ、47.8%、48.4%と、半数近くの人が比較的身近な地域での支援を望んでいます。また、「短時間の子どもの預かり」については、「安城市全体の範囲」が21.0%と、「町内会の班・組の範囲」と同じ割合を占めている特徴としてみられます。
- 「関係機関の紹介（情報提供）」と「介護の相談」、「子育ての相談」については、いずれも「安城市全体の範囲」の割合がそれぞれ、50.8%、38.6%、36.4%を占めています（図3-10-5）。
- 安城市の場合、地域包括支援センターによる介護相談をはじめとした福祉関連の相談窓口の多くは、地区社協（中学校区）単位で開設されていますが、それが市民にはあまり浸透していない状況がうかがえる結果になっています。

図 3-10-5 「地域の人たちに支援してほしい事項の地域の範囲」



(11) 困ったときに頼りになる知人・友人の有無（問 25）

問 25 困ったときに頼りになる（悩みを相談したり助けてと言ったりできる）知人・友人はいますか。
お住まいの地域、市内、市外それぞれについてお答えください。
（○はそれぞれ1つ）

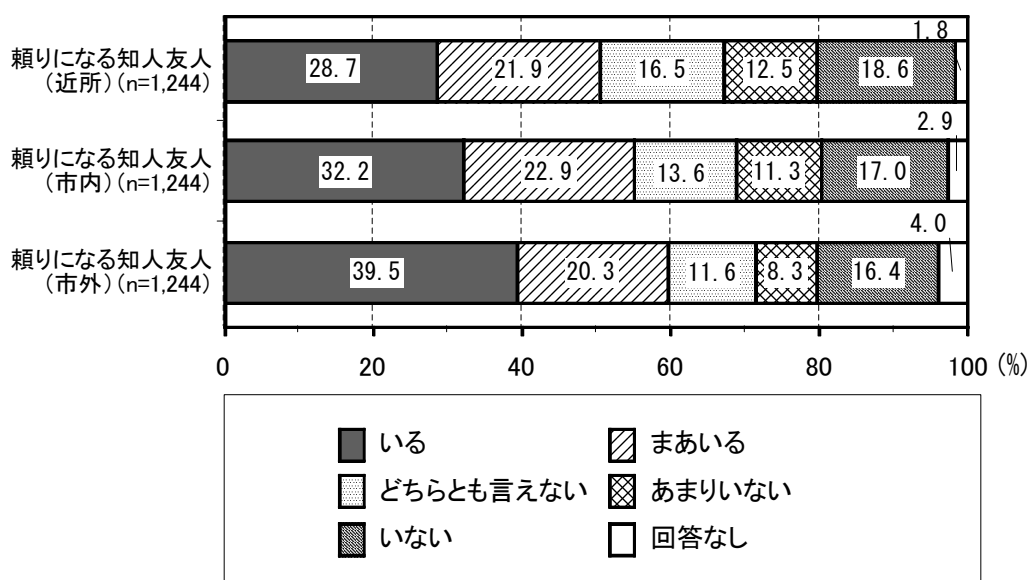
要点

困ったときに頼りになる知人・友人が「いる」と「まあいる」を合わせた割合は、「近所」では50.6%、「市内」では55.1%、「市外」では59.8%を占めています。困ったときに頼りになる知人・友人の範囲は、日常的な生活範囲（行動範囲）に影響を受けるような結果となっています。

全体

○困ったときに頼りになる知人・友人が「いる」という人の割合は、「近所」では28.7%、「市内」では32.2%、「市外」では39.5%となっています。「まあいる」の割合と合わせると、「近所」では50.6%、「市内」では55.1%、「市外」では59.8%となっており、「近所」よりも「市内」の割合、「市内」よりも「市外」の割合の方が多くなっています（図3-11-1）。

図3-11-1 「困ったときに頼りになる知人・友人の有無（近所・市内・市外）」



- 困ったときに頼りになる知人・友人が「いる」と「まあいる」を合わせた割合は、20歳代以下では、「近所」(50.0%)よりも「市内」(64.9%)の方が、さらには、「市外」(71.9%)の方が多くなっています。
- 同様に「近所」<「市内」<「市外」という傾向は、30歳代や40歳代、50歳代でもみられ、30歳代では52.3%→59.4%→77.1%、40歳代では47.3%→56.3%→64.4%、50歳代では41.5%→48.4%→61.2%となっています。
- 60歳～64歳では50.5%→50.4%→53.3%（「近所」≒「市内」<「市外」）となっています。
- 65歳～74歳では54.1%→53.0%→53.4%（「近所」≒「市内」≒「市外」）となっています。
- 75歳以上では58.0%→59.9%→34.1%（「近所」≒「市内」>「市外」）となっています。
- このように、困ったときに頼りになる知人・友人の範囲は、日常的な生活範囲（行動範囲）に影響を受けるような結果となっています（図3-12-2～4）。
- また、65歳～74歳の前期高齢者や75歳以上の後期高齢者でも、近所に頼りになる知人・友人が「いない」という人が、それぞれ13.6%、16.0%いる状況は看過することができません。

図3-12-2 年齢別「困ったときに頼りになる知人・友人の有無（近所）」

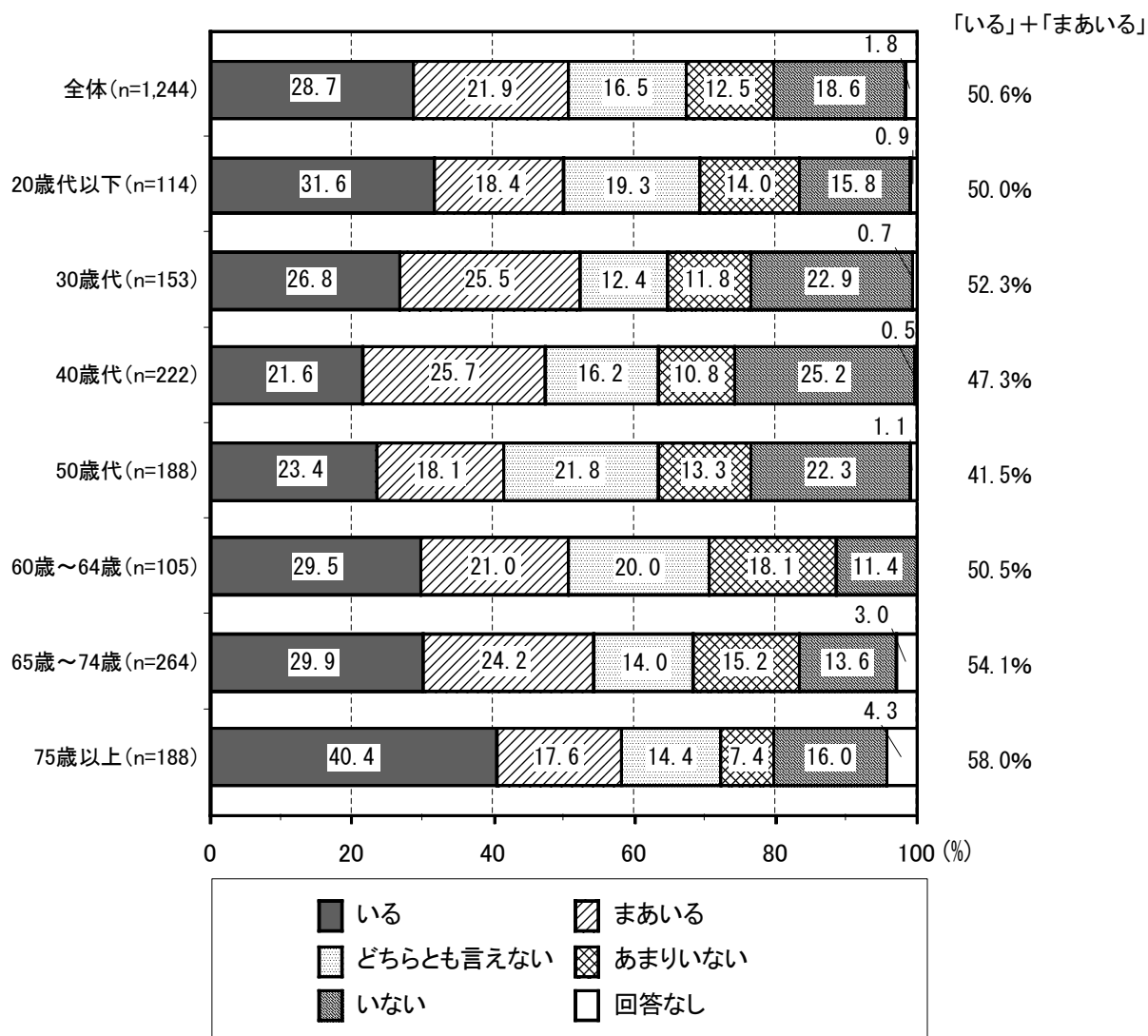


図 3-12-3 年齢別「困ったときに頼りになる知人・友人の有無（市内）」

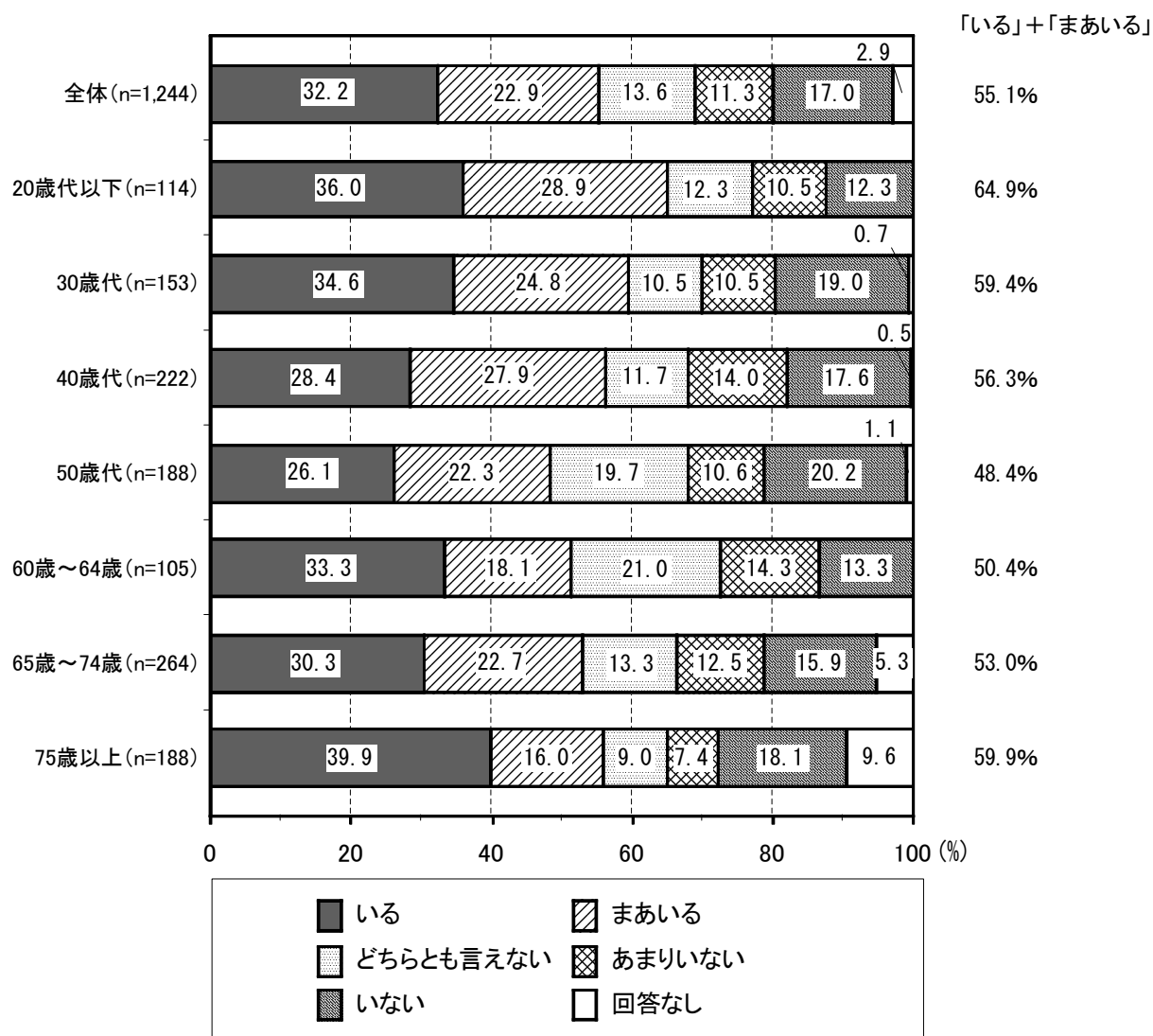
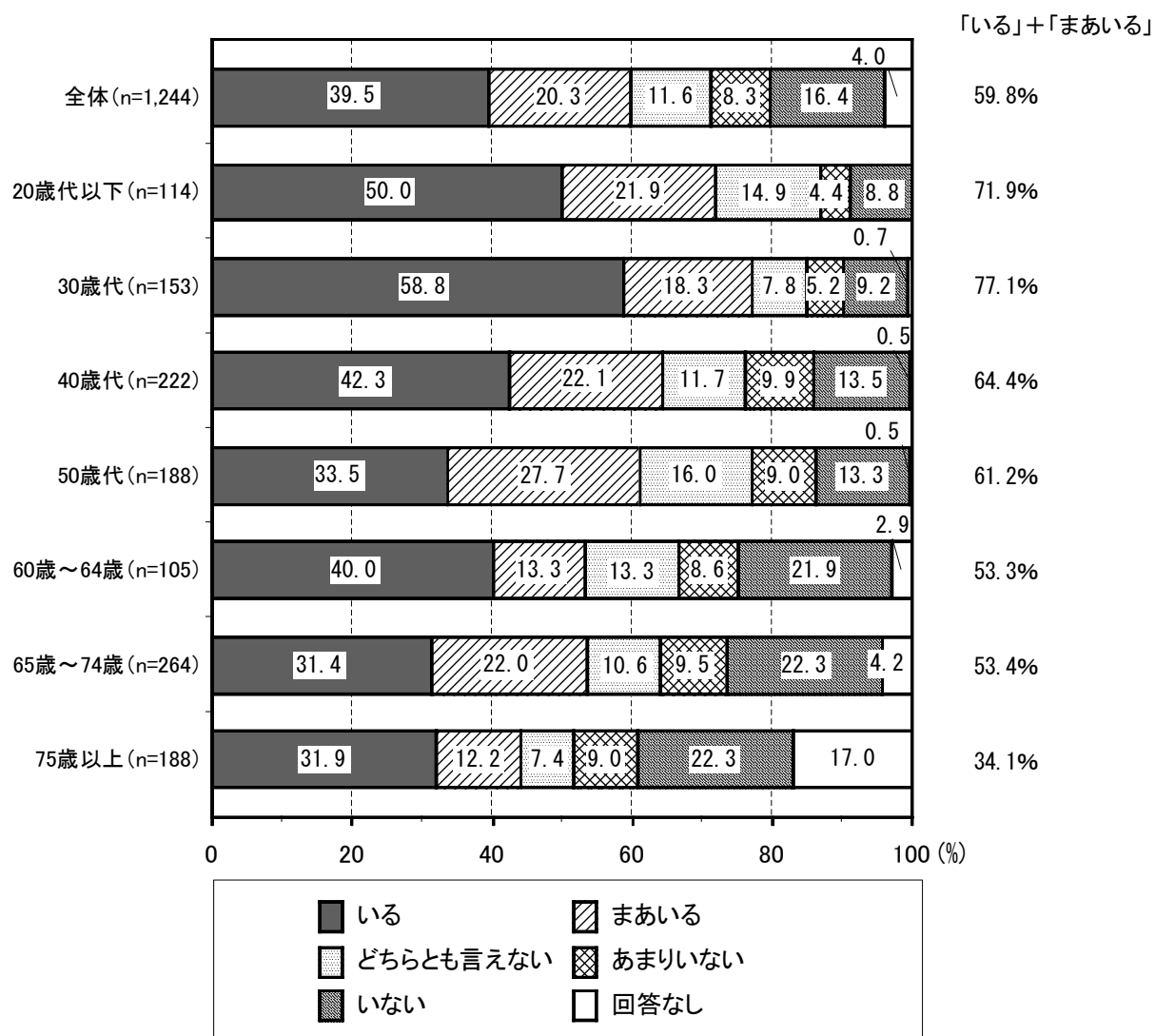
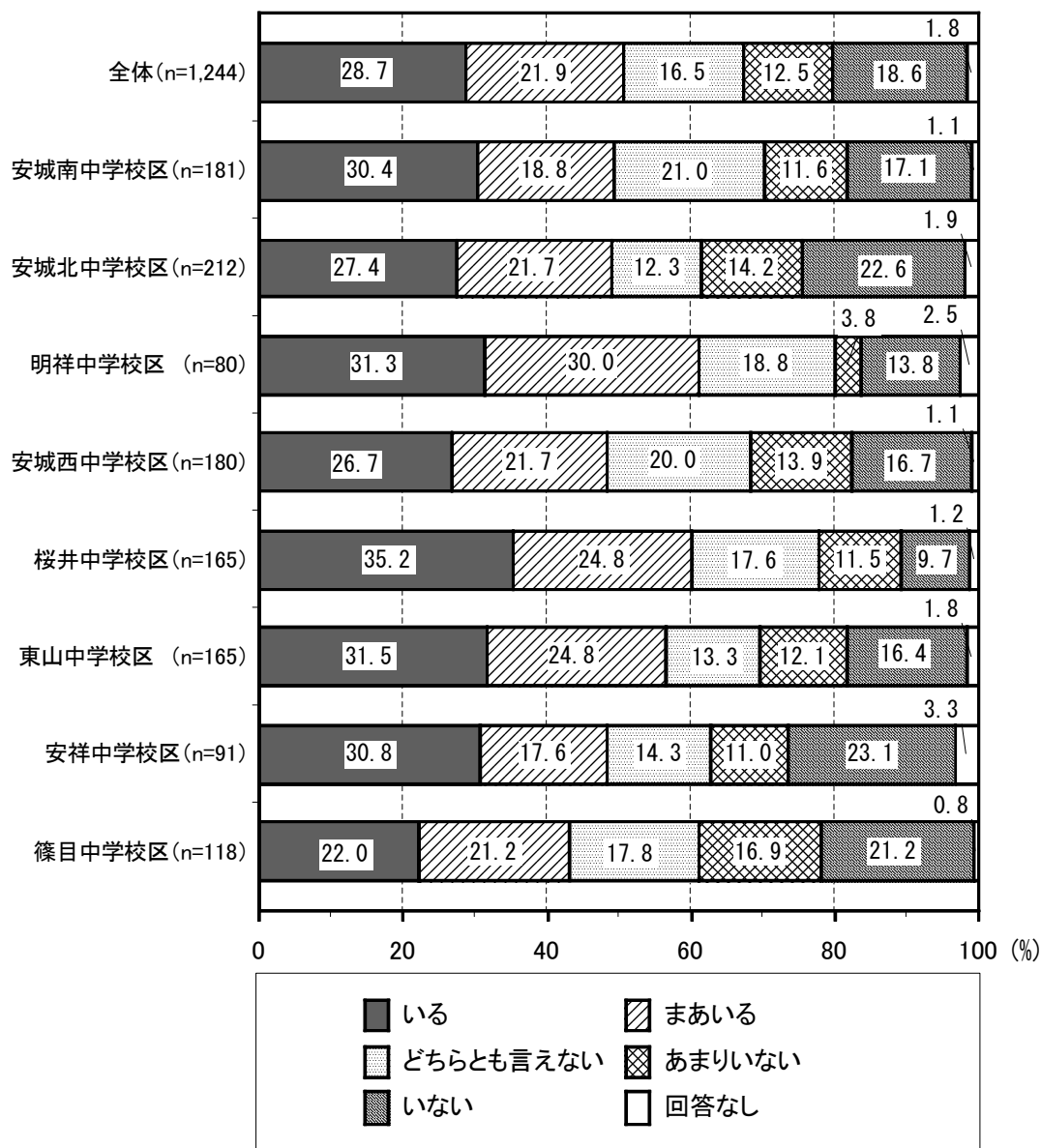


図 3-12-4 年齢別「困ったときに頼りになる知人・友人の有無（市外）」



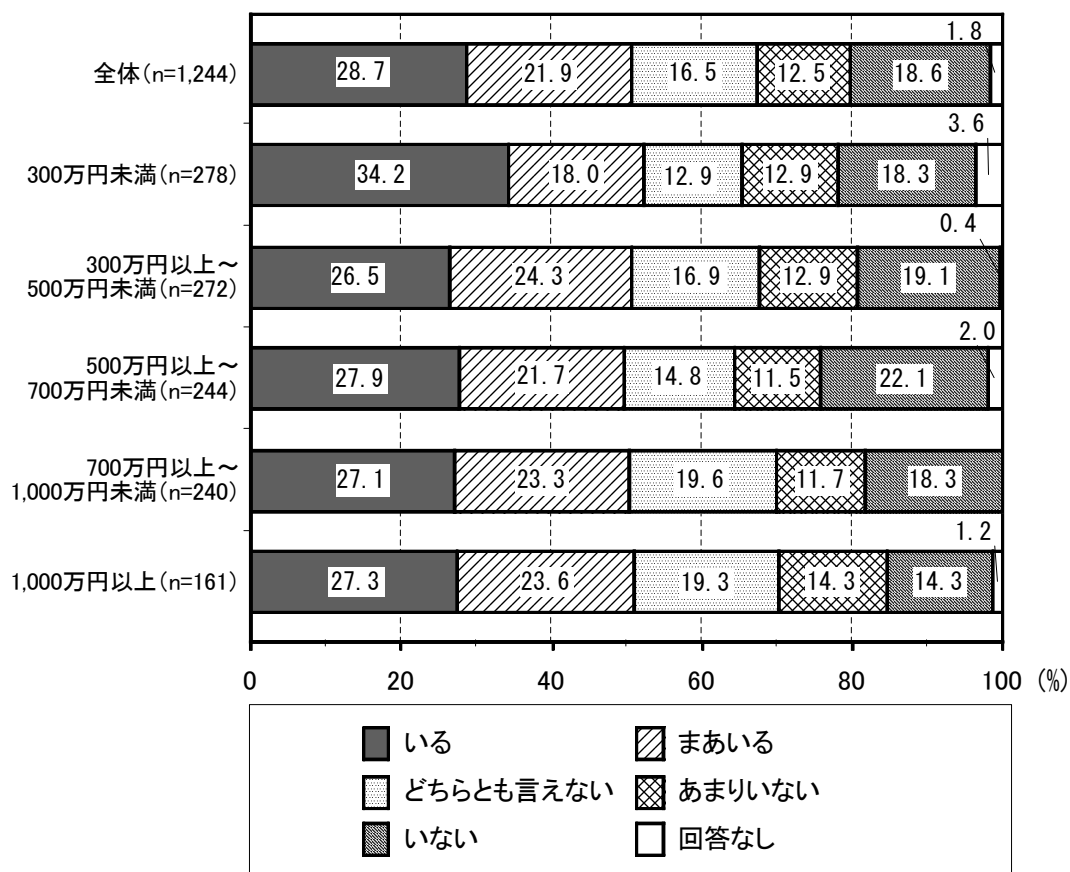
○中学校区別に困ったときに頼りになる知人・友人の有無（近所）についてみると、困ったときに頼りになる知人・友人が「いる」と「まあいる」を合わせた割合は、明祥中学校区（61.3%）と桜井中学校区（60.0%）で他の中学校区と比べて多くなっていますが、篠目中学校区（43.2%）で他の中学校区と比べて少なくなっています（図 3-12-5）。

図 3-12-5 中学校区別「困ったときに頼りになる知人・友人の有無（近所）」



○世帯年収別に中学校区別に困ったときに頼りになる知人・友人の有無（近所）についてみると、全般的に世帯年収による大きな差はみられませんが、低所得世帯にあたる 300 万円未満の世帯で「いる」の占める割合が若干多くなっています。一方で、低所得世帯にあたる 300 万円未満の世帯でも「いない」（18.3%）が2割程度占めていることは看過できません（図 3-12-6）。

図 3-12-6 世帯年収別「困ったときに頼りになる知人・友人の有無（近所）」



○近所・市内・市外のいずれにも困ったときに頼りになる知人・友人が全く「いない」という人は、7.3%います。しかも、孤立化のリスクを抱えている「65歳以上の高齢单身世帯・高齢夫婦世帯」で「いない」という人が12.3%を占めていることは看過できません（図3-12-7）。

図3-12-7 65歳以上の高齢单身世帯・高齢夫婦世帯別
「困ったときに頼りになる知人・友人の有無（近所・市内・市外）」

